

“Zoom-Zoom” …

それは英語で「ブー、ブー」という車の走行音をあらわす、子供言葉です。

誰でも、子供の頃は、動くことに対するあこがれがありました。

車のエンジン音が響くと、ドキドキする感じ。

カラダがビュンビュン流れる時の、快感。

めまいがするようなうれしさ。

きっと、みんな知っていたはずです。

でも、大人になると、ちょっと忘れていたりする。

それを、マツダは忘れません。

それが、私たちの“Zoom-Zoom”の意味。

小さい時に知っていた、

ウズウズするような走る喜びを忘れていない皆様のために、

素晴らしいクルマを作り続けます、という

私たちの新しいブランド・パーソナリティのコア・エッセンスです。

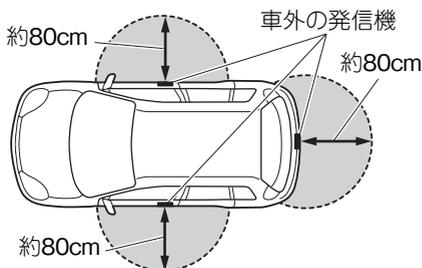
運転する前に

アドバンストキー

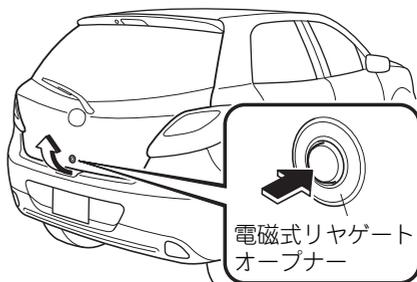
●アドバンストキーの作動範囲

ドア、リヤゲートの施錠/解錠

○の範囲で操作ができます。



●ドア、リヤゲートの施錠/解錠



リクエストスイッチを押して施錠/解錠
できます。

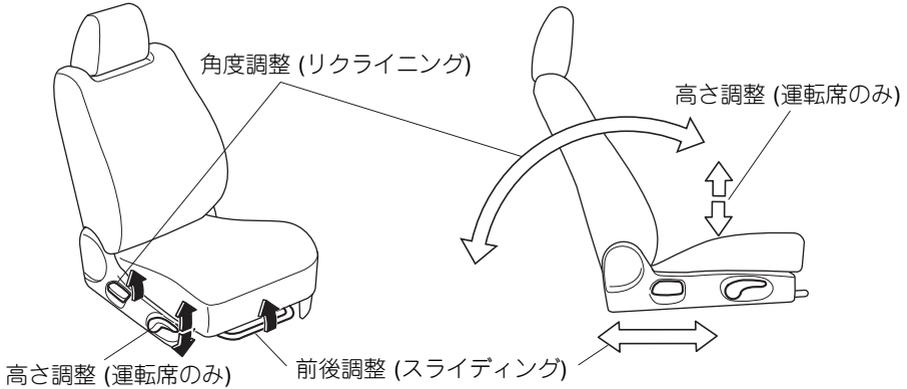
	施錠時	解錠時
非常点滅灯/ チャイム	1回作動	2回作動

電源ポジションがONのときは、以下の条件が揃ったときのみリヤゲートを開けることができます。

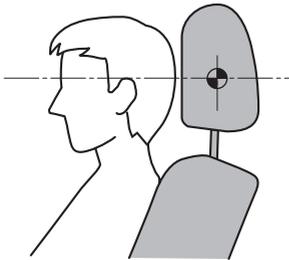
- ・車両が停止しているとき
- ・パーキングブレーキがかかっている (マニュアル車) か、セレクトレバーがPの位置にある (オートマチック車) とき

シート、ヘッドレスト、シートベルト、ハンドル、ミラーの調整

● シート



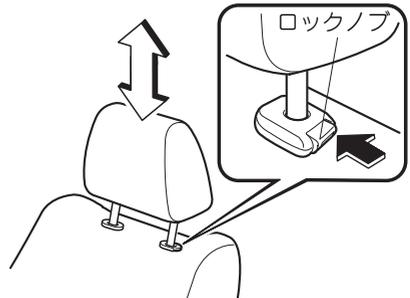
● ヘッドレスト



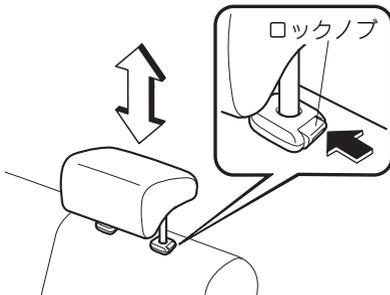
ヘッドレストの中央が、耳の上部と同じ高さになるように調整してください。

フロントシート

- 高くするとき
そのまま引き上げます。
- 低くするとき
ロックノブを押したまま下げます。



リヤシート



- 使用するとき
ロック位置まで引き上げます。
- 使用しないとき
ロックノブを押したまま下げます。

運転する前に

● シートベルト

ベルトが首、あご、顔などにあたらず、肩に十分かかるようにします。

上体を起こし、シートに深く腰かけます。

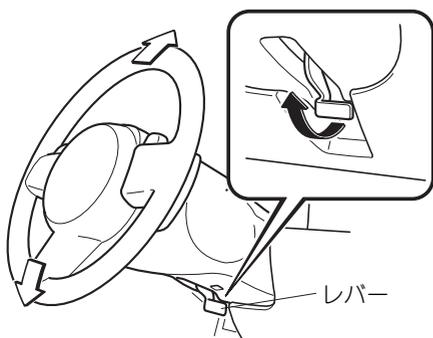
ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



ベルトにねじれがないか確認します。

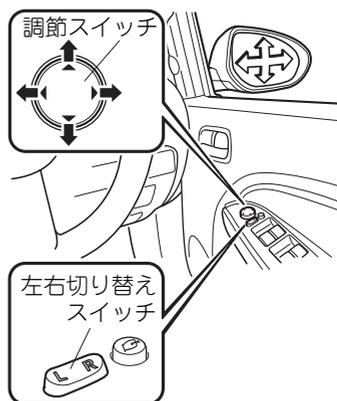
● ハンドル

レバーを持ち上げて、ハンドルを適切な位置に調節し、調節後は、レバーを下げて固定します。

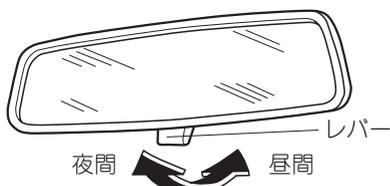


● ドアミラー

- 1 左右切り替えスイッチを押します。
- 2 調節スイッチを押して、角度を調節します。



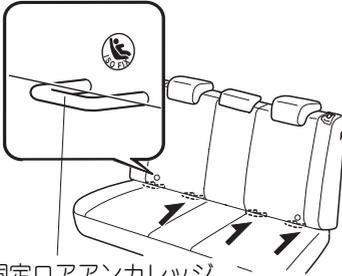
● ルームミラー



夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いて切り替えます。

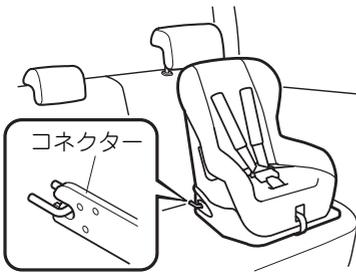
ISOFIX対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

- ・リヤシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
- ・お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使用してください。選択の目安表は本文を参照してください。



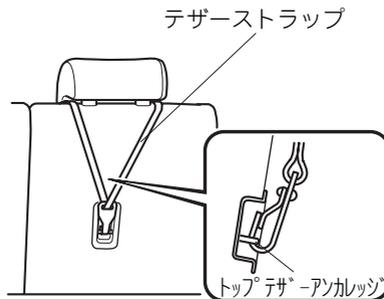
固定ロアアンカレッジ

- 1 お子さま専用シートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
- 2 フロントおよびリヤシートが確実に固定されていることを確認してください。
- 3 リヤシートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。



- 4 ヘッドレストを引き上げます。
- 5 チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。

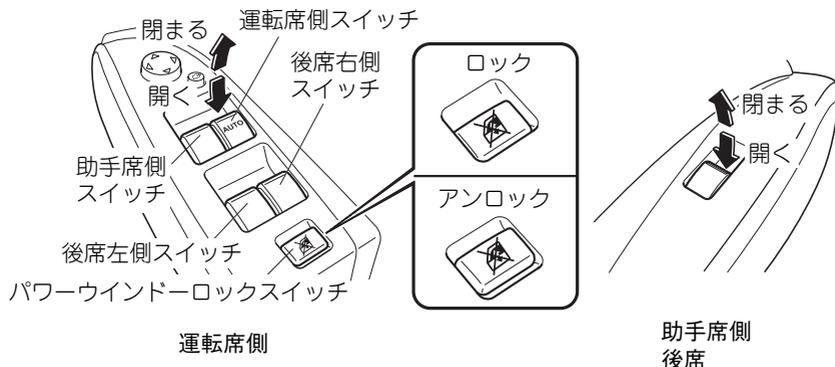
- 6 チャイルドシートのテザーストラップを下記イラストのように通して、トップテザーアンカレッジにかけます。



- 7 テザーストラップがたるまないように調節します。
- 8 チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

運転する前に

窓ガラスの開閉



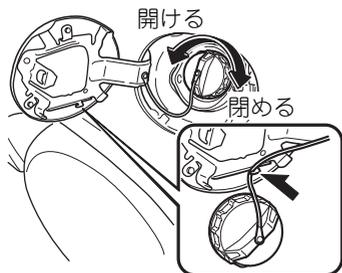
スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。
助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウィンドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。

給油するとき

使用燃料		無鉛レギュラーガソリン
タンク容量 (参考値)	SKYACTIV-G 1.3	35L
	MZR 1.3, MZR 1.5	41L

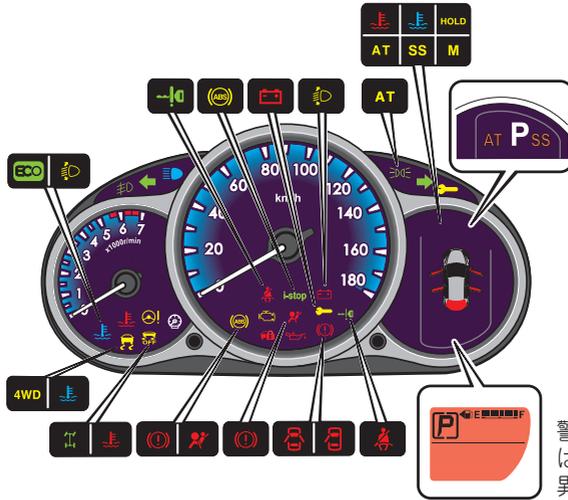


1 運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引くとフューエルリッドが開きます。



2 取りはずしたキャップはフューエルリッドの内側にかけます。
キャップを閉めるときは、カチッ、カチッと2回以上音がするまで締め付けてください。

警告灯/表示灯配置図



警告灯/表示灯の位置はグレードによって異なります。

(!)	ブレーキ警告灯	KEY警告灯 (赤)
🔑	故障警告表示灯	KEY表示灯 (緑)
(ABS)	ABS警告灯	🚗 TCS/DSC作動表示灯
🔋	充電警告灯	🚗 OFF DSC OFF表示灯
🛢️	油圧警告灯	💡 ヘッドランプオートレベリング警告灯
🔥	エンジン警告灯	🌡️ 低水温表示灯 (青)
🌡️	高水温警告灯 (赤)	ECO ECO表示灯
i-stop	i-stop警告灯 (橙)	HOLD ホールドモード表示灯
	i-stop表示灯 (緑)	🚗 P セレクトレバー位置表示灯
4WD	4WD警告灯	12-P SSモード表示灯
AT	オートマチックトランスミッション警告灯	M マニュアルモード表示灯
🚘	電動パワーステアリング警告灯	🚗 4WD表示灯
🧑	エアバッグ警告灯/ プリテンショナー警告灯	🚗 ヘッドランプ上向き表示灯
🧑	シートベルト警告灯	🚗 方向指示/非常点滅表示灯
🚗	半ドア警告灯	🚗 セキュリティ表示灯
🚗		🚗 車幅灯表示灯
🚗		🚗 フォグランプ表示灯

運転するときに

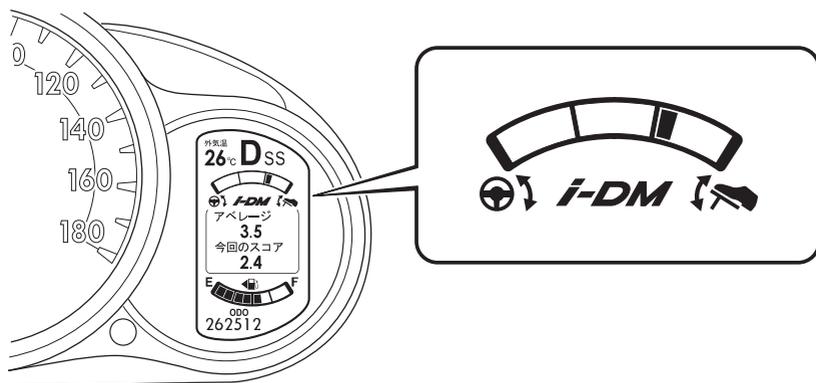
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)

● i-DMとは

「i-DM」はマツダ車の「走る喜び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽やかなドライブを楽しめるようになる運転技量の習得/向上をサポートします。

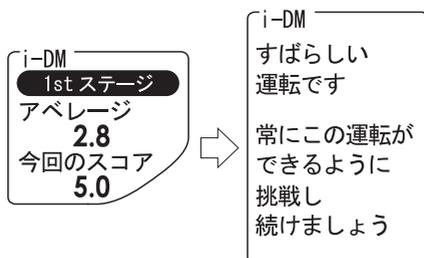
● インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージ

走行中の運転操作（アクセル、ブレーキ、ハンドル）の適正状態を診断し、ランプ及びゲージを通じてドライバーにリアルタイムに結果を知らせます。



● i-DM表示

運転終了後、電源ポジションをONからOFFにしたとき、今回のスコアとアベレージスコアを表示します。その後、今回のスコアに応じて、文字によるワンポイントアドバイスを一定時間表示します。（ティーチング機能）



運転するときに

運転操作の状況は、次のように表示されます。(コーチング機能)

ランプの種類	点灯パターン	内容
グリーンランプ 	点灯表示	やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。
ブルーランプ 		グリーンランプより少し大きめの枠になり、下側から上側へ流れるように点灯表示 しなやかな運転を示します。特に以下の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。 走行タイプ1 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。 走行タイプ2 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。
ホワイトゲージ 	揺れ 小  揺れ 大	ハンドル操作によって起こる体の横揺れを左側のゲージに3段階で点灯表示 体が揺れる運転を示します。やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまり良くない運転です。
	揺れ 小  揺れ 大	アクセル/ブレーキ操作によって起こる体の縦揺れを右側のゲージに3段階で点灯表示

運転するときに

i-stop (アイ・ストップ)

● i-stopとは

i-stopは燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで車両を停止させた時、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

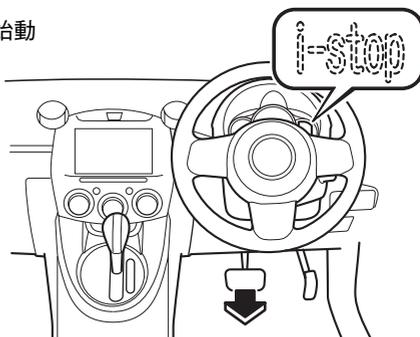
● アイドリングストップ・再始動

- 1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop表示灯 (緑) が点灯します。
- 2 走行状態 (Rレンジ以外) からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。(i-stop表示灯 (緑) はアイドリングストップ中も点灯します。)
- 3 ブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動し、i-stop表示灯 (緑) が消灯します。

アイドリングストップ



再始動



● i-stop表示灯/i-stop警告灯

i-stop表示灯 (緑)

i-stop

アイドリングストップ可能なおと、またはアイドリングストップ中に点灯します。
ブレーキペダルを強く踏まずに停車させると、アイドリングストップせず点滅します。

i-stop警告灯 (橙)

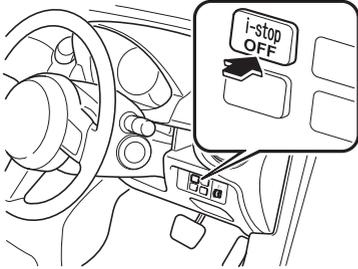
i-stop

電源ポジションをONにすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
i-stop OFFスイッチを押してシステムを解除すると点灯し、消灯します。

● i-stop警告チャイム

アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。

● i-stop OFFスイッチ



i-stopの解除

- ・スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
- ・メーター内のi-stop警告灯 (橙) は点灯します。

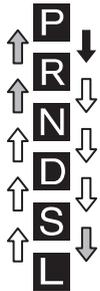
i-stopの作動

- ・スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけます。
- ・メーター内のi-stop警告灯 (橙) は消灯します。

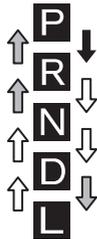
オートマチックトランスミッション

● セレクトレバーの操作

4EC-AT車



CVT車



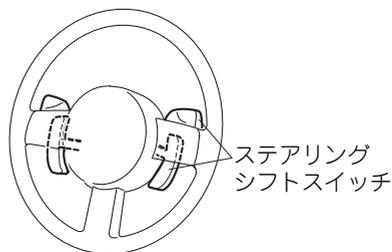
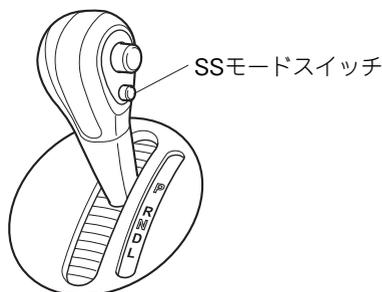
レバー操作	
➡	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
➡	セレクトレバーボタンを押して操作します。

運転するときに

●SSモード (Sports & Slope モード) [CVT車のみ]

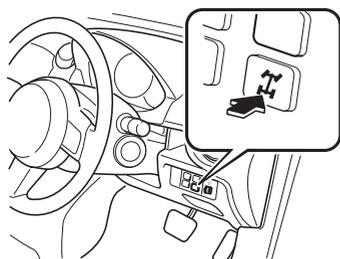
下り坂でエンジンブレーキが必要なときや、カーブの多い急な上り坂をなめらかに走行したいときに使用するモードです。セレクトレバーがDの位置のときにSSモードスイッチを押します。

SSモード中にステアリングシフトスイッチを操作すると、マニュアルモードになります。マニュアルモードは、ギヤ比が7段階あり、手動で切り替えることができます。



e-4WD

発進時や低速 (約20km/h以下) での加速時に、路面の状況に応じて後輪をモーターで駆動させる4WDシステムです。雪道や凍結路など滑りやすい路面での発進時に威力を発揮しますが、万能ではありません。

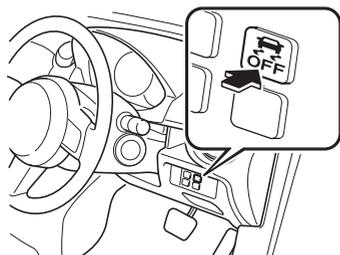


スイッチを押して、作動を切り替えることができます。

	4WD表示灯
4WDが作動可能な状態	点灯
4WDが作動しない状態	消灯

DSC (ダイナミック・スタビリティ・コントロール)

DSCは、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえ、車両の安定性を確保する装置です。DSCは約15km/h以上で作動可能な状態になります。



スイッチを押して、作動を切り替えることができます。

	DSC OFF表示灯
TCS/DSCが解除された状態	点灯
TCS/DSCが作動可能な状態	消灯

スイッチの使いかた

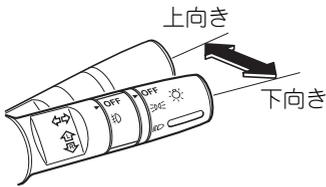
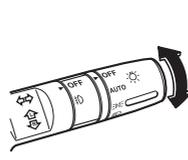
●ヘッドランプ/方向指示器

ヘッドランプ

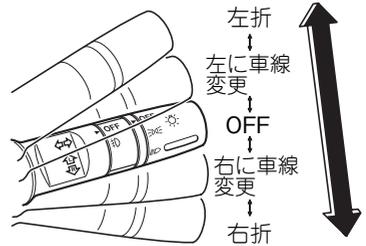
標準タイプ



オートライト機能付きタイプ



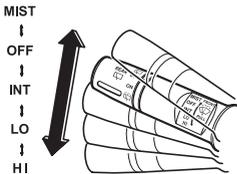
方向指示器



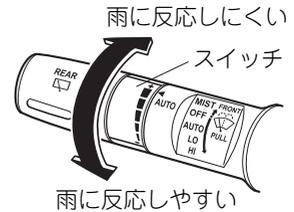
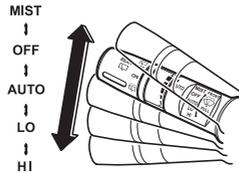
●ワイパー/ウォッシャー

フロントワイパー

標準タイプ

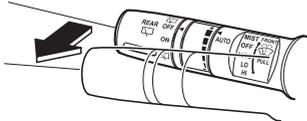


オートワイパー機能付きタイプ



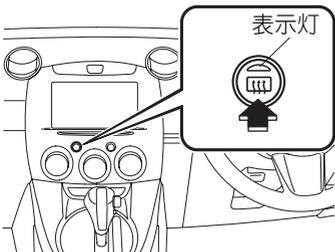
雨に反応しやすい

フロントウォッシャー



レバーをAUTO位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、ワイパーが自動で作動します。
スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

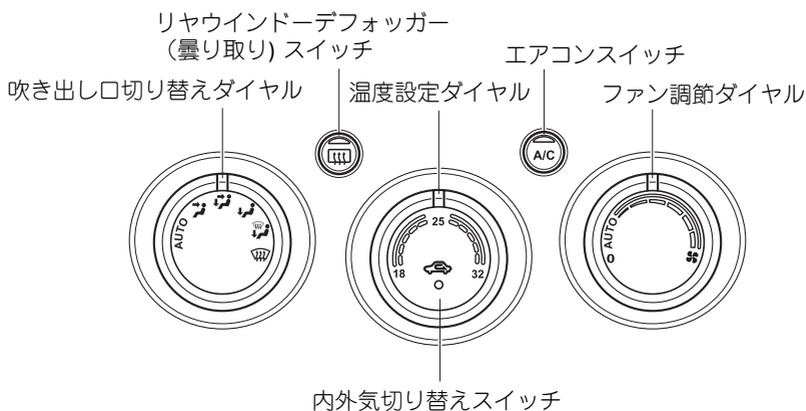
●リヤウインドーデフォグー (曇り取り) スイッチ



電源ポジションがONのとき使用でき、スイッチを押すと約15分間作動します。

快適装備の使いかた

フルオートエアコン

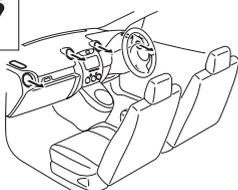


● 通常の使いかた

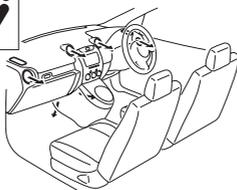
- 1 吹き出し口切り替えダイヤルをAUTOの位置にします。
- 2 内外気切り替えスイッチを外気導入 (表示灯消灯) にします。
- 3 ファン調節ダイヤルをAUTOの位置にします。
- 4 エアコンスイッチを押してエアコンを作動 (表示灯点灯) させます。
- 5 作動を停止したいときは、ファン調節ダイヤルを0の位置にします。

● 吹き出し口の選択

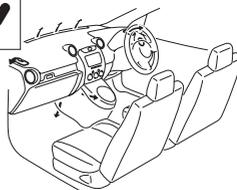
上半身に送風するとき



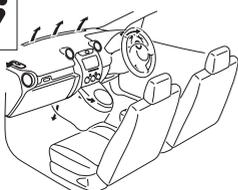
上半身、足元に送風するとき



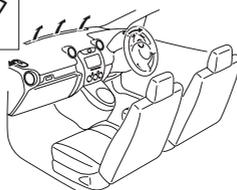
主に足元に送風するとき



足元への送風とガラスの曇り
を取るとき



ガラスの曇りを取るとき



日常点検

日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

● 運転席にすわって

- ・ ブレーキペダルの踏みしろ (踏み込んだときの床板とのすき間)
- ・ ブレーキの効き
- ・ パーキングブレーキの引きしろ
- ・ エンジンのかかり具合、異音
- ・ アイドリングおよび加速の状態

● エンジンルームをのぞいて

- ・ エンジンオイルの量
- ・ 冷却水の量
- ・ ウォッシャー液の量
- ・ ブレーキ液の量
- ・ バッテリー液の量

● 全体を見まわして

- ・ ウォッシャー液の噴射状態
- ・ ワイパーの払拭状態
- ・ 灯火装置および方向指示器の点灯または点滅具合、汚れ、破損
- ・ タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常磨耗、溝の深さなど

ランプ類、電気装置が作動しない

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。

まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。



トラブルが起きたら

パンクしたとき

交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動し、タイヤパンク応急修理キットを使用してください。

オーバーヒートしたとき

- 1 安全な場所に車を止めます。
- 2 エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。

エンジンルームから蒸気が出ているとき

エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待つ、ボンネットを開け、エンジンを始動してください。

エンジンルームから蒸気が出ていないとき

エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。電動ファンが作動していることを確認し、高水温警告灯 (赤) が消灯したらエンジンを止めます。

けん引について

けん引はできるだけマツダ販売店またはJAFなどに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店またはJAFなどに連絡してください。

警告灯/警報チャイム

警告灯が点灯・点滅、チャイムがなったときは、本文で詳細を確認してください。解決できない場合は、マツダ販売店に連絡してください。

目次

イラスト目次 2 ページ

詳細目次 6 ページ

1 運転する前に 11 ページ

運転する前に必要な操作と取り扱い

2 運転するときに 75 ページ

運転するときに必要な操作と取り扱い

3 快適装備の使いかた 161 ページ

ドライブをより快適にする装備の操作と取り扱い

4 お手入れのしかた 179 ページ

手入れの方法、真冬の取り扱いなど

5 トラブルが起きたら 223 ページ

車が故障したとき、事故にあったときの処置

車両スペック 264 ページ

さくいん 276 ページ

前運
に転
す
る

と運
転
に
す
る

使
室
内
方
装
備
の

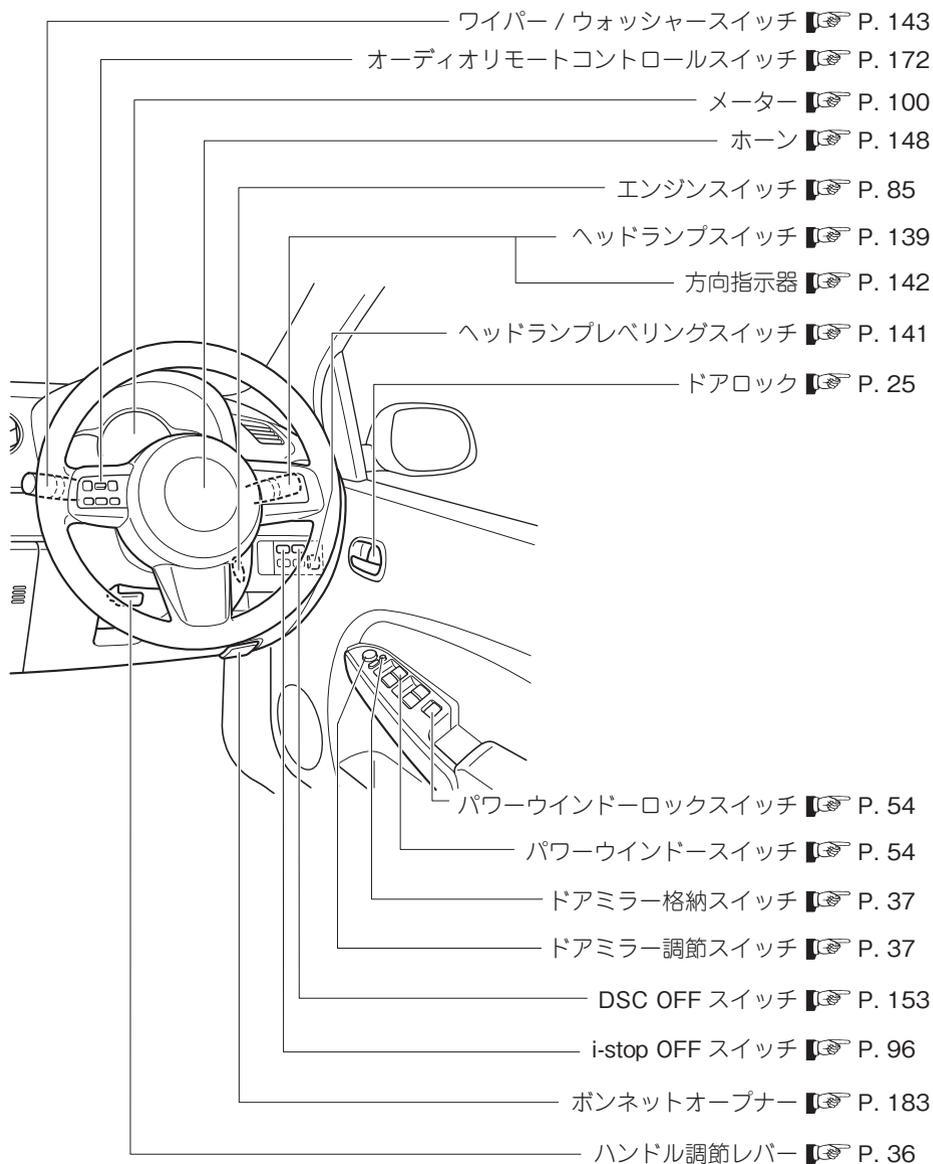
し
お
手
入
れ
の

起
ト
ラ
ブ
ル
が

車
輛
ス
ペ
ク

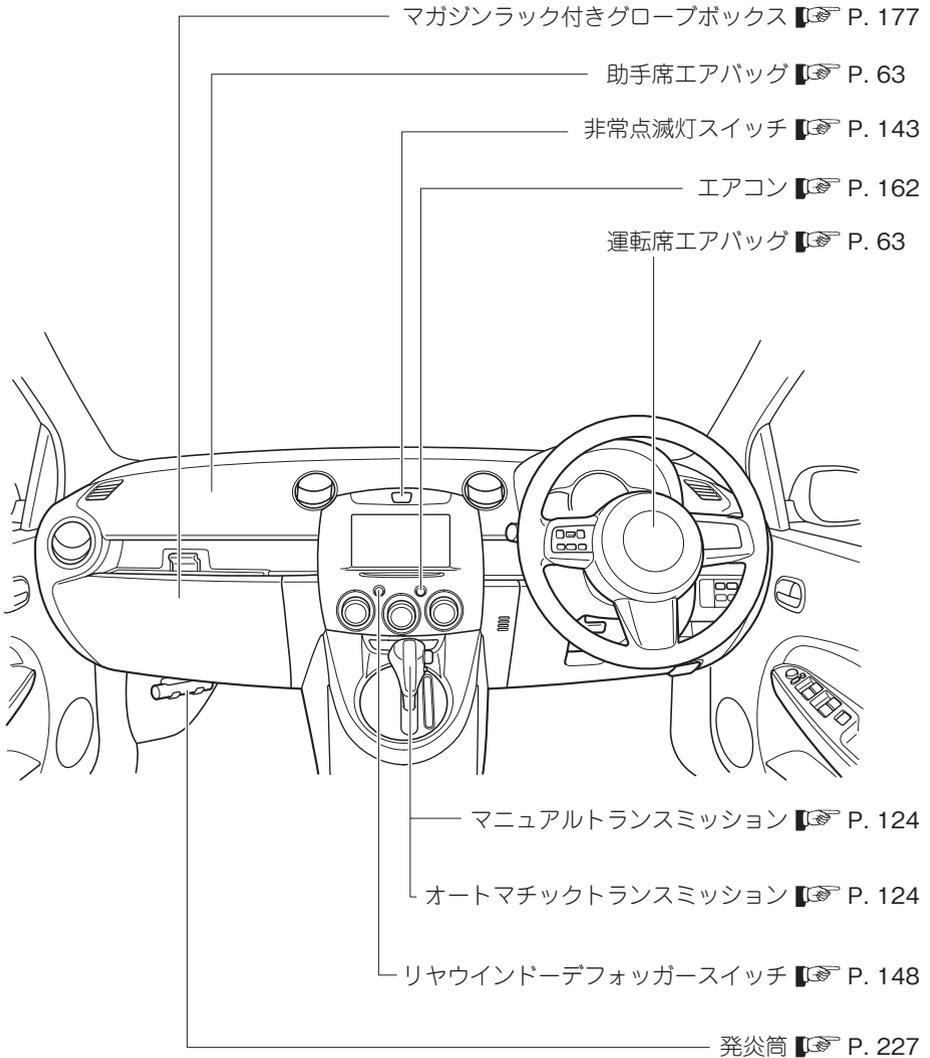
さ
い
ん

ハンドルまわり



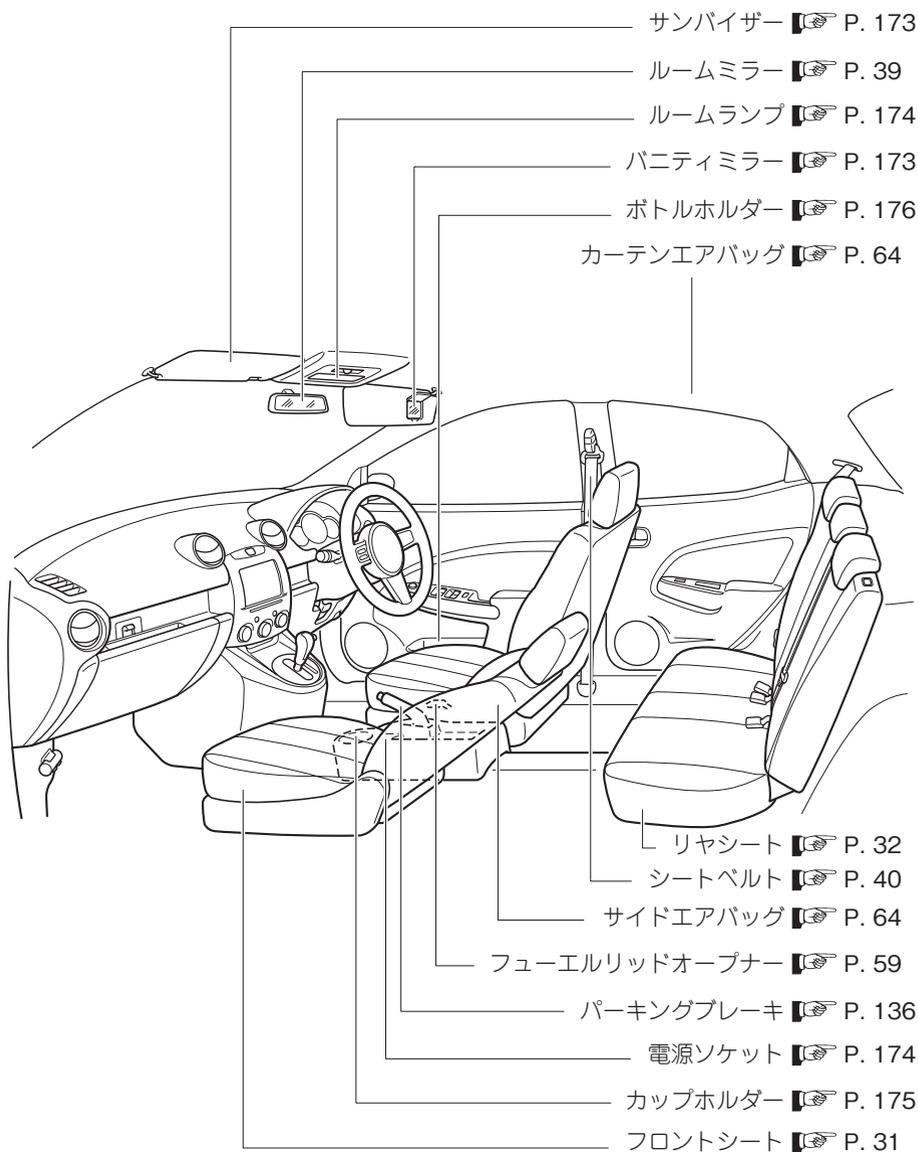
車両や仕様変更などにより、取り付け位置および装備が異なります。

運転席まわり



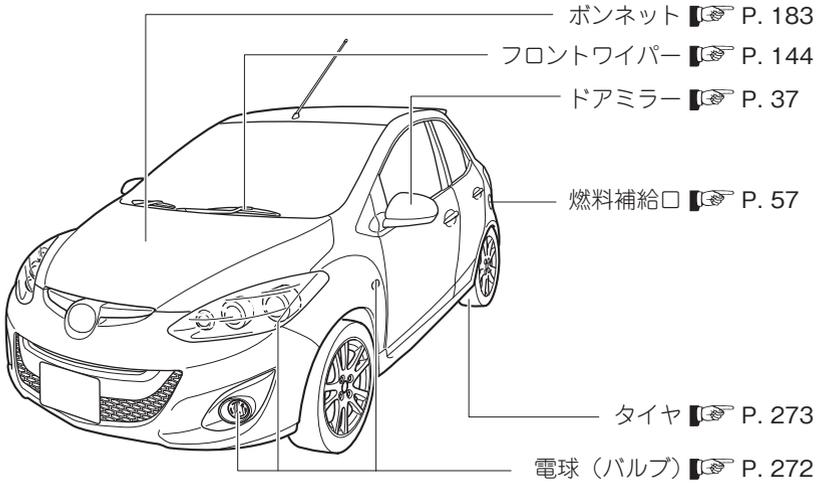
車両や仕様変更などにより、取り付け位置および装備が異なります。

室内



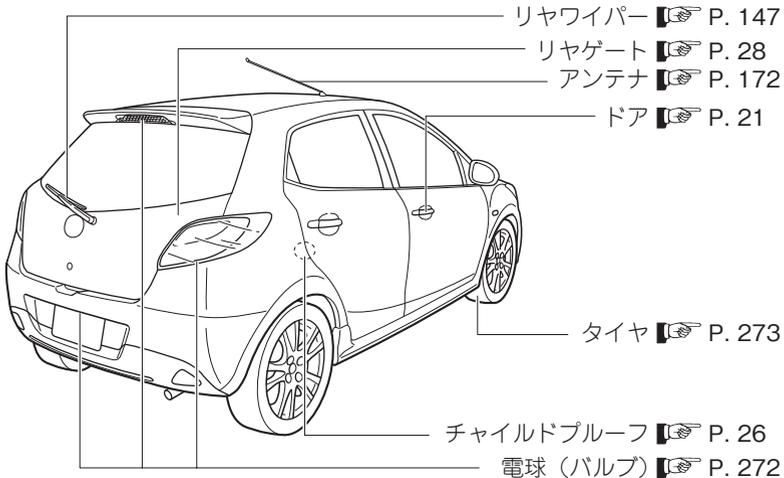
車両や仕様変更などにより、取り付け位置および装備が異なります。

フロント外観



車両や仕様変更などにより、取り付け位置および装備が異なります。

リヤ外観



車両や仕様変更などにより、取り付け位置および装備が異なります。

詳細目次

1 運転する前に

安全なドライブのために

12

お出かけ前に	12
お子さまを乗せるとき	13
安全装備について	14

キー

15

キーについて	15
--------------	----

ドア

21

ドアの開閉	21
-------------	----

リヤゲート

27

リヤゲートの開閉	27
----------------	----

シート

30

正しい運転姿勢	30
フロントシートの調節	31
リヤシートの操作	32
ヘッドレストの使いかた	34

ハンドル

36

ハンドルの調節	36
---------------	----

ドアミラー

37

ドアミラーの操作	37
----------------	----

ルームミラー

39

ルームミラーの操作	39
-----------------	----

シートベルト

40

シートベルトの種類	40
シートベルトの正しい着用の しかた	41
3点式シートベルト	45

お子さまの安全

47

お子さま専用シートについて	47
チャイルドシートを固定するとき ..	52

ウインドー

54

窓ガラスの開閉	54
---------------	----

燃料補給口

57

給油するとき	57
--------------	----

盗難防止システム

60

イモビライザーシステム	60
-------------------	----

SRS エアバッグシステム

63

SRS エアバッグシステムに ついて	63
エアバッグの種類	63
エアバッグの注意点	64

安全に運転をしていただく

74

ために	74
積雪、寒冷時の取り扱い	74

2 運転するときに

安全なドライブのために 76

運転するとき	76
運転装置について	78
こんなことにも注意	79
駐停車するとき	82
お子さまを乗せるとき	84

エンジンの始動と停止 85

電源ポジション (エンジンスイッチ)	85
エンジンの始動	86
エンジンの停止	90
i-stop について	91

メーター、警告灯、表示灯 の見方 100

メーター	100
警告灯、表示灯	113

トランスミッションの使い かた 124

マニュアルトランスミッション ..	124
オートマチック トランスミッション	124

ブレーキ 136

ブレーキの操作	136
---------------	-----

4WD 137

e-4WD について	137
------------------	-----

スイッチの使いかた 139

ヘッドランプスイッチ	139
方向指示器	142
非常点滅灯スイッチ	143
フォグランプスイッチ	143
ワイパー / ウォッシャースイッチ ..	143
リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ	148
ホーン	148

ABS について 149

ABS とは	149
--------------	-----

ヒルローンチアシスト (HLA) について 150

ヒルローンチアシスト (HLA) とは (i-stop 装備車)	150
---	-----

トラクションコントロール システム (TCS) について 151

TCS とは	151
--------------	-----

ダイナミック・スタビリ ティ・コントロール (DSC) について 152

DSC とは	152
--------------	-----

様々な状況での運転のとき は 155

悪天候での運転	155
---------------	-----

環境保護のために 157

経済的な運転	157
--------------	-----

3 快適装備の使いかた

空調 162

エアコンの上手な使いかた.....	162
吹き出し口.....	164
エアコンの種類.....	166
マニュアルエアコン.....	166
フルオートエアコン.....	168

オーディオ 172

アンテナ.....	172
オーディオリモートコントロールス イッチの操作.....	172

室内装備 173

サンバイザー.....	173
室内照明.....	173
電源ソケット.....	174
カップホルダー.....	175
ボトルホルダー.....	176
収納.....	176

4 お手入れのしかた

車と上手につきあうために 180

必ずまもる.....	180
------------	-----

点検、整備 181

点検整備について.....	181
定期点検.....	182
日常点検の前に.....	183
日常点検.....	185
e-4WDの整備.....	192
その他の手入れ.....	192

ヒューズ切れ、電球切れのとき 193

ヒューズの受け持つ装置.....	193
ランプ類、電気装置が 作動しないとき.....	197

電池交換 207

電池を交換するときは.....	207
-----------------	-----

車の手入れ 212

外装の手入れ.....	212
内装の手入れ.....	216

季節の準備 218

冬にそなえて.....	218
夏にそなえて.....	221

環境保護のために 222

廃棄物を処理するときは.....	222
------------------	-----

5 トラブルが起きたら

故障したとき 224

- 路上で動けなくなったとき..... 224
- スタックしたとき..... 225
- 踏切内で動けなくなったとき..... 226

緊急用具の取り扱い 227

- 発炎筒..... 227
- 工具、ジャッキの格納場所..... 228
- ジャッキの取り扱い..... 229

パンクしたとき 233

- タイヤパンク応急修理キット..... 233

バッテリーがあがったとき 241

- バッテリーあがりについて..... 241

オーバーヒートしたとき 244

- オーバーヒートについて..... 244

アドバンストキーが作動しないとき 246

- アドバンストキー一時停止機能... 246

けん引について 247

- けん引してもらうとき..... 247
- 故障車をけん引するとき..... 249

万一事故が起きたとき 250

警報チャイム 251

- チャイムがなったときは..... 251

警告灯 254

- 警告灯が点灯、点滅したときは... 254

リヤゲート 262

- リヤゲートが開けられなくなったとき..... 262

MEMO

1 運転する前に

安全なドライブのために 12

お出かけ前に.....	12
お子さまを乗せるとき.....	13
安全装備について.....	14

キー 15

キーについて.....	15
-------------	----

ドア 21

ドアの開閉.....	21
------------	----

リヤゲート 27

リヤゲートの開閉.....	27
---------------	----

シート 30

正しい運転姿勢.....	30
フロントシートの調節.....	31
リヤシートの操作.....	32
ヘッドレストの使いかた.....	34

ハンドル 36

ハンドルの調節.....	36
--------------	----

ドアミラー 37

ドアミラーの操作.....	37
---------------	----

ルームミラー 39

ルームミラーの操作.....	39
----------------	----

シートベルト 40

シートベルトの種類.....	40
シートベルトの正しい着用のしかた.....	41
3点式シートベルト.....	45

お子さまの安全 47

お子さま専用シートについて.....	47
チャイルドシートを固定するとき.....	52

ウインドー 54

窓ガラスの開閉.....	54
--------------	----

燃料補給口 57

給油するとき.....	57
-------------	----

盗難防止システム 60

イモビライザーシステム.....	60
------------------	----

SRS エアバッグシステム 63

SRS エアバッグシステムについて.....	63
エアバッグの種類.....	63
エアバッグの注意点.....	64

安全に運転をしていただくために 74

積雪、寒冷時の取り扱い.....	74
------------------	----

安全なドライブのために

お出かけ前に

日常点検は必ず実施する

181 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

日常点検としてバッテリー液の量を定期的に点検する

191 ページの「バッテリーの点検」をよくお読みください。

日常点検としてタイヤを定期的に点検する

188 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない

57 ページの「給油するとき」をよくお読みください。

燃料補給時の注意

57 ページの「給油するとき」、59 ページの「フューエルキャップの開閉」をよくお読みください。

荷物を積むときは固定する

27 ページの「リヤゲートの開閉」をよくお読みください。

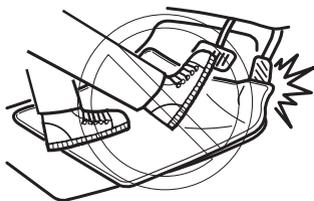
可燃物、危険物は積まない

燃料のはいった容器やスプレー缶は積まないでください。爆発、火災につながるおそれがあり危険です。

運転席足元には物を置かない

運転席足元にあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物がはさまると、ペダルを正しく操作できなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアマットは車に合ったものを使用する



車に合ったものを、フロアカーペットの上をしっかり固定して使用してください。フロアマットを敷くときは次の点を守ってください。

- 大きすぎるフロアマットは使用しない
- フロアマットは重ねて使用しない

フロアマットがすべったり、ブレーキペダルやアクセルペダルにフロアマットが引っかかるなど、ペダル操作のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

正しい運転姿勢に調節する

30 ページの「正しい運転姿勢」をよくお読みください。

シートベルトは全員着用する

41 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」をよくお読みください。

外気取り入れ口をふさがない

162 ページの「エアコンを使用する前に」をよくお読みください。

お子さまを乗せるとき

お子さまはリヤシートに乗せる

47 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

お子さまにもシートベルトを着用させる

41 ページの「シートベルトの正しい着用のしかた」、64 ページの「エアバッグの注意点」をよくお読みください。

1. 運転する前に

安全なドライブのために

チャイルドシートは正しく取り付ける

47 ページの「お子さまの安全」をよくお読みください。

ドア、窓ガラスの開閉は大人が操作する

21 ページの「ドアの開閉」、26 ページの「チャイルドプルーフの使いかた」をよくお読みください。

窓から手や顔を出させない

54 ページの「窓ガラスの開閉」をよくお読みください。

安全装備について

SRS エアバッグシステムの注意

63 ページの「SRS エアバッグシステム」をよくお読みください。

キーについて

キーナンバープレート



キーナンバープレート

お客様以外のかたにキーナンバーを知られないために、キーナンバープレートにキーナンバーを打刻しています。



知識

● 保管するときは

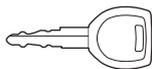
キーナンバープレートは車両以外の安全な場所に、大切に保管しておいてください。

● 紛失したときは

万一、キーを紛失したときは、マツダ販売店でキーナンバーをもとにキーを作ることができます。マツダ販売店にご相談ください。

リトラクタブルタイプキー

リトラクタブルタイプキー



エンジンの始動 / 停止のほかにドア、リヤゲートの施錠 / 解錠に使用します。また、リモートコントロール機能の操作にも使用します。キーは2本あります。



注意



必ず守る

リモートコントローラーは次のようなことに注意してください。故障につながるおそれがあります。

- 強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 直射日光が当たる所や、高温になる所に放置しないでください。

1. 運転する前に

キー



知識

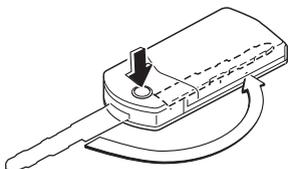
● リモートコントローラーの紛失について

リモートコントローラーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。

● リモートコントローラーを追加するときは

別売りのリモートコントローラーを購入される場合、お手持ちのコントローラーとあわせて、同じ車両で3個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

リトラクタブルタイプキーは、キーとリモートコントローラーが一体となっています。キーを使わないときは、キー部分を格納することができます。



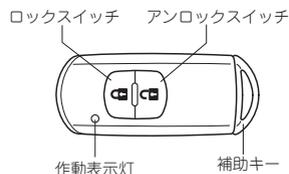
- 1 ボタンを押してキーを回します。
- 2 キーを収納するときは、ボタンをはなした後、カチッと音がするまでキーを押し込みます。

アドバンストキー



知識

アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。



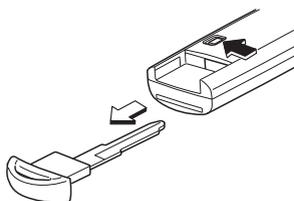
アドバンストキーは取り出すことなく、エンジンの始動 / 停止のほか、ドア、リヤゲートの施錠 / 解錠に使用します。また、リモートコントロール機能の操作にも使用します。アドバンストキーは2本あります。

補助キー

アドバンストキーに内蔵されています。

エンジンの始動 / 停止のほか、ドア、リヤゲートの施錠 / 解錠に使用します。

補助キーの取りはずしかた



アドバンストキーの注意点



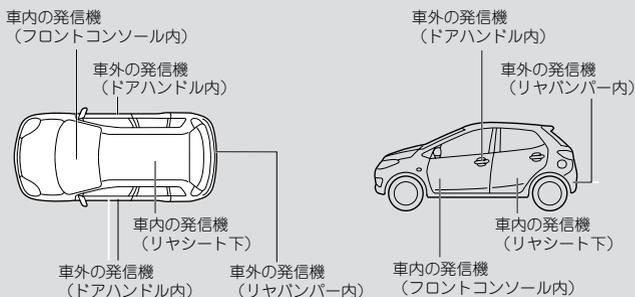
警告

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方へ



禁止

車内・車外の発信機から約 22cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



必ず守る

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器以外の医療用機器を使用している方は、アドバンストキーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。

電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

 注意



アドバンストキーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはアドバンストキーが正常に作動しないことがあります。

- 携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
- 金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
- パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
- 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
- 近くに電波を発する設備があるとき



アドバンストキーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないで下さい。



アドバンストキーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- 強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解しないでください。
- 重い物を上に置かないでください。
- 直射日光があたる場所や高温になる所に放置しないでください。
- 磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。
- システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。



航空機内ではアドバンストキー／リモートコントローラーを操作しないでください。

アドバンストキー／リモートコントローラーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。また、かばんやポケットなどで保管する場合は、アドバンストキー／リモートコントローラーのスイッチが容易に押されないように注意して下さい。



知識

- **電池の寿命について**

電池の寿命は、約1年程度です。メーターにKEY表示灯（緑）が点滅した場合は、新しい電池と交換してください。

電池の消耗度合いによってはKEY警告灯/表示灯が点灯や点滅しない場合もありますので、1年を目安に電池の交換をおすすめします。



- **アドバンストキーの紛失について**

アドバンストキーを紛失された場合は、盗難、事故などを防ぐため、マツダ販売店にご相談ください。

- **アドバンストキーを追加するとき**

別売りのアドバンストキーを購入される場合、お手持ちのコントローラーとあわせて、同じ車両で6個まで使用することができます。マツダ販売店にご相談ください。

前進
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車両
スペース

さくい

1. 運転する前に

キー

アドバンストキーレスの機能を使つての操作

アドバンストキーレスエントリーシステムはキーを取り出すことなく、ドア、リヤゲートの施錠/解錠、エンジンの始動/停止をすることができます。また、リモートコントロール機能により、キーのスイッチを押して、ドア、リヤゲートの施錠/解錠ができます。

機能の作動範囲

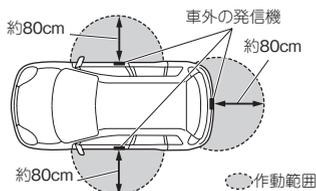
アドバンストキーを携帯し、車内および車外の作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。



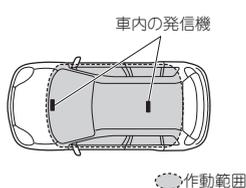
知識

- 次の場合、アドバンストキーの作動範囲がせまくなったり、作動しない場合があります。
 - ・ 電池が消耗しているとき
電池交換の目安は 16 ページを参照ください。
 - ・ 強い電波、ノイズのある場所
 - ・ 窓ガラスやドアハンドル、リヤゲートに近づきすぎた場合
- 次のような場所にアドバンストキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。
 - ・ インstrumentパネルの周辺
 - ・ グローブボックスや小物入れなど
- 荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
 - ・ 車外でも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがあります。エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。
- 作動範囲内にアドバンストキーを検知すると、作動表示灯がしばらくの間点滅します。

ドア、リヤゲートの施錠/解錠



エンジンの始動



キーレスの機能を使つての操作

キーレスエントリーシステムはリモートコントロール機能により、キーのスイッチを押して、ドア、リヤゲートの施錠/解錠ができます。

ドアの開閉

同時にすべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。

警告



ドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを確認する。
半ドアのまま走行すると、走行中に不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。



ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。
ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



お子さまにドアの開閉をさせない。
手、足、首などはさみ重大な傷害につながるおそれがあります。



半ドア警告灯が点灯したまま走行しない。
走行中に、ドア、リヤゲートが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意



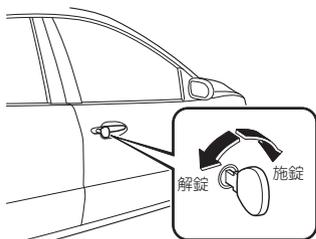
強風時にドアを開閉するときは、注意して開閉してください。ドアが風にあおられると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

車から離れるときは

必ずエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

キー / 補助キーによる施錠 / 解錠



運転席ドアに、キーまたは補助キーを差し込み、まわすとすべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。

1. 運転する前に

ドア

アドバンストキーによる施錠 / 解錠

リクエストスイッチ

アドバンストキーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチを押すと、すべてのドア、リヤゲートが施錠 / 解錠します。

知識

施錠について

いずれかのドアまたはリヤゲートが開いていると施錠できません。



■ 施錠するとき

リクエストスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ1回作動します。

■ 解錠するとき

リクエストスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ2回作動します。

知識

- リクエストスイッチで施錠した後は、ドア、リヤゲートが確実に施錠されたことを確認してください。
- リクエストスイッチを押して解錠した後、約30秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
 - ・ ドアまたはリヤゲートを開ける。
 - ・ 補助キーをエンジンスイッチに差し込む。
 - ・ スタートノブを押し込む。
- リクエストスイッチを押してからドアが解錠されるまでに数秒かかることがあります。

リモートコントロール機能

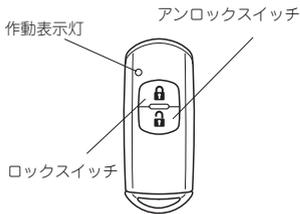
リモートコントロール機能を使用すると、車の周囲1m以内ですべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。

スイッチはゆっくりと確実に押してください。



知識

- 次の場合はリモートコントロール機能は作動しません。
 - ・ エンジンスイッチに補助キーを差し込んでいるとき
 - ・ 電源ポジションが OFF 以外するとき
 - ・ スタートノブが押しこまれているとき
 - ・ いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているとき
- リモートコントロール機能の作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。



■ 施錠するとき

ロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動します。

■ 解錠するとき

アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯とチャイムがそれぞれ 2 回作動します。



知識

- スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合、自動的に施錠されます。
 - ・ ドアまたはリヤゲートを開ける。
 - ・ 補助キーをエンジンスイッチに差し込む。
 - ・ スタートノブを押し込む。

前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
手か
た入
入れ
の

起ト
きラ
たブ
らル
が

車前
スペース

さくい

1. 運転する前に

ドア

リトラクタブルタイプキーによる施錠 / 解錠

リトラクタブルタイプキーを使用すると、車の周囲 1m 以内ですべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。

スイッチはゆっくりと確実に押してください。

知識

- 次の場合はキーレスエントリーシステムは作動しません。
 - ・ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるとき
 - ・ いずれかのドアまたはリヤゲートが開いているとき
- キーレスエントリーシステムの作動範囲は、周囲の状況により変わることがあります。車から離れるときは必ず施錠されていることを確認してください。

■ 施錠するとき

ロックスイッチを押します。
非常点滅灯が 1 回作動します。

■ 解錠するとき

アンロックスイッチを押します。
非常点滅灯が 2 回作動します。



知識

● 作動のお知らせについて

- ・ スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。
- ・ ロックスイッチまたはアンロックスイッチを連続して押すと、非常点滅灯が不規則に点滅することがあります。
- ・ アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合、自動的に施錠されます。

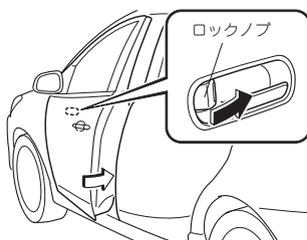
ロックノブによる施錠 / 解錠

運転席ドアのロックノブを操作します。すべてのドア、リヤゲートの施錠 / 解錠ができます。



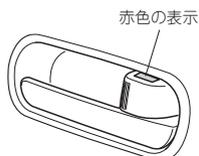
車外から操作するとき

車内のロックノブを施錠側にし、ドアを閉めるだけで施錠できます。



知識

- 運転席ドアはキーの閉じ込みを防止するために、この方法では施錠できません。
- (リトラクタブルタイプキー装備車)
運転席ドアはエンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは施錠できません。
- キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。
- ロックノブを解錠しているときは赤色の表示が見えます。



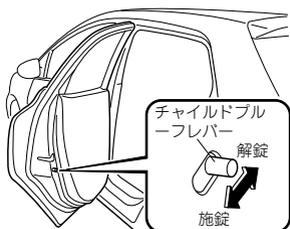
1. 運転する前に

ドア

チャイルドプールの使いかた

お子さまをリヤシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。

チャイルドプルーフレバーを施錠側にしてドアを閉めると、ロックノブの位置に関係なく、車内からはリヤドアを開けることができません。



チャイルドプルーフレバーを施錠側にしてドアを閉めると、ロックノブの位置に関係なく、車内からはリヤドアを開けることができません。

ドアを開けるときは、車内のロックノブを解錠側にし、車外のドアハンドルを引いてください。

リヤゲートの開閉

警告



荷室内に人を乗せない。

急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。



リヤゲートは必ず閉めてから走行する。

開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。



荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。

走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

注意



荷室の荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。



リヤゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リヤゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。

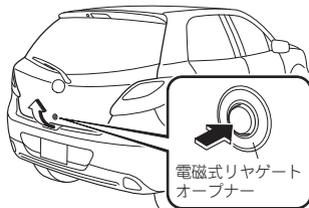


リヤゲートの施錠 / 解錠はドアと連動しています。

1. 運転する前に

リヤゲート

リヤゲートを開けるとき



ドアを解錠し、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを持ち上げます。

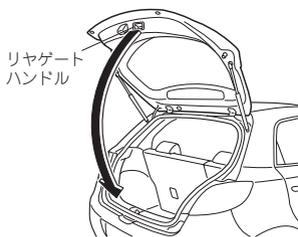
アドバンストキー装備車はアドバンストキーを携帯して電磁式リヤゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリヤゲートを開けることができます。

電源ポジションがONのときは、車両が停止し、パーキングブレーキがかかっている（マニュアル車）か、セレクトレバーがPの位置にある（オートマチック車）ときのみ、リヤゲートを開けることができます。

知識

- アドバンストキーレス機能を使ってリヤゲートを開けるときは、電磁式リヤゲートオープナーを押してからすぐに解錠されないことがあります。
- 電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けずに一定の時間が経過するとリヤゲートが少し浮いた状態のままリヤゲートを開けることができなくなります。
- リヤゲートを開ける場合
もう一度、電磁式リヤゲートオープナーを押して、リヤゲートを開けてください。
- リヤゲートを閉める場合
一度、電磁式リヤゲートオープナーを押してリヤゲートを開け、1秒以上待ってから閉めてください。
- ドアが施錠されている状態から、車内にアドバンストキーを入れたままリヤゲートを閉めると、リヤゲートは閉まりますが、ロックされません。電磁式リヤゲートオープナーを押すことにより、リヤゲートを開けることができます。
- 電磁式リヤゲートオープナーを押してから2～3秒後、ラッチの作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。

リヤゲートを閉めるとき



リヤゲートをゆっくり下げて、押さえつけるように閉めます。リヤゲートハンドルを使用すると便利です。



警告



必ず守る

リヤゲートを閉めたあとは、確実にロックされていることを確認する。
走行中にリヤゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意



必ず守る

リヤゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

前運
に
転
す
る

と
運
き
転
に
す
る

使
室
い
内
方
装
備
の

し
お
が
手
た
入
れ
の

起
ト
き
ラ
た
ブ
ラ
ル
が

車
間
ス
ペ
ッ
ク

さ
い
ん

1. 運転する前に

シート

正しい運転姿勢

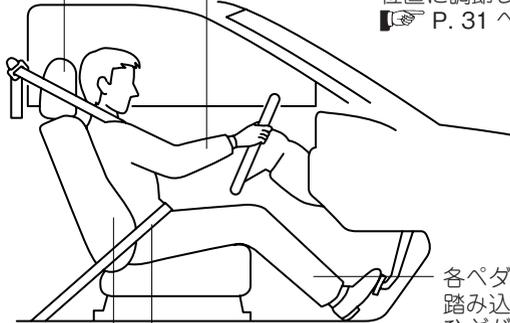
正しい運転姿勢がとれるようにシートを調整してください。

ヘッドレストの中央が、
耳の上部と同じ高さにな
るように調整します。

【🔧】 P. 34 ページ

ひじがわずかに曲がり、
ハンドル操作が楽にでき
る位置に調整します。

【🔧】 P. 31 ページ



シートに深く腰かけた
ときに、背もたれと背中が
離れない位置に調整します。

【🔧】 P. 31 ページ

シートベルトが正しく
着用できる位置に
調整します。

【🔧】 P. 31 ページ

各ペダルを
踏み込んだときに、
ひざがわずかに曲がる
位置に調整します。

【🔧】 P. 31 ページ

警告

⚠️ シート各部の調節は、必ず走行前に行なう。
走行中に行なうと、運転姿勢が不安定になったり、前方不注意になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

🚫 背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

🚫 背もたれは必要以上に倒さない。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

🚫 シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意



シートを操作する際は、操作する人やまわりの人が手や足などをはさまれないように注意してください。

フロントシートの調節

⚠ 警告



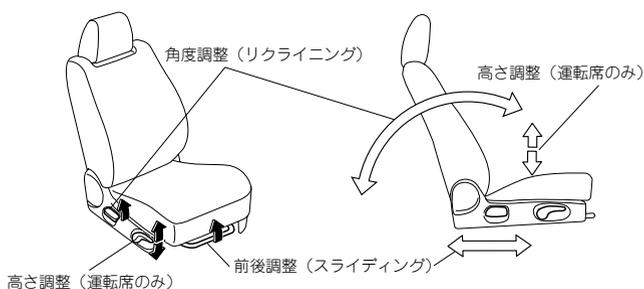
操作後は確実にロックされていることを確認する。
走行中シートが不意に動くことと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意



後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは、必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると、背もたれが急にもどり、けがをするおそれがあります。

フロントシートの使いかた



1. 運転する前に

シート

リヤシートの操作

⚠ 注意

 シートの操作をするときは、シートの動く部品周辺やサイドトリムなどに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。

禁止

荷室を作るとき

リヤシートの背もたれを倒すと荷室として広げることができます。

⚠ 警告

 倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて走行しない。
シートベルトが着用できないため、急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

 背もたれを倒して荷物を運ぶときは、荷物を確実に固定する。
固定しないで走行すると、急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

 荷物を運ぶときは、シート背もたれの高さを越えないようにする。
後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

必ず守る

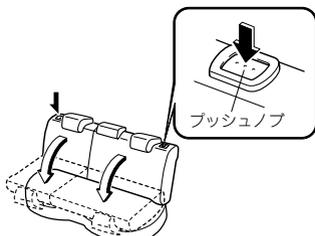
背もたれを折りたたむとき

⚠ 注意

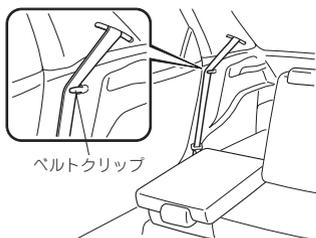
 背もたれを前に倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、プッシュノブを押す指などにけがをするおそれがあります。

必ず守る

① ヘッドレストを一番下の位置に下げます。



② プッシュノブを押して背もたれを前に倒します。



- ③ リヤシートのシートベルトをベルトクリップにかけます。

もともにもどすとき

警告



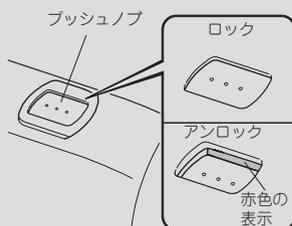
背もたれをもともにもどすときは、3点式シートベルトがベルトクリップにかかっていることを確認する。

ベルトクリップにかけずに背もたれをもともにもどすと、シートベルト表皮を傷つける恐れがあり、万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。



背もたれをもともにもどすときは確実にロックし、赤色の表示が見えないことを確認する。

プッシュノブ後部に赤色の表示が見えているときは、背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると、背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。



前運
に転
する

ど運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
手入
入れ
の

起ト
きラ
たプ
ラが

車前
スペース

さくい

1. 運転する前に

シート

- 1 ベルトクリップにシートベルトがかかっていることを確認します。
- 2 背もたれを後ろに押しつけロックさせます。
- 3 シートベルトがリヤシートに引っかかっているか、ねじれていないかを確認して、シートベルトをベルトクリップからはずします。

ヘッドレストの使いかた

すべてのシートには、ヘッドレストが装備されています。

ヘッドレストは、万一のときに、むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

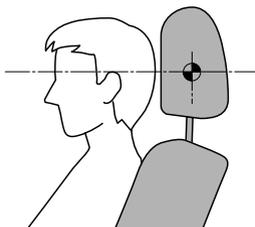
ヘッドレストを調節するとき

警告



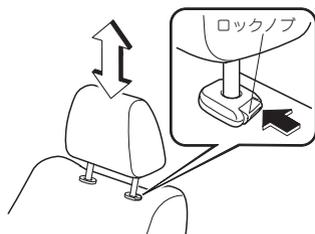
高さを調整しないままで走行しない。

高さを調整しないまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、全ての後席ヘッドレストは引き上げた状態で使用してください。



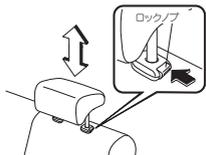
ヘッドレストの中央が、耳の上と同じ高さになるように調整してください。

フロントシート



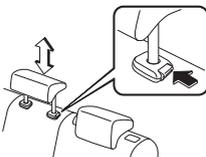
- 高くするとき
そのまま引き上げます。
- 低くするとき
ロックノブを押したまま下げます。

リヤシート左右席



- 使用するとき
ロック位置まで引き上げます。
- 格納するとき
ロックノブを押したまま下げます。

リヤシート中央席



- 使用するとき
ロック位置まで引き上げます。
- 格納するとき
ロックノブを押したまま下げます。

ヘッドレストを脱着するとき

- ヘッドレストを取りはずすとき
ロックノブを押しながら引き上げます。
- ヘッドレストを取り付けるとき
ロックノブを押しながら差し込みます。



警告



禁止

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。

取りはずした状態のまま走行すると、急ブレーキ時や衝突時、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



必ず守る

取り付けた後は、ヘッドレストが抜け出さないことを確認するため、持ち上げる。

ヘッドレストが抜け出すと万一の場合、効果を発揮できず、思わぬけがをするおそれがあります。



注意



必ず守る

ヘッドレストを取り付けるときは、ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きをまちがえて取り付けると、衝突時などにヘッドレストがはずれ、けがをするおそれがあります。



必ず守る

フロントシート・リヤシートそれぞれのヘッドレストは、各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると、衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず、けがをするおそれがあります。

1. 運転する前に

ハンドル

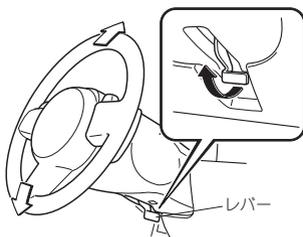
ハンドルの調節

警告

 調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する
走行中ハンドルが不意に動くとも運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドル操作が適切にできる位置に調節することができます。



- 1 レバーを持ち上げて、ハンドルを適切な位置に調節します。
- 2 調節後は、レバーを下げて固定します。

ドアミラーの操作

警告



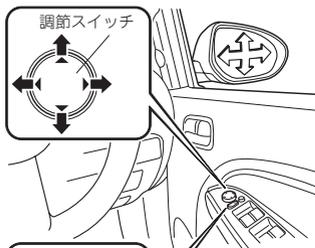
調節は走行前に行なう。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず守る

ドアミラーの角度調節

電源ポジションが ACC または ON のとき調節ができます。



- 1 左右切り替えスイッチの右側（運転席側）または左側（助手席側）を押します。
- 2 調節スイッチを押して、後方が十分確認できるように調節します。
- 3 ミラーの調節後は、左右切り替えスイッチを中立位置にもどします。

左右切り替え
スイッチ

ドアミラーを格納するとき

注意



ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができなくなります。

禁止

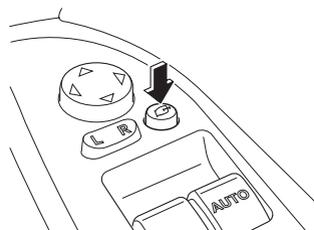
1. 運転する前に ドアミラー

電動格納式ドアミラー

⚠ 注意

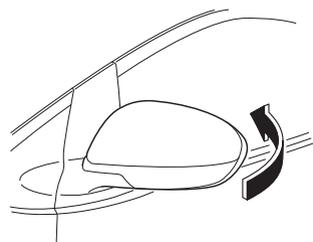


電動格納ミラーはスイッチで操作してください。手動で操作すると、ミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。



電源ポジションが ACC または ON のときに格納できます。
格納スイッチを押すと格納されます。
もう一度押すともとにもどります。

手動式ドアミラー



ミラー本体を手で倒して格納します。
走行前には、ミラー本体を手で持ち、ロックするところま
でもどします。

キー OFF 後作動機構

ドアミラーは、電源ポジションを ON から OFF にした後でも、約 40 秒間は角度調節や格納することができます。

ルームミラーの操作

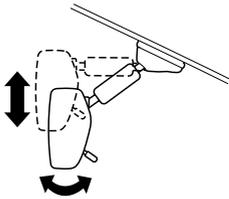
警告



調節は走行前に行なう。

走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ルームミラーの角度 / 高さ調節



ミラー本体を動かして、後方が十分確認できるように調整します。

後続車のヘッドランプがまぶしいとき

通常はレバーを押した状態にします。

夜間など、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いて切り替えます。



前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
入れ
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スベツク

さくいん

1. 運転する前に シートベルト

シートベルトの種類

シート	シートベルトの機構
フロントシート	プリテンショナー & ロードリミッター機構付 ELR (緊急時固定) 3点式シートベルト
リヤシート左右席	ELR (緊急時固定) 3点式シートベルト
リヤシート中央席	

警告

 シートベルトは正しく着用する。
正しく着用していないと、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、万一の場
合重大な傷害につながるおそれがあります。

知識

● プリテンショナー機構について

- ・ 車両前方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
- ・ プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

● 事故などにあつたときは

プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。必ずマツダ販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。

ELR (緊急時固定) 機構

3点式シートベルトには ELR (緊急時固定) 機構が装備されています。
シートベルトは身体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

プリテンショナー機構

フロントシートベルトには、プリテンショナー機構が装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。

ロードリミッター機構

ロードリミッターは、車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。
シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。

シートベルトの正しい着用のしかた

車を運転する前に必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

ベルトが首、あご、顔などにあたらず、肩に十分かかるようにします。

ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



上体を起こし、シートに深く腰かけます。

ベルトにねじれがないか確認します。

前運
に転
する

ど運
転に
する

使室
内方
装備
の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スベツク

さいん

1. 運転する前に シートベルト

警告

着用について



必ず守る

シートベルトは全員が着用する。

着用しないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。



必ず守る

シートベルトは正しく着用する。

急ブレーキ時や衝突時などに身体が拘束されないため車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



必ず守る

お子さまを乗せる際は、必ずお子さま専用シートを使用する。

シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。



禁止

1つのシートベルトを同時に2人以上で使用しない。

2人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止

シートベルトの改造や交換をしない。また、クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。

万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止

ベルトがねじれた状態で使用しない。

ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。



禁止

肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。

ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、身体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。



禁止

背もたれは必要以上に倒さない。

急ブレーキ時や衝突時に、身体がシートベルトの下に滑り込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



必ず守る

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。

シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

警告



妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。

ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



シートベルトのバックルの中に異物を入れない。

異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは



お子さまはできるだけリヤシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させる。

お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルトが首や顔などに当たったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。

ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 運転する前に シートベルト

警告

メンテナンスについて

-  シートベルトを分解しない。
分解すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。
-  事故などにあつたときは、衝撃でシートベルト本来の機能が損なわれているおそれがあるので、必ずマツダ販売店で点検を受ける。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。
-  プリテンショナー機構付きベルトが装備された車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。
-  プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしない。
正常に作動しなくなったり誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

-  シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。



3点式シートベルト

シートベルト着用忘れチャイム

運転席シートベルトを着用していないまま、車速が約 20km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴ります。(鳴り始めると、車速を落としても鳴り続けます。)

シートベルトを着用すると鳴り止みます。

シートベルトを着用するとき



- 1 プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出します。
- 2 ベルトを素早く引き出し、ロックされることを確認してください。



知識

ベルトがロックして引き出せないときは

一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。



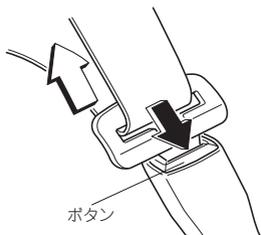
- 3 ベルトにねじれがないかを確認してから、プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込みます。



- 4 ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかけ、たるみが無いようにベルトを引いて身体に密着させます。

1. 運転する前に シートベルト

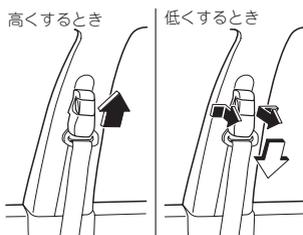
シートベルトをはずすとき



はずすときはバックルのボタンを押します。ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせます。

シートベルトの高さ調整

フロントシートベルトにはシートベルトアンカーアジャスターがついています。シートベルトが首にあたり、肩からはずれてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。



- 1 高くするときは、そのまま上に動かします。
低くするときはボタンを引いたまま下げます。
- 2 調節したあとは、シートベルトアンカーアジャスターを下方に押し、確実にロックされていることを確認してください。

お子さま専用シートについて

シートベルトが首や顔などにあたって、腰骨に正しく着用できないお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。

車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。

シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リヤシートのシートベルトを使用してシートに固定します。

また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リヤシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。

お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

警告



お子さまの首や顔などにシートベルトがあたって、腰骨に正しく着用できない場合は、お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。

お子さま専用シートを使用しないと、急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従う。

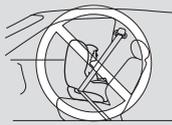
正しく取り付けられていないと、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。



助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。

エアバッグが膨らむと、ベビーシートやチャイルドシートの背面に強い衝撃が加わり、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは、必ず前向きに取り付け、シートを最後部まで移動させてください。

助手席側のサンバイザーに、同内容の警告ラベルが表示されています。合わせてご覧ください。



お子さまの安全



知識

ISO は International Standard Organization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シートの種類

ECE R44 の基準に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の5種類に分類されます。



知識

ECE R44 は、お子さま専用シートに関する国連法規です。

グループ	体重
0	10kg まで
0+	13kg まで
I	9 ~ 18kg
II	15 ~ 25kg
III	22 ~ 36kg

本書では、シートベルト固定タイプの一般的なお子さま専用シート3種類について説明します。次のイラストは取り付け例です。取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
ECE R44基準のグループ
0,0+に相当



チャイルドシート
ECE R44基準のグループ
Iに相当



ジュニアシート
ECE R44基準のグループ
II、IIIに相当



シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。



警告



お子さま専用シートを取り付けるときは、必ず選択の目安表を確認する。
誤った取り付けをすると正しく固定されず、急ブレーキや衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 (ISOFIX 対応タイプ)

質量グループ	サイズ等級	器具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート (外席)
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
		(1)	X
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL
		(1)	X
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C*	ISO/R3	IL
		(1)	X

1. 運転する前に

お子さまの安全

質量グループ	サイズ等級	器具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート (外席)
I (9 ~ 18kg まで)	D	ISO/R2	IL
	C*	ISO/R3	IL
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF
		(1)	X
II (15 ~ 25kg まで)		(1)	X
III (22 ~ 36kg まで)		(1)	X

上表の記号について：

(1) サイズ等級識別表示 (A ~ G) のないお子さま専用シートについては、お子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF = この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。

IL = 「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。

X = お子さま専用シートを取り付けることはできません。

* サイズ等級 C (ISO/R3) のお子さま専用シートを取り付けるときは、お子さま専用シートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを中間位置より前にスライドさせてください。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表 (シートベルト固定タイプ)

質量グループ	着座位置 (または他の場所)			
	助手席	リヤシート (外席)	リヤシート (中央席)	
			一体式シート	分割式シート
0 (10kg まで)	X	U	X	X
0+ (13kg まで)	X	U	X	X
I (9 ~ 18kg まで)	UF	U	X	X
II (15 ~ 25kg まで)	UF	U	X	X
III (22 ~ 36kg まで)	UF	U	X	X

上表の記号について：

U = この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリのお子さま専用シートに適しています。

UF = この質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリのお子さま専用シートに適しています。

X = お子さま専用シートを取り付けることはできません。

前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スベック

さくいん

チャイルドシートを固定するとき

ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ & トップテザーアンカレッジ

リヤシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。

この固定ロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート（チャイルドシート固定ロアアンカレッジ）のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。



警告



必ず守る

チャイルドシートを取り付けるときは、固定ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみこんでいないことなどを確認する。

異物やシートベルトなどをはさみこむとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。



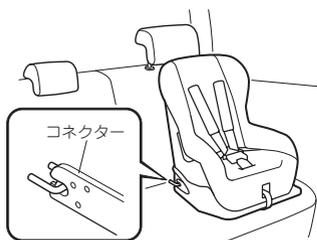
知識

チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応の純正チャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

- 1 お子さま専用シートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
→ 31 ページ「フロントシートの調節」
フロントシートが確実に固定されていることを確認してください。
- 2 リヤシートが確実に固定されていることを確認してください。

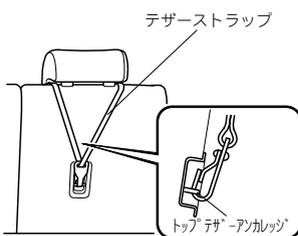


- 3 シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、固定ロアアンカレッジの位置を確認します。



- 4 ヘッドレストを引き上げます。
- 5 チャイルドシートのコネクターを固定ロアアンカレッジに取り付けます。

- 6 チャイルドシートのテザーストラップを下記イラストのように通して、トップテザーアンカレッジにかけます。



- 7 テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

- 8 チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

警告



トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。

チャイルドシートの固定以外のことを使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 運転する前に ウインドー

窓ガラスの開閉

電源ポジションがONのとき、パワーウインドースイッチを操作すると窓ガラスの開閉ができます。

警告

必ず守る 窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。

特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

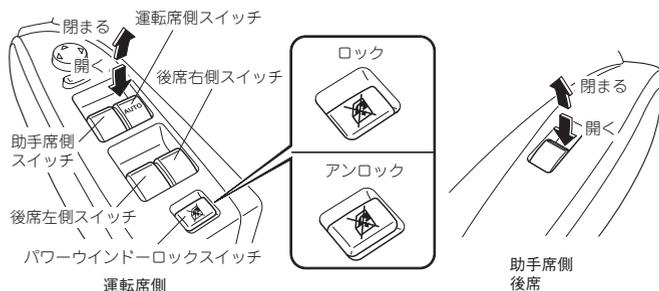
必ず守る お子さまにパワーウインドースイッチの操作をさせない。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。
お子さまが誤って操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

必ず守る 窓から手や顔を出させない。
走行中はお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してしてください。車外の物に当たったり、急ブレーキを踏んだとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

スイッチを押している間は開き、引き上げている間は閉まります。

助手席、後席の窓ガラスは運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをアンロックの位置にしているとき開閉できます。



車内の換気をしたいときは

クイックリフレッシュ機能

運転席に装備しています。

全閉しているとき、スイッチを軽く押すと、窓枠から約 3cm 開いたところで一旦止まります。そのまま押し続けると、再び開き始めます。

便利な装備について

自動開閉機構

運転席に装備しています。

スイッチを強く押すと自動で全開し、強く引き上げると自動で全閉します。途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作します。



知識

自動で全開 / 全閉できないときは

車両整備などでバッテリーとの接続が断られたとき、または全開 / 全閉したあとも、スイッチを操作し続けたときは、自動で全開 / 全閉できなくなります。

次の操作で復帰させてください。

- 1 電源ポジションを ON にします。
- 2 スwitchを押して窓ガラスを全開にします。
- 3 スwitchを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続けます。

キー OFF 後作動機構

運転席に装備しています。

電源ポジションを ACC または OFF にしたあとも、約 40 秒間は開閉することができます。この時、クイックリフレッシュ機能は作動しません。

安全装備について

はさみ込み防止機構

運転席に装備しています。

閉めるときに、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感じると、窓ガラスが閉まるのを停止し、自動的に途中まで開きます。はさみ込み防止機構は次のようなときに作動します。

- 電源ポジションが ON で窓ガラスを自動で閉めているとき。
- 電源ポジションを OFF または ACC にしてから約 40 秒の間に窓ガラスを閉めているとき。

1. 運転する前に ウインドー



注意



次の場合には、はさみ込み防止機構が作動しないため、指などをはさまないように注意してください。万一、指などをはさむと、けがをするおそれがあります。

- 窓ガラスが閉まりきる直前
- スイッチを引き続けたままの状態



知識

- 走行条件や環境により、窓ガラスに異物をはさんだときと同じ衝撃または荷重が加わると、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
- 万一、はさみ込み防止機構が作動し、窓ガラスを自動で閉めることができないときは、スイッチを引き続けてください。

給油するとき

警告



必ず守る

燃料補給時には必ずエンジンを止める。また、燃料補給口にはタバコなどの火気を近づけない。

火災につながるおそれがあります。



必ず守る

燃料を補給するときは、必ず次の点を守る。

身体に静電気を帯びたまま作業をすると、放電による火花で燃料に引火、爆発し重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 燃料補給作業は必ず一人ででない、補給口に他の人を近づけないでください。
- 静電気を除去するため、フューエルキャップを開ける前には、車体または給油機などの金属部分に触れてください。
- 静電気の放電を防ぐため、フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行ってください。
- 再帯電を防ぐため、燃料を補給する人は給油中に車内のシートに座らないでください。



必ず守る

給油ノズルは確実に燃料補給口へ差し込む。

給油ノズルが確実に差し込まれていないと、オートストップの作動が遅れ、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。



必ず守る

給油ノズルのオートストップ作動後は、追加給油しない。

オートストップ作動後に追加給油すると、燃料があふれ出るおそれがあります。



必ず守る

気化した燃料を吸い込まないよう注意する。

人体に有害な成分を含んでいる燃料があります。特にアレルギー体質の方は、注意してください。

燃料補給口

注意



禁止

指定燃料以外の燃料を補給したり、純正以外の燃料添加剤を使用しない。

→ 264 ページ「燃料」

有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、アルコール系燃料を補給すると次のような悪影響をおよぼします。

- エンジンや燃料系部品が損傷したり、最悪の場合車両火災につながるおそれがあります。
- エンジンの始動性が悪くなるおそれがあります。
- ノッキングが発生したり、エンジンの出力が低下するおそれがあります。



必ず守る

燃料を補給するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。



必ず守る

燃料補給作業中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。



必ず守る

燃料を補給する際には、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



知識

バイオ燃料混合ガソリンをお使いになることもできます。

バイオ燃料混合ガソリンは、日本工業規格 (JIS) や「揮発油等の品質の確保に関する法律」が定めたガソリンの規格に合致しており、製品として使用に問題ないことが確認されています。バイオ燃料混合ガソリンの商品名としては「バイオ・ガソリン」、および「いい！スリー」の2つがあり、いずれの製品も使用できます (商品マーク参照)。



燃料補給口は車の左側後方にあります。燃料計が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

フューエルリッドの開閉



運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引くと開きます。

閉めるときはフューエルリッドが確実にロックするまでフューエルリッドを押しつけます。

フューエルキャップの開閉

警告



必ず守る

フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから取り外す。

急に開けると、燃料が噴き出すことがあるため火災につながったり、目や皮膚に付着すると傷害につながるおそれがあります。



必ず守る

フューエルキャップは確実に閉める。

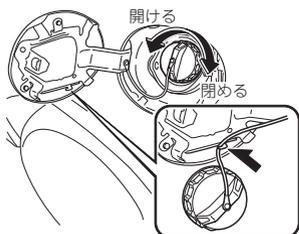
キャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料がもれ、火災につながるおそれがあります。

注意



禁止

純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。



取りはずしたキャップはフューエルリッドの内側にかけます。

キャップを閉めるときは、カチッ、カチッと2回以上音がするまで締め付けてください。

盗難防止システム

イモビライザーシステム グレード/仕様別装備

イモビライザーシステムはアドバンストキーに信号発信機を内蔵し、あらかじめ登録されたアドバンストキー以外ではエンジンを始動できないようにした車両盗難防止装置です。

万一、アドバンストキーが電池切れや故障の場合は、電池切れ時のエンジン始動手順を行なうとイモビライザーシステムが解除され、エンジン始動できます。

注意



キーの故障を防ぐために次のことを守る。

- システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。
- 強い衝撃をあたえたり、ぬらしたりしないでください。
- 磁気を帯びた製品を近づけないでください。
- インストルメントパネルやボンネットの上など直射日光が当たる場所や高温になる所に放置しないでください。

知識

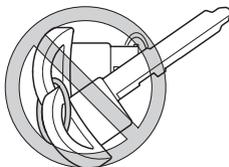
補助キーの使用について

次のような状態にしないでください。車両が補助キーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- キーグリップに金属製のリングがのっている



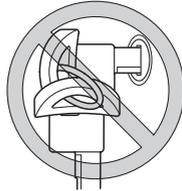
- キーグリップ部に他のキーの金属部や金属製のものが接している





知識

- 補助キーにスペアの補助キーや他の車両の盗難防止システムキー（信号発信機内蔵のもの）が重なっている、または近くにある



- 補助キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある

システムの作動

電源ポジションを ON から ACC または OFF にするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅します。



前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
が手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車両
スペース

さしい

盗難防止システム

システムの解除

登録されたアドバンストキーで電源ポジションを ON にするとシステムが解除され、エンジンが始動できます。そのとき表示灯は約 3 秒間点灯した後消灯します。

エンジンが始動しないときは

次のような場合、エンジンの始動ができない場合があります。

- アドバンストキーを（車内でも）感知しにくい場所に置いている。
- 携帯電話、テレビ、ラジオ、トランシーバーなどからの電波でシステムが影響を受けている。

処置方法

一度、電源ポジションを OFF にもどし、アドバンストキーを別の場所に置いて、再度エンジン始動してください。

→ 20 ページ「アドバンストキーレスの機能を使つての操作」

セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は（点灯 / 点滅したまま等）、一度電源ポジションを OFF に戻し、しばらく待って再度エンジン始動してください。

3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

運転中にセキュリティ表示灯が点灯 / 点滅した場合は

エンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できないことがあります。



知識

イモビライザーシステムを修理するときは

コードを再登録するために、お手持ちのすべてのアドバンストキー（補助キー含む）をマツダ販売店に持参してください。

キーを追加するときは

- アドバンストキーを紛失したときのために、スペアのアドバンストキーを保管しておいてください。
- アドバンストキーには特有の電子コードが含まれていますので、マツダ販売店以外でアドバンストキーを追加することはできません。

アドバンストキー（補助キー含む）を紛失した場合、盗難防止のため、イモビライザーシステムに登録されているコードをマツダ販売店で消去できます。消去した後に、今後使用するアドバンストキーを再登録する必要がありますので、お手持ちのすべてのアドバンストキー（補助キー含む）をマツダ販売店へ持参してください。登録されていないアドバンストキー（補助キー含む）ではエンジンを始動することができません。

SRS エアバッグシステムについて

SRS とは Supplemental Restraint System (サプリメンタルレストレイントシステム) の略で、補助乗員保護装置の意味です。

エアバッグは、電源ポジションが ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。

SRS エアバッグシステムはシートベルトの働きに加えて乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

エアバッグの種類

運転席エアバッグ



運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。

助手席エアバッグ



助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。

前
運
転
す
る

と
運
転
に
す
る

使
室
内
方
装
備
の

し
お
手
た
入
れ
の

起
ドラ
プ
ら
が

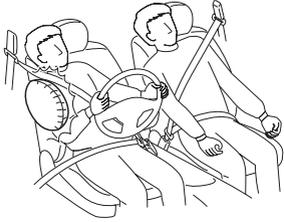
車
前
ス
ペ
ク

さ
い
な

1. 運転する前に

SRS エアバッグシステム

サイドエアバッグ グレード/仕様別装備



サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。

カーテンエアバッグ グレード/仕様別装備



カーテンエアバッグはフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグの注意点



警告

お車に乗る前に



必ず守る

運転者はもちろん、同乗者も必ずシートベルトを着用する。

SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと、重大な傷害につながるおそれがあります。

警告

シートに座ったときは



ハンドル中央部に手を置いたり、顔や身体を近づけたりしない。
エアバッグが作動したときに、強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



シートの前端に座ったり、インストルメントパネルにもたれかかったり、手や顔を近づけない。
エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



お子さまを乗せるときは



お子さまはできるだけリヤシートに座らせ必ずシートベルトを着用させる。

シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
ラが

車前
スベック

さしい

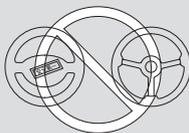
SRS エアバッグシステム

警告

こんなことにも注意

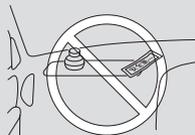
 ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。

万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



 インストルメントパネル上部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリ用品、手荷物などの物を置かない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。

エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



 車両前部にグリルガードなどを装着しない。

SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

 サスペンションの改造をしない。

車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

 SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしない。

正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。



警告

メンテナンスや廃車について



必ず守る

事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。

エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



必ず守る

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店にご相談する。

これらの作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インstrumentパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の修理
- オーディオなど用品の取りはずし、取り付け



必ず守る

車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。

不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

サイドエアバッグについて



禁止

フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。

フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リヤシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きた
ラプ
ルが

車両
スペース

さくいな

SRS エアバッグシステム

警告

 フロントシートにシートカバーを使用するときは、この車専用のサイドエアバッグ対応純正品を使用する。

必ず守る

純正品以外のもを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。純正品シートカバーの設定はグレードや仕様により異なるため、マツダ販売店にご相談ください。

 フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けない。

禁止

サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

 フロントシートの下に荷物などを置かない。
フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

禁止

カーテンエアバッグについて

 ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。

必ず守る

カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

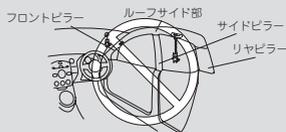


警告



フロント窓ガラス、リヤ窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。

カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意



エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。



ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイド/カーテンエアバッグが作動するおそれがあります。

知識

エアバッグの作動について

- エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。
- エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物（カス）が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。
- エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。
- 助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

1. 運転する前に

SRS エアバッグシステム

エアバッグの作動条件について

運転席 / 助手席エアバッグは正面衝突において、サイド / カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。

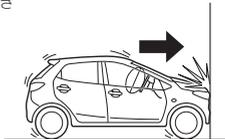
車体の衝撃吸収ボディー構造により、乗員への衝撃は大きくならない場合があります。したがって、車両の損傷が大きくてもエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動するとき

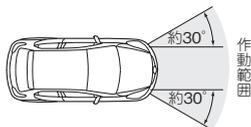
運転席 / 助手席エアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

約22km/h以上で固いコンクリートの壁などに正面衝突したときと同じ程度の衝撃を受けたとき



正面衝突など車両の前方左右約30°以内の方向から強い衝撃を受けたとき



次のようなときには、路面などから車両下部に強い衝撃を受けると作動することがあります。

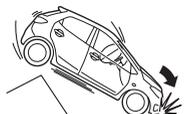
中央分離帯や緑石などに衝突したとき



深い穴や溝に落ちたとき



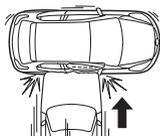
ジャンプなどで地面にぶつかったとき



サイド / カーテンエアバッグ

次のようなときには、衝撃が大きいと作動します。

車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)に横方向から衝突されたとき

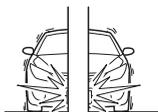


エアバッグが作動しにくいとき

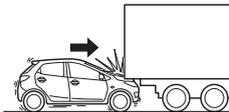
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席 / 助手席エアバッグ

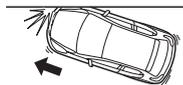
立木や電柱に衝突したとき



トラックの下などに
潜り込んだとき

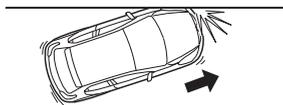


斜め前方に衝突したとき



サイド / カーテンエアバッグ

斜め前方に衝突したとき



横転や転覆したとき



車両の側面(運転者または助手席同乗者付近)から立木や電柱に衝突したとき



2輪車が側面に衝突したとき



前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車両
スペース

さしい

1. 運転する前に

SRS エアバッグシステム

エアバッグが作動しないとき

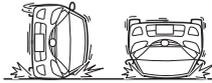
次のようなときには作動しません。

運転席 / 助手席エアバッグ

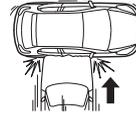
後ろ方向から衝突されたとき



横転や転覆したとき



横方向から衝突されたとき

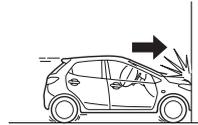


サイド / カーテンエアバッグ

後ろ方向から衝突されたとき



正面衝突したとき



EDR (イベントデータレコーダー) について

本車両は、SRS エアバッグ制御のためのコンピュータを搭載しています。そのコンピュータは、SRS エアバッグシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突や衝突に近い状態のとき、以下のデータを記録・蓄積する EDR を装備しています。

記録するデータ

EDR は下記のような情報を記録します。

- 車速
- 運転席乗員のシートベルト装着有無
- エアバッグ作動に関する情報 (加速度波形等)
- エアバッグシステムの故障診断情報



知識

EDR は会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

マツダおよびマツダの委託先は、EDR に記録されたデータを、車両衝突安全性能の向上などを目的に取得・利用することがあります。

なお、取得したデータは以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行なうなどの使用者や車が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

1. 運転する前に

安全に運転をしていただくために

積雪、寒冷時の取り扱い

お車に乗る前に

ルーフに雪が積もっているときは

- 走行中、ガラスに雪が落ちると視界のさまたげとなり危険です。走行前に取り除いてください。
- ルーフの雪を取り除くときは、アンテナに注意して取り除いてください。アンテナを損傷するおそれがあります。

ガラスに雪や霜がついているときは

- 視界を確保するため、雪や霜を取り除いてください。
- プラスチックの板などを使用して取り除くことができます。プラスチックの板などを使用する時はガラスに傷をつけないように注意して取り除いてください。

足まわりなどに雪や氷が付着しているときは

部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。

ドアなどが凍結しているときは

- ドアが凍結しているときは、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。無理に開けようとすると、ドアまわりのゴムがはがれたり、周辺部を損傷するおそれがあります。
- ドアのキー穴部にはお湯をかけないでください。凍結してキーが差しこめなくなるおそれがあります。
- お湯をかけたあとは、すぐに水分をふき取ってください。
- ワイパー、パワーウィンドー、電動ドアミラーなどが凍結して動かない場合もお湯をかけて氷を溶かしてから操作してください。無理に動かそうとすると故障の原因になります。

お車に乗るときは

靴についた雪をよく落としてから乗車してください。

ペダル類を操作するときにくっつきやすくなり、室内の湿気が多くなるため窓ガラスが曇ったりすることがあります。

2 運転するときに

安全なドライブのために 76

運転するとき.....	76
運転装置について.....	78
こんなことにも注意.....	79
駐停車するとき.....	82
お子さまを乗せるとき.....	84

エンジンの始動と停止 85

電源ポジション (エンジンスイッチ).....	85
エンジンの始動.....	86
エンジンの停止.....	90
i-stop について.....	91

メーター、警告灯、表示灯の見方 100

メーター.....	100
警告灯、表示灯.....	113

トランスミッションの使いかた 124

マニュアルトランスミッション.....	124
オートマチックトランスミッション.....	124

ブレーキ 136

ブレーキの操作.....	136
--------------	-----

4WD 137

e-4WD について.....	137
-----------------	-----

スイッチの使いかた 139

ヘッドランプスイッチ.....	139
-----------------	-----

方向指示器.....	142
非常点滅灯スイッチ.....	143
フォグランプスイッチ.....	143
ワイパー / ウォッシャースイッチ... ..	143
リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....	148
ホーン.....	148

ABS について 149

ABS とは.....	149
-------------	-----

ヒルローンチアシスト (HLA) について 150

ヒルローンチアシスト (HLA) とは (i-stop 装備車).....	150
--	-----

トラクションコントロールシステム (TCS) について 151

TCS とは.....	151
-------------	-----

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について 152

DSC とは.....	152
-------------	-----

様々な状況での運転のとき 155

悪天候での運転.....	155
--------------	-----

環境保護のために 157

経済的な運転.....	157
-------------	-----

安全なドライブのために

運転するとき

走行中はエンジンを止めない

走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

坂道ではエンジンブレーキを使う

ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、効きが悪くなることがあります。

下り坂ではフットブレーキとエンジンブレーキを併用してください。

高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路では急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避けてください。スリップするおそれがあります。

エンジンブレーキとは、走行中アクセルペダルから足を離れたときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよく効きます。

走行中はセレクトレバーをNにいれない

トランスミッションの故障につながります。また、エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。

すべりやすい路面では慎重に運転する

ぬれた路面や凍結路、積雪路などのすべりやすい路面では、急加速や急ブレーキ、急ハンドル、急激なエンジンブレーキを避け、スピードをひかえめにして運転してください。ぬれた路面を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態（ハイドロブレーニング現象）になるおそれがあります。

高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避けてください。タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストをするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響を及ぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツダ販売店へご相談ください。

水たまり走行後や洗車後はブレーキの効きを確認する

水たまりを走行したあとや洗車後は、ブレーキパッドがぬれているため、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

横風が強いときは慎重に運転する

横風が強く、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に落としてください。トンネルの出口、橋の上、山を削った切り通しなどは特に横風が発生しやすいので注意してください。走行安定性を失い、思わぬ事故につながるおそれがあります。

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行しない

クラッチペダルやブレーキペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に半クラッチ操作を行わないでください。

- クラッチやブレーキの部品が早く摩耗します。
- ブレーキが過熱し、効きが悪くなるおそれがあります。

ブレーキ操作は右足で

- ブレーキペダルは必ず右足で踏んでください。慣れない左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど、適切な操作ができないおそれがあります。
- アクセルペダルの操作でブレーキペダルに靴が接触することがないように、運転に適した靴で運転してください。

警告灯が点灯 / 点滅したら車を止める

走行中に警告灯が点灯 / 点滅したときは、ただちに安全な場所に停車し、適切な処置を行なってください。警告灯の点灯 / 点滅を無視して運転を続けるとエンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

安全なドライブのために

パンクやバースト（破裂）してもあわてない

走行中タイヤがパンクやバースト（破裂）したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。

急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。

次のようなときはパンクやバースト（破裂）が考えられます。

- ハンドルがとられるとき。
- 異常な振動があるとき。
- 車両が異常に傾いたとき。

スタックした状態から脱出するときは注意する

225 ページの「スタックしたとき」をよくお読みください。

床下に衝撃を受けたら下まわりを点検する

安全な場所に停車して、車の下にブレーキ液や燃料の漏れがないか、また各部に損傷がないか確認してください。

異常があったときは、マツダ販売店に連絡してください。

そのまま走行すると故障や思わぬ事故につながるおそれがあります。

異常を感じたときはマツダ販売店で点検を受ける

次のようなときは、車が故障しているおそれがあります。そのまま走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 普段と違う音や臭い、振動がするとき。
- ハンドル操作に異常を感じる時。
- ブレーキ液が不足しているとき。
- 車の下に油のあとが残っているとき。

運転装置について

オートマチック車を運転するとき

132 ページの「オートマチック車を運転するときに」、124 ページの「オートマチック車の特性」、86 ページの「エンジンをかける前に」をよくお読みください。

e-4WD 車の特性

137 ページの「e-4WD について」、137 ページの「走行するときは」をよくお読みください。

タイヤについて

188ページの「タイヤの点検」、180ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、219ページの「タイヤチェーンの取り付け」をよくお読みください。

けん引してもらうとき

247ページの「けん引してもらうとき」をよくお読みください。

車検時の取り扱い

192ページの「車検時の取り扱い」をよくお読みください。

こんなことにも注意

発進時には安全を十分確認する

発進時は周囲の状況に十分注意してください。

- 信号待ちなどで停車したときや、駐車後に発進するときは、周囲の安全を十分確認してから発進してください。
- 後退するときに十分な視界を得られないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

運転中は携帯電話を使用しない

運転しながらハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

前運
に転
する

と運
転
する

使
室
内
方
装
備
の

し
お
か
手
た
入
れ
の

起
ト
ラ
プ
た
ら
ら
が

車
庫
ス
テッ
ク

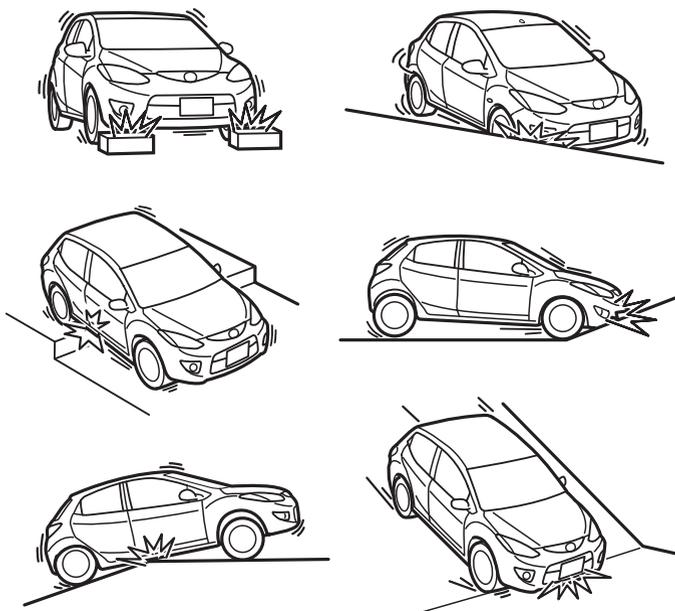
さ
い
ん

安全なドライブのために

路面などと車両との干渉に注意する

次のようなとき、バンパーやマフラーなど車体の下部を損傷するおそれがありますので、十分注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 路肩など段差のある場所への乗り降り
- 駐車場など急な坂道への出入り
- 凸凹やわだちのある道路の走行



違法改造はしない

180 ページの「違法改造はしない」をよくお読みください。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

180 ページの「タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する」、188 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する

188 ページの「タイヤの点検」をよくお読みください。

ディスチャージヘッドランプバルブを交換するときはマツダ販売店に相談する

142 ページの「ディスチャージヘッドランプについて」をよくお読みください。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

180 ページの「部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する」をよくお読みください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

180 ページの「ナンバープレートは正しい位置に取り付ける」をよくお読みください。

アクセサリを取り付けない

180 ページの「アクセサリを取り付けない」をよくお読みください。

エンジンルーム内のファンやベルトに気をつける

244 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

エンジンルーム内に物を置き忘れない

181 ページの「点検整備について」をよくお読みください。

ラジエーターが熱いときはキャップをはずさない

244 ページの「オーバーヒートについて」をよくお読みください。

バッテリーの取り扱いに気をつける

241 ページの「バッテリーあがりについて」をよくお読みください。

安全なドライブのために

航空機内ではアドバンストキー / リモートコントローラーを操作しない

16 ページの「アドバンストキー」をよくお読みください。

一酸化炭素中毒に気をつける

自動車から出る排気ガスには、一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素は、無色 / 無臭の有毒な気体です。体内に入ると、一酸化炭素中毒を起こします。一酸化炭素中毒の初期症状は、目まい / 吐き気 / 頭痛などの体調不良ですが、症状が進むと意識不明になって動けなくなりま。また、症状によっては死に至ることがあります。万一、排気管などに腐食や損傷があったり、排気音に異常を感じたときは、マツダ販売店で点検を受けてください。また、車内で排気ガスの臭いがしたときは、すべての窓を全開にするか、空調を手動で外気導入にして新鮮な外気を取り入れてください。そのまま走行すると、排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

ライターやメガネを車内に放置しない

炎天下に駐車するときは、車内にメガネやライターを放置しないでください。車内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

駐停車するとき

燃えやすい物のそばに車を止めない

車を止める時には、次の点を守ってください。

- そばに枯れ草など、燃えやすいものがない場所に止めてください。走行したあとは排気管が高温になっているため、火災につながるおそれがあります。
- 壁やベニヤ板などが後方にある場合は、間隔を十分とってから停車してください。排気ガスにより変色、変形したり、そのまま放置しておくとおそれがあります。

仮眠するときはエンジンを止める

エンジンをかけたままで仮眠しないでください。無意識にチェンジレバー / セレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込み車が発進したり、エンジンや排気管の異常過熱による火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気管が損傷していたり、換気の悪い場所では、知らない間に排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

長時間停車するときは空調を外気導入にする

エンジンをかけたまま長時間停車するときは、空調を手動で外気導入にしてください。空調を内気循環にすると、車内の圧力が下がり排気ガスが入り易くなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。ガレージの中や積雪した場所、その他周囲が囲まれた換気の悪い場所では、排気ガスが行き場を失い車内へはいりやすくなるため、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

坂道駐車はパーキングブレーキをしっかりとける

坂道での駐車は、パーキングブレーキをしっかりとかけ、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいらしてください。急な坂道ではさらに輪止めをしてください。輪止めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車の移動はエンジンをかける

車を少し移動させるときでも、必ずエンジンをかけてください。下り坂などで傾斜を利用して移動させると、ハンドルがロックされたり、ブレーキの効きが悪いため思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けると、パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

車から離れるときは必ずパーキングブレーキをかけ、施錠する

車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけエンジンを止め、ドアを施錠してください。また、盗難にあわないために、車内には貴重品を置かないでください。

お子さまを乗せるとき

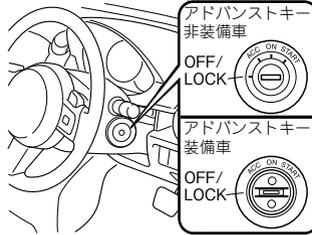
車から離れるときはお子さまも一緒につれていく

車から離れるときはお子さまだけを車内に残さないでください。

- お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 炎天下の車内はたいへん高温になり、お子さまが脱水症状を起こすおそれがあります。症状がひどくなると脳に障害が残ったり、最悪の場合死に至るなどお子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

電源ポジション (エンジンスイッチ)

各位置の働き



電源ポジション (エンジンスイッチ)	働き
OFF/LOCK	電源 OFF の状態
ACC	エンジン停止時に、オーディオなどが使用できる位置
ON	エンジン回転中の位置
START	エンジンを始動する位置

※印字 (刻印) は実際の車両と異なる場合があります。

知識

- 電源ポジションを ON にしたとき、燃料タンク付近からフューエルポンプのモーター作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- エンジンを止めたままのときは
オーディオなどを長時間使用したり、電源ポジションを ON または ACC のまま放置しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
- ハンドルがロックされているときは
キーまたは補助キー (エンジンスイッチ) をまわしにくいことがあります。ハンドルを左右に動かしながらキーまたは補助キー (エンジンスイッチ) をまわしてください。
- オートマチック車はセレクトレバーの位置が P 以外のときは、スタートノブをまわして、電源ポジションを ACC から OFF にすることができません。

エンジンの始動と停止

エンジンの始動

エンジンをかける前に

- 1] パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
- 2] マニュアル車はチェンジレバーがニュートラル位置、オートマチック車はセレクトレバーがPの位置にあることを確認します。
- 3] 正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。ペダルの踏み間違いのないように、ペダルの位置を確認しておいてください。
→ 30 ページ「正しい運転姿勢」

クラッチスタートシステムについて (マニュアル車)

クラッチスタートシステムは、ギヤが入っている状態でクラッチペダルを踏まずにスターターをまわしたとき、車が動き出すのを防止する装置です。

エンジンをかけるとき、クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとエンジンがかかりません。



知識

エンストで動けなくなったとき

ギヤを入れたまま電源ポジションをSTARTにし続けて車を緊急避難させることができます。

→ 226 ページ「エンストで動けなくなったとき」

エンジンがかかるとき (アドバンストキー装備車)

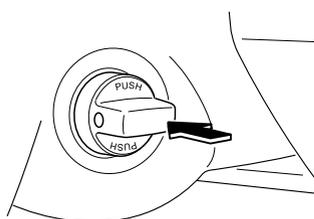
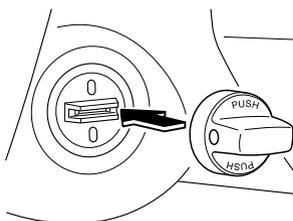
知識

● アドバンストキーの携帯について

アドバンストキーは必ず運転者が携帯してください。

● スタートノブがエンジンスイッチから取りはずされているときは

必ず取り付けてください。取り付け後はスタートノブがはずれないことを確認してください。



- 1 アドバンストキーを携帯していることを確認します。
- 2 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
- 3 マニュアル車は、クラッチペダルをいっばいに踏み込みます。
- 4 スタートノブをゆっくと奥まで押し込みます。
- 5 メーター内の KEY 表示灯 (緑) が点灯するのを確認します。

前進
に転
する

と運
転に
する

使室
内方
装備
の

しお
手
か
た
入
れ
の

起
ト
キ
ラ
た
ブ
ら
ル
が

車
用
ス
テッ
ク

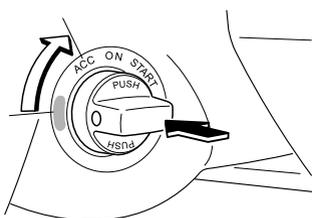
さ
い
ん

エンジンの始動と停止

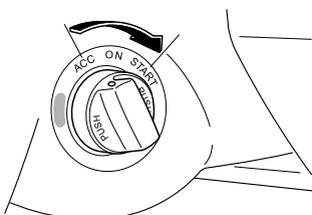
知識

次のようなときはメーター内のKEY警告灯(赤)が点滅し、エンジンをかけることができません。

- アドバンストキーの電池切れ
- アドバンストキーが作動範囲内でない
- アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
→ 20 ページ「アドバンストキーレスの機能を使っての操作」
- アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にある



- 6] スタートノブを押し込みながら、電源ポジションをACCにします。



- 7] アクセルペダルを踏まずに、電源ポジションをACCからSTARTにし、エンジンをかけます。

注意



禁止

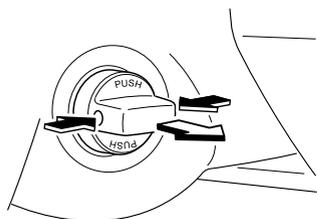
連続して10秒以上スタートノブをまわして、電源ポジションをSTARTにしないでください。スターターの故障やバッテリーあがりの原因になります。エンジンがかからないときは、スタートノブをまわして、電源ポジションをOFFにもどし、10秒以上待ってからエンジンをかけなおしてください。

知識

冷間始動後は

- エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。
- (SKYACTIV-G 1.3)
排気ガスの浄化を促進するためにエンジン回転数が高くなり、うなっている音が聞こえることがあります。部品機能の異常ではありません。

補助キーを使つての操作



キー（補助キー）を使つてエンジンをかけるときは、次の操作を行なつてください。

- 1 補助キーをアドバンスキーから取りはずします。
→ 16 ページ「アドバンスキー」
- 2 スタートノブをエンジンスイッチから取りはずします。
スタートノブは左右両側のボタンを押したまま手前に引くと、取りはずすことができます。
- 3 補助キーをエンジンスイッチに差し込みます。
- 4 エンジンスイッチをまわして、電源ポジションを ACC から OFF、または OFF から ACC にするときは、補助キーを押し込んでまわしてください。



知識

冷間始動後は

エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。

エンジンをかけるとき（ノーマルキー装備車）

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏みます。
- 2 マニュアル車は、クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。
- 3 アクセルペダルを踏まずに、電源ポジションを START にし、エンジンをかけます。



注意



禁止

連続して 10 秒以上、電源ポジションを START にしないでください。スターターの故障やバッテリーあがりの原因になります。エンジンがかからないときは、電源ポジションを OFF にもどし、10 秒以上待ってからエンジンをかけなおしてください。



知識

冷間始動後は

- エンジン制御システムの働きによりエンジン回転数が高くなりますが、自動的に適正な回転数に下がります。
- (SKYACTIV-G 1.3)
排気ガスの浄化を促進するためにエンジン回転が高くなり、うなっている音が聞こえることがあります。部品機能の異常ではありません。

2. 運転するときに

エンジンの始動と停止

エンジンの停止

- 1 マニュアル車はチェンジレバーをニュートラルの位置、オートマチック車はセレクトレバーを P の位置にします。
- 2 電源ポジションを ON から ACC にします。



知識

● バッテリーあがりについて

スタートノブをまわして、電源ポジションを ON から ACC にするとエンジンは停止しますが、バッテリーあがりの原因になりますので、ACC で放置しないでください。

● 電源ポジションを OFF にせずに車から離れると

警報やメーター表示でお知らせします。

→ 251 ページ「チャイムがなったときは」

→ 259 ページ「KEY 警告灯が赤色で点灯または点滅した」

● アドバンストキー装備車は

電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたとき、アドバンストキーの電池容量が少なくなっていることを感知したら、メーター内の KEY 表示灯 (緑) が約 30 秒間点滅します。新しい電池と交換してください。

→ 210 ページ「アドバンストキー」

● 電源ポジションについて

オートマチック車はセレクトレバーの位置が P 以外のときは、スタートノブを回して電源ポジションを ACC から OFF にすることができません。

- 3 アドバンストキー装備車は電源ポジションが ACC でスタートノブを押し込み、電源ポジションを OFF にします。
アドバンストキー装備車以外は、そのまま電源ポジションを OFF にします。



注意



車から離れるときは、電源ポジションが OFF になっていることを確認してください。

電源ポジションを OFF までもどさなかった場合、アドバンストキーが車内になくても再度エンジンをかけることができるため、車両を盗難されるおそれがあります。



知識

● 電源ポジションを OFF にするときは

スタートノブを ACC で押し込んでまわす必要があります。押し込まずにまわすと、スタートノブは ACC で止まるため、そのまま放置するとバッテリーがあがるおそれがあります。車から離れるときは、電源ポジションが OFF になっていることを確認してください。電源ポジションを OFF にせずに車から離れると、警報やメーター表示でお知らせします。
→ 251 ページ「警報チャイム」

● (SKYACTIV-G 1.3)

エンジンルームを早期に冷却するため、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、エアコンの ON/OFF にかかわらず電動ファンが数分間回転することがあります。

i-stop について グレード/仕様別装備

i-stop (アイ・ストップ) は燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、エンジン暖機後に信号待ちや渋滞などで車両を停止させたとき、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

アイドリングストップ・再始動

- 1 走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop 表示灯 (緑) が点灯します。
- 2 走行状態 (R レンジ以外) からブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップします。(i-stop 表示灯 (緑) はアイドリングストップ中も点灯します。)
- 3 D/L レンジでブレーキペダルから足を放すと、自動でエンジンが再始動し、i-stop 表示灯 (緑) が消灯します。再び走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、i-stop 表示灯 (緑) が点灯します。
セレクトレバーが N/P レンジでは、ブレーキペダルから足を放しても再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むと再始動します。

エンジンの始動と停止

⚠ 注意

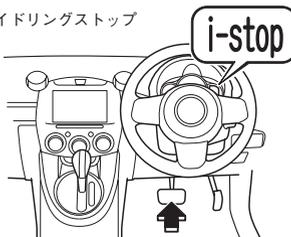
次の条件のときは走行中、i-stop 表示灯（緑）が点灯しても停車時に消灯し、アイドリングストップしません。

- 停車時のハンドルが直進状態でないとき
- 急な坂道に停車したとき
- アドバンストキーが正常に作動しないとき

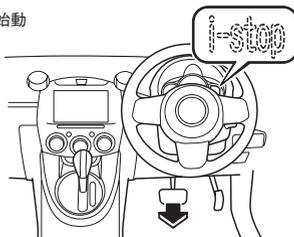
次のようなときはアドバンストキーが正常に作動しないことがあります。

- アドバンストキーを携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
 - アドバンストキーが金属製のものに接したり、おおわれたりしているとき
 - アドバンストキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
 - 純正品以外の電子機器を取り付けたとき
 - 近くに電波を発する設備があるとき
 - アドバンストキーの電池が消耗しているとき
- 電池交換の目安は 16 ページを参照ください。

アイドリングストップ



再始動



📖 知識

- i-stop は、安全かつ快適にご使用いただくためにドライバーの操作以外に、車内外の環境、車両の状態などの状況を常にモニターし、アイドリングストップ・再始動を制御しています。
- 次の条件をすべて満たしているときにアイドリングストップします。
 - エンジンを始動したのち、一度走行したあと（走行せずにアイドリングを続けても、i-stop は作動しません。また、停車中に自動でアイドリングストップ・再始動を繰り返すこともありません。）
 - ボンネットを開けてエンジンを始動したとき
 - エンジン、オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
 - 車両が停車しているとき
 - バッテリーの状態が良好のとき
 - 全てのドア、リヤゲート、ボンネットが閉まっているとき
 - 運転席シートベルトを着用しているとき



知識

- ・曇り取りスイッチが OFF のとき
- ・アドバンストキーが車内にあるとき
- ・エアコンの温度設定ダイヤルが、最大暖房 / 最大冷房以外の位置となっているとき
- ・車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
- ・標高約 1500m 以下で使用しているとき
- ・i-stop 警告灯 (橙) が点灯 / 点滅、エンジン警告灯が点灯していないとき
- ・リモートコントロール機能が正常なとき
- ・セレクトレバーが D/L または N レンジのとき
- ・オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
- ・ブレーキ負圧が十分に高いとき
- ・ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしてもハンドルに力を入れているとアイドリングストップしない場合があります。アイドリングストップさせたいときは、ハンドルから力をゆるめてみてください。)
- ・ハンドル操作をしていないとき
- ・ブレーキペダルを踏んで停車させたとき (アイドリングストップせず i-stop 表示灯 (緑) が点滅しているときは、ブレーキペダルの踏み方が不足している可能性があります。少しブレーキペダルを踏み足してください。)
- ・急制動ではないとき
- ・立体駐車場などの急な坂道で停車していないとき
- 次の条件のときはアイドリングストップするまでに時間がかかることがあります。
 - ・車両を長期間使用しなかったときなどでバッテリーが放電したとき
 - ・外気温が高いとき、または、低いとき
 - ・バッテリー交換等によりバッテリー端子をはずしたあと
- アイドリングストップ中に以下の操作を行うと i-stop 警告灯 (橙) が点灯し、安全を確保するためにブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しません。この場合は、通常の操作でエンジンを始動してください。
 - ・ボンネットを開けたとき
 - ・D/L レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)
- アイドリングストップ中にセレクトレバーを D/L レンジから N レンジ、または D/L レンジから P レンジへ操作するとブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しません。もう一度ブレーキペダルを踏むか、セレクトレバーを D/L または R レンジへ操作すると再始動します。また、N または P レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき) にも、エンジンが再始動します。(安全のため、アイドリングストップ中にセレクトレバーを操作する時は、必ずブレーキペダルを踏み込んだ状態で行なって下さい。)

前選
に転
する

と運
転に
する

使室
内方
装備
の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
プら
ルが

車両
スベ
ック

さい

エンジンの始動と停止



知識

- アイドリングストップ中に以下の操作を行うと、ブレーキペダルから足を放さなくてもエンジンが再始動します。
 - ・ i-stop OFF スイッチをチャイムが鳴るまで押し続けたとき
 - ・ エアコンの温度設定ダイヤルを、最大暖房 / 最大冷房の位置にしたとき
 - ・ 曇り取りスイッチを ON にしたとき
 - ・ アドバンストキーを車外に持ち出したとき
 - ・ 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
 - ・ D/L レンジでアクセルペダルを踏んだとき
 - ・ セレクトレバーを R レンジにしたとき
 - ・ セレクトレバーを N または P レンジから D/L レンジにしたとき
 - ・ セレクトレバーが D/L レンジのまま、ハンドル操作をしたとき
- アイドリングストップ中に以下の車両状態になると、ブレーキペダルから足を放さなくてもエンジンが再始動します。
 - ・ 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
 - ・ アイドリングストップしてから 2 分経過したとき
 - ・ バッテリーの放電が進んだとき
- 次のときはエンジン停止時間が短くなる、または次のアイドリングストップが可能になるまでの時間が長くなる場合があります。
 - ・ 外気温が高いとき、または、低いとき
 - ・ バッテリーの放電が進んだとき
 - ・ 車載装備などの電流消費が多いとき
- 外気温が非常に低い、または高いときには、アイドリングストップしません。
- バッテリー端子をはずした場合は、バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要がありますので、マツダ販売店にご相談ください。

i-stop 警告灯 (橙)/i-stop 表示灯 (緑)

i-stop

i-stop は、安心かつ快適にご使用いただくために、ドライバーの操作状況や、車内外の環境、車両の状態などの状況常によりさまざまな注意をドライバーにお知らせします。

i-stop 警告灯 (橙)

点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。
- i-stop OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯します。
- アイドリングストップ中に以下の操作を行うと i-stop 警告灯 (橙) が点灯します。この場合は安全を確保するために、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しないため、通常の操作でエンジンを始動してください。
 - ボンネットを開けたとき
 - D/L レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき)



知識

ボンネットを開けたときや、ドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき) 以外で、i-stop 警告灯 (橙) が点灯しているときに、i-stop OFF スイッチを押しつづけても消灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop 表示灯 (緑)

点灯するとき

アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。

点滅するとき

ブレーキペダルを強く踏まずに停車させると点滅します。ブレーキペダルの踏力が不足している可能性があります。少しブレーキペダルを踏み足してください。

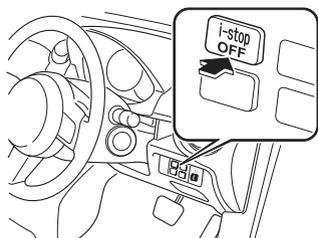
2. 運転するときに

エンジンの始動と停止

i-stop 警告チャイム

- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けるとチャイムが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。運転席ドアを閉めると鳴り止みます。
- アイドリングストップ中に以下の操作を行うとチャイムが鳴り、安全を確保するためにブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しません。この場合は、通常の操作でエンジンを始動してください。
 - ・ ボンネットを開けたとき
 - ・ D/Lレンジでドライバーが車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき）

i-stop OFF スイッチ



スイッチをチャイムが鳴るまで押しつづけると、i-stop の作動が解除され、メーター内の i-stop 警告灯（橙）が点灯します。もう一度チャイムが鳴るまで押しつづけると i-stop が作動可能な状態になり、i-stop 警告灯（橙）が消灯します。

📖 知識

i-stop を解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

ディスプレイ表示

アイドリングストップ時間表示

i-stop時間
30h20m44s
累計
1134h50m

電源ポジションが ON のとき INFO スイッチを押していくと、i-stop によるアイドリングストップ時間を表示させた時点分（i-stop 時間）と今までの合計分（累計）を表示します。

i-stop メッセージ表示



知識

i-stop メッセージ表示は、アイドリングストップ時間表示画面のときに表示します。

i-stop

通常の操作で
エンジンを始動
してください

エンジン始動表示

アイドリングストップ中の以下の操作により、ブレーキペダルから足を放しても自動でエンジンが再始動しないときに表示します。この場合は、通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- D/L レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき）

i-stop

作動できません
エアコンの
作動を優先して
います

i-stop 理由表示

アイドリングストップしない理由を表示します。表示された条件を満たすと表示が消えもとの画面にもどります。



知識

アイドリングストップしない理由が複数ある場合は、最初に要因となった理由を表示しますが、複数同時に発生するとまとめて表示します。

i-stop

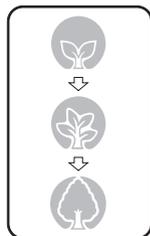
作動できません

- ・ハンドル
- ・ブレーキ
- ・エアコン

2. 運転するときに

エンジンの始動と停止

i-stop 表示

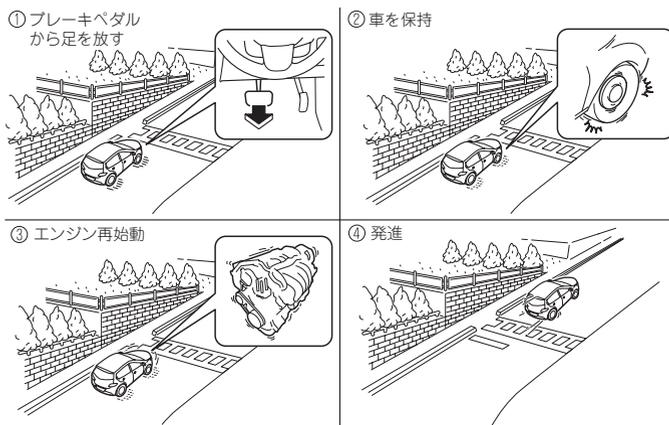


i-stop
今回のi-stop率
87%
累計効果
🌱🌱×120

電源ポジションを ON から OFF にしたとき、車の停車時間における i-stop によるアイドリングストップ時間（今回の i-stop 率）と累計効果を一定時間表示します。累計効果は、i-stop によるアイドリングストップ時間の累積時間に応じてリーフが成長します。成長したリーフは累計され、本数が表示されます。

発進補助装置について

i-stop 装備車には発進補助機能が装備されています。発進補助機能とは、坂道で停車もしくはアイドリングストップしている間にブレーキペダルから足を放したときに、坂道での前後退やクリーブ現象などで不意に車両が飛び出すことを防ぐため、自動でブレーキ力を保持する機能です。





警告



必ず守る

システムを過信しない

発進補助機能はあくまでもアイドリングストップ状態及び車両を発進させる際に、ブレーキから足を放したあと最長4秒間作動する補助装置です。システムを過信して操作すると意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあるため非常に危険です。発進時は周囲の安全を確認してセレクトレバーやブレーキペダル、アクセルペダルを適切に操作してください。積載やけん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

車両が以下の状態では、発進補助機能が解除されたあとに車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

- セレクトレバーがNレンジの場合。

アイドリングストップ中にセレクトレバーをNレンジに操作し、ブレーキペダルから足を放したときは、ブレーキ力が徐々に解除されます。発進時はセレクトレバーをNレンジ以外の位置にしてエンジンを再始動させたあとに、ブレーキペダルから足を放してください。



知識

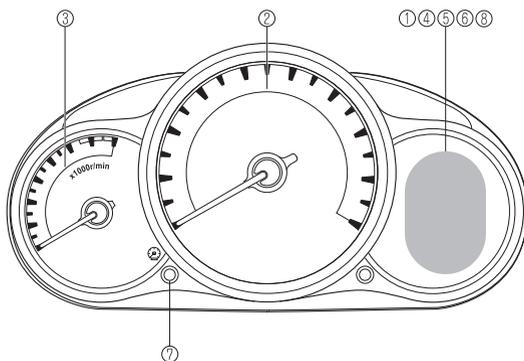
発進補助機能の作動により、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、ブレーキから音が発生したり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが、異常ではありません。

メーター、警告灯、表示灯の見方

メーター

メーターはグレードや仕様により異なります。

ブラックアウトメーター装備車および SKYACTIV 専用メーター装備車は、電源ポジションを ON にするとメーター照明が点灯します。



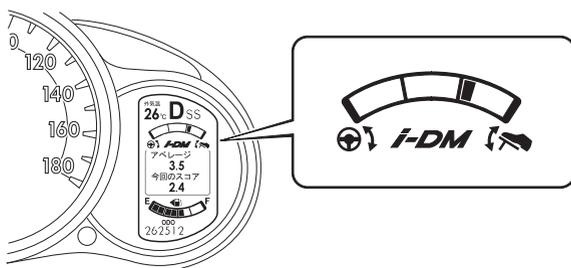
(1) インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM)	101
(2) スピードメーター	105
(3) タコメーター	105
(4) オドメーター/トリップメーター	106
(5) 燃料計	107
(6) トリップコンピューター	109
(7) パネルライトコントロールスイッチ	111
(8) 外気温表示	112

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) (SKYACTIV 専用メーター装備車)

「i-DM」はマツダ車の「走る歓び」と「優れた環境安全性能」を十分に実感していただくためのドライビングサポートシステムです。乗員全員が車両との一体感を感じながら爽快なドライブを楽しめるようになる運転技量の習得 / 向上をサポートします。

インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージ

走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の適正状態を診断し、ランプ及びゲージを通じてドライバーにリアルタイムに結果を知らせます。



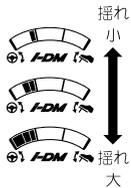
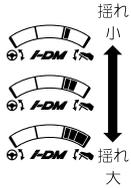
運転操作の状況は、次のように表示されます。(コーチング機能)

ランプの種類	点灯パターン	内容	運転のポイント
グリーンランプ 	点灯表示	やさしい運転を示します。ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行で燃費の良い運転です。	<ul style="list-style-type: none"> ● 加速をするとき / やめるときに、アクセルペダルをゆっくり踏む / もどす ● 減速をするとき / やめるときに、ブレーキペダルをゆっくり踏む / もどす ● 旋回をするとき / 直進にもどすときに、ハンドルをゆっくり切る / もどす

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

ランプの種類	点灯パターン	内容	運転のポイント
<p>ブルーランプ</p> 	<p>グリーンランプより少し大きめの枠になり、下側から上側へ流れるように点灯表示</p>   	<p>しなやかな運転を示します。特に以下の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちの良い運転です。</p> <p>走行タイプ 1 適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。</p> <p>走行タイプ 2 加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。</p>	<p>走行タイプ 1 の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加速をするときに、最適な踏み込み量 / 速さでアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、最適な踏み込み量 / 速さでブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、最適な切り込み量 / 速さでハンドルを操作する <p>走行タイプ 2 の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加速をするときに、一定の加速度を継続するようにアクセルペダルを操作する ● 減速をするときに、一定の減速度を継続するようにブレーキペダルを操作する ● 旋回をするときに、一定の横 G を維持するようにハンドルおよびアクセルペダルを操作する

ランプの種類	点灯パターン	内容	運転のポイント
<p data-bbox="88 279 228 338">ホワイトゲージ</p> 	<p data-bbox="239 279 381 475">ハンドル操作によって起こる体の横揺れを左側のゲージに3段階で点灯表示</p>  <p data-bbox="239 702 381 934">アクセル/ブレーキ操作によって起こる体の縦揺れを右側のゲージに3段階で点灯表示</p> 	<p data-bbox="394 279 681 440">体が揺れる運転を示します。やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行で燃費のあまり良くない運転です。</p>	

前運
に転
する

と運
ぎ転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
が手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スペース

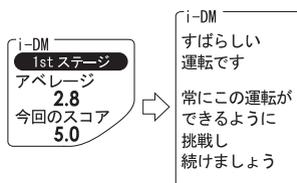
さしい

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示

運転終了後、電源ポジションを ON から OFF にしたとき、今回のスコア (今回の評価値) とアベレージスコア (過去 10 回のスコアの平均値) を表示します。その後、今回のスコアに応じて、文字によるワンポイントアドバイスを一定時間表示します。(ティーチング機能)
また、現在のステージも同時に表示します。ステージは、1st ステージから 3rd ステージまであり、ステージが上がると診断が厳しくなります。運転技量が上がり、現在のステージでアベレージスコアを高く保てるようになると、次のステージへ上がります。逆に、低いアベレージスコアが続くとステージが下がります。



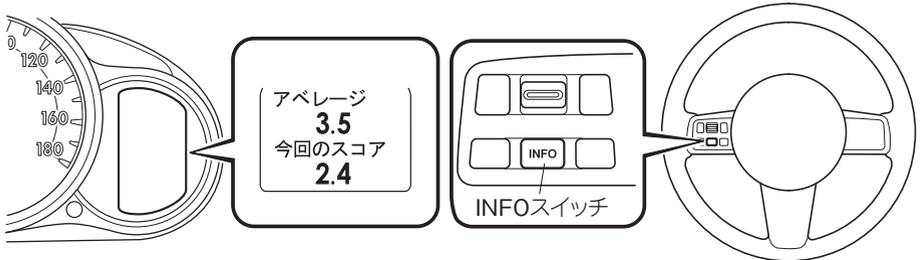
ワンポイントアドバイス

表示内容
すばらしい運転です 常にこの運転ができるように挑戦し続けましょう
上達しています この調子を維持して上のレベルに挑戦しましょう
上達しています この調子で上のレベルを目指しましょう
頻繁なアクセル操作は控えましょう
頻繁なブレーキ操作は控えましょう
頻繁なハンドル操作は控えましょう
適度な加速を心がけましょう
適度な減速を心がけましょう
滑らかなハンドル操作を心がけましょう
今回は短い走行のため運転診断結果はありません



知識

電源ポジションが ON のとき、INFO スイッチを押していくことでもアベレージスコアと今回のスコアを表示できます。この場合の今回のスコアは、表示させた時点のスコアになります。尚、ステージは表示されません。



スピードメーター

走行速度を km/h で示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。



注意



必ず守る

指針がレッドゾーン（許容回転数以上を示す）にはいらないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。



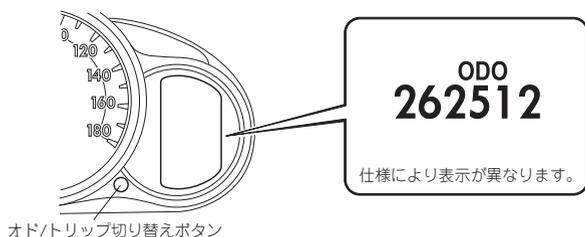
※仕様により範囲が異なります。

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

オドメーター/トリップメーター

オドメーター/トリップメーターが表示されているとき、オド/トリップ切り替えボタンを押すごとに、オドメーターとトリップメーターの表示が切り替わります。



オドメーター

走行した総距離を km 単位で示します。“ODO”が表示されます。

トリップメーター

一定区間の走行距離を km 単位で示します。(右側の数字は 100m 単位です。) “TRIP” が表示されます。2 種類 (TRIP A、TRIP B) の区間距離を計測することができます。たとえば、TRIP A モードで給油してからの距離を測りながら、TRIP B モードで出発してからの距離を測ることができます。トリップメーターを “0.0” にもどすときは、それぞれのモードのときオド/トリップ切り替えボタンを 1 秒以上押し続けます。



知識

● (標準メーター装備車)

オドメーター/トリップメーターは、電源ポジションを ACC または OFF にしている場合でも、次のようなときは表示されます。

- ・ 電源ポジションを ON から ACC または OFF にした後の約 10 分間。
- ・ ドアを閉めた状態から開けた状態にした後の約 10 分間。

● (SKYACTIV 専用メーター装備車)

オドメーター/トリップメーターは、電源ポジションを ACC または OFF にしている場合でも、ドアが開いているときは表示されます。

● (ブラックアウトメーター装備車)

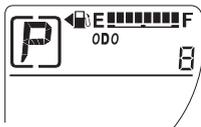
電源ポジションが ACC または OFF のとき、オドメーター/トリップメーターは表示されませんが、次のようなときは、オド/トリップ切り替えボタンが機能します (ボタンを操作するとトリップメーターは切り替え/リセットされます)。

- ・ 電源ポジションを ON から ACC または OFF にした後の約 10 分間。
- ・ ドアを閉めた状態から開けた状態にした後の約 10 分間。
- 次のようなときは、トリップメーターの表示が “0.0” にもどります。
 - ・ 車両整備などでバッテリーとの接続が断られたとき。
 - ・ 走行距離が 999.9km を超えたとき。

燃料計

電源ポジションが ON のとき、燃料の残量を示します。

SKYACTIV 専用メーター-非装備車



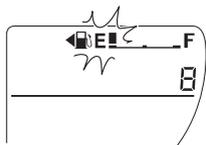
SKYACTIV 専用メーター-装備車



2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

SKYACTIV専用メーター非装備車



最後の1目盛りと“E”が点滅しているときは、燃料の残量が少ないことを示しています。早めに燃料を補給してください。

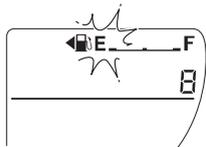
SKYACTIV専用メーター装備車



給油してください



SKYACTIV専用メーター非装備車



次のように点滅しているときは、燃料の残量が非常に少ないことを示しています。すみやかに燃料を補給してください。→ 57 ページ「給油するとき」

SKYACTIV 専用メーター非装備車

“E”だけが点滅しているとき

SKYACTIV専用メーター装備車



給油してください



SKYACTIV 専用メーター装備車

燃料計表示部全体と燃料計マークが点滅しているとき



知識

- 燃料補給後は、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- 矢印 () は燃料補給口が助手席側にあることを示します。
- 燃料タンク内の燃料残量が 6L 前後になった時に点滅します。点滅したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、点滅のタイミングが変わる場合があります。

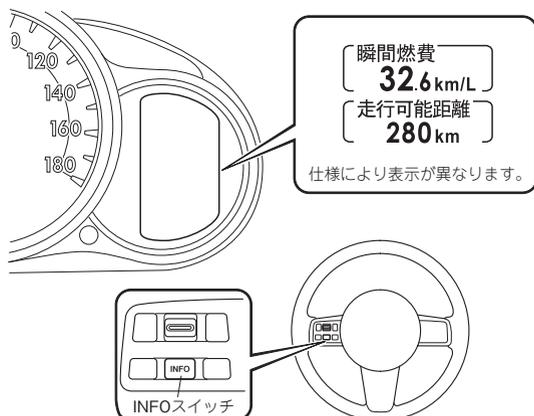
(SKYACTIV 専用メーター装備車)

- “給油してください” 表示中に INFO ボタンを押すと、トリップコンピュータ表示に戻り、燃料計表示部のみが点滅します。
- “給油してください” 表示中にドア、リヤゲートが確実に閉められていない場合、半ドア警告灯が点灯し、燃料計表示部のみが点滅します。

トリップコンピューター

電源ポジションが ON のとき、INFO スイッチを押すごとに、次の情報を表示することができます。

- 瞬間燃費表示
- 平均燃費表示
- 走行可能距離表示
- 平均車速表示
- 外気温表示
- アイドリングストップ時間表示
- インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示



2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方



知識

表示される数値は、周囲の状況、走行条件などにより、正しい数値を表示しないことがあります。

車両整備などでバッテリーとの接続が断られると、過去の累積データは消去されます。

トリップコンピューターに異常があるときは、マツダ販売店にご相談ください。

瞬間燃費表示

走行しはじめてから、約 2 秒毎の瞬間燃費表示を消費燃料から算出して表示します。



知識

時速が約 5km/h になると --- km/L を表示します。

平均燃費表示

お車を購入された時、または、過去のデータを消去した時はデータを消去した時からの累積走行距離と累積消費燃料から、約 1 分間毎に平均燃費を算出して表示します。



知識

表示されている過去のデータを消去するには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押すか、トリップメーターの TRIP A を“0.0”にもどします。データを消去すると、燃費を再算出して表示する前に 1 分間 --- km/L を表示します。

走行可能距離表示

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。



知識

走行可能距離が十分走行できる数値であっても燃料計が E に近づくか、燃料残量警告灯が点灯したら早めに燃料を補給してください。

約 10L 以上燃料を加えないと表示は変化しません。

平均車速表示

お車を購入された時、または、過去のデータを消去した時はデータを消去した時からの累積走行距離と走行時間から、約 10 秒間毎に平均車速を算出して表示します。



知識

表示されている過去のデータを消去するには、INFO スイッチを 1.5 秒以上押します。データを消去すると、車速を再算出して表示する前に 1 分間 --- km/h を表示させます。

外気温表示 (SKYACTIV 専用メーター非装備車)

外気温を表示します。



知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

アイドリングストップ時間表示 (i-stop 装備車)

アイドリングストップ時間を表示します。

→ 96 ページ「ディスプレイ表示」

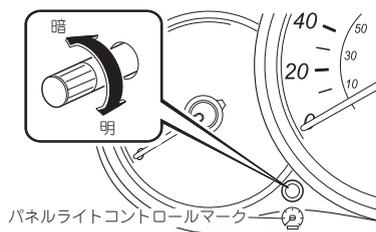
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 表示 (SKYACTIV 専用メーター装備車)

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 情報を表示します。

→ 101 ページ「インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) (SKYACTIV 専用メーター装備車)」

パネルライトコントロールスイッチ グレード/仕様別装備

メーター照明の明るさは、ランプスイッチの位置に関係なく調節できます。



減光解除機能

ランプスイッチを ① または ② の位置にすると、メーターが減光されます。パネルライトコントロールスイッチを右にいっぱいまでまわすと、“ピッ”と音がして減光が解除できます。



知識

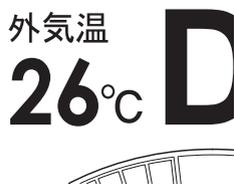
パネルライトコントロールスイッチが減光解除位置のときは、ランプスイッチを ① または ② の位置にしてもメーターは減光されません。

2. 運転するとき

メーター、警告灯、表示灯の見方

外気温表示 (SKYACTIV 専用メーター装備車)

電源ポジションが ON のとき表示します。



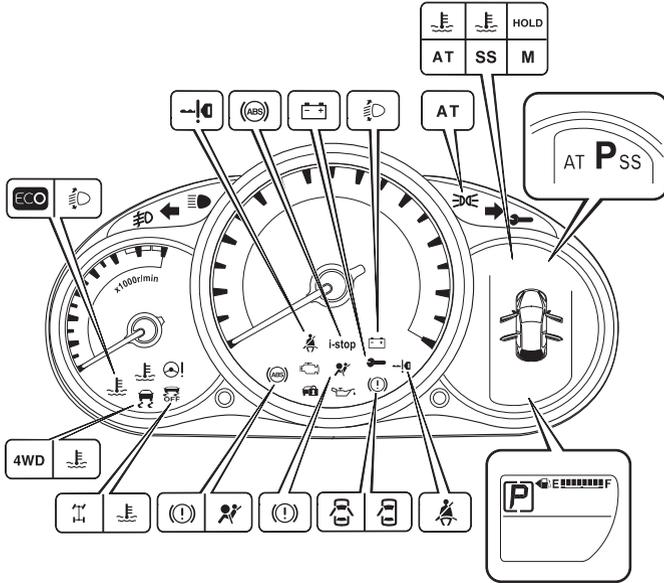
知識

次のようなとき、外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

- 著しく寒いとき、暑いとき
- 外気温が急激に変化したとき
- 停車時
- 低速走行時

警告灯、表示灯

メーターはグレードや仕様により異なりますので、実際のお車の警告灯 / 表示灯で確認し、処置方法を下表で確認してください。



警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	ブレーキ警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジション ON で点灯し、しばらくすると消灯 ● パーキングブレーキをかけているとき点灯し、解除すると消灯 ● 次のようなときは点灯し続ける <ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーキ液が不足している ・ ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常がある 	点灯し続けるときは、安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	故障警告表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● ブレーキスイッチに異常があると点灯し続ける ● 充電装置に異常があると点灯し続ける <p style="text-align: center;">グレード/仕様別装備</p>	点灯し続けるときは、マツダ販売店で点検を受ける
	ABS 警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● システムに異常があるときは点灯し続ける 	点灯し続けるときは、マツダ販売店で点検を受ける
	充電警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯 	点灯したときはただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する
	油圧警告灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯 	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジン回転中に点灯したときはただちに安全な場所に停車し、エンジンを止め、エンジンオイルの量を点検する ● エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときはマツダ販売店に連絡する

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	エンジン警告灯	<p>点灯するとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● エンジン制御システムに異常があると点灯し続ける <p>点滅するとき</p> <p>エンジン制御システムに異常があると点滅し続ける</p>	<p>点灯 / 点滅したときは高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受ける</p>
	高水温警告灯 (赤)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると点灯 	<p>点滅したとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行する <p>点灯したとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をする →244ページ「オーバーヒートについて」

前運
に転
する

と運
転に
する

使室
い内
方装
備の

しお
か手
かた
入れ
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スベツク

さしい

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
i-stop	i-stop 警告灯 (橙)	<p>点灯するとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● i-stop OFF スイッチを押してシステムを解除すると点灯 ● アイドリングストップ中に次の操作を行なうと点灯 <ul style="list-style-type: none"> ・ ボンネットを開けたとき ・ D/L レンジでドライバーが車両から降りようとしたとき (運転席シートベルトをはずして運転席ドアを開けたとき) <p>点滅するとき システムに異常があるときは点滅し続ける</p>	点滅しているときは、マツダ販売店で点検を受ける
	i-stop 表示灯 (緑)	<p>点灯するとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アイドリングストップ可能 なとき、またはアイドリングストップ中に点灯 エンジンが再始動すると消灯 <p>点滅するとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキペダルを強く踏ま ずに停車させると点滅 ブレーキペダルの踏力が不 足している可能性がある 	点滅しているときは、少しブレーキペダルを踏み足す

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">4WD</p>	<p>4WD 警告灯 <small>グレード/仕様別装備</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● 4WD システムに異常があるとき点灯 ● 4WD 作動中、次のようなとき点滅し、4WD 警告灯が点滅したときは、4WD の作動を停止 <ul style="list-style-type: none"> ・ モーターの温度が上昇したとき ・ セレクトレバーが正しい位置にないとき ・ 4 輪に同一サイズのタイヤが装着されていないとき 	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯したときは高速走行を避け、マツダ販売店で点検を受ける ● 点滅したときは、次のように処置する <p>モーターの温度が上昇したとき セレクトレバーを P の位置にして、アイドル状態であれば停車する</p> <p>セレクトレバーが正しい位置にないとき セレクトレバーを正しい位置に入れる</p> <p>4 輪に同一サイズのタイヤが装着されていないとき 4 輪とも同一サイズのタイヤを装着する</p>
<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">AT</p>	<p>オートマチックトランスミッション警告灯 <small>グレード/仕様別装備</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 ● 走行中、システムに異常があると点灯 <p>(SKYACTIV 専用メーター装備車) 走行中、システムに異常があると外気温表示灯が AT 警告灯に切り替わる</p>	<p>点灯したときはマツダ販売店で点検を受ける</p>

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	電動パワーステアリング警告灯	<p>点灯するとき</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると点灯 <p>点滅するとき</p> エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると点滅	点灯 / 点滅したときはエンジンを停止する エンジンを再始動した後も消灯しない場合は、マツダ販売店で点検を受ける
	エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯	電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯	次のようなときはシステムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受ける <ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき 点灯 / 点滅し続けるとき
	シートベルト警告灯	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションが ON のとき、運転席シートベルトを着用していないと点灯 運転席シートベルトを着用しないまま約 20km/h 以上になると点滅 その後も着用しないままだと点灯し続ける 	運転席シートベルトを着用する

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
 <p>グレード/仕様別装備</p>	半ドア警告灯	<p>ドア、リヤゲートが確実に閉まっていないと点灯</p> <p> 警告</p> <p> 半ドア警告灯が点灯したまま走行しない。 走行中に、ドア、リヤゲートが開き思わぬ事故につながるおそれがあります。</p> <p>(SKYACTIV 専用メーター装備車)</p> <p>開いているドアの場所が表示</p>	ドア、リヤゲートを確実に閉める
 <p>グレード/仕様別装備</p>			
 <p>グレード/仕様別装備</p>			

前運
に転
する

と運
ぎ転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
が手
た入
れの

起ド
きラ
たプ
らル
が

車前
スペース

さくい

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	KEY 警告灯 (赤) <small>グレード/仕様別装備</small>	<p>点灯するとき</p> <ul style="list-style-type: none">● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯● アドバンスキーレス機能になんらかの故障が発生すると点灯し続ける <p>点滅するとき</p> <ul style="list-style-type: none">● 次のようなとき、警告灯が点滅し、電源ポジションを OFF 以外にできないことを知らせる<ul style="list-style-type: none">・ アドバンスキーの電池が切れたとき → 207 ページ「アドバンスキー」・ アドバンスキーが作動範囲内にないとき・ アドバンスキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき → 20 ページ「アドバンスキーレスの機能を使った操作」・ アドバンスキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき● 次のようなときは警告灯が点滅し続け、電源ポジションを OFF にせずに、アドバンスキーを車外に持ち出したことを知らせる アドバンスキーを車内にもどすと消灯<ul style="list-style-type: none">・ 電源ポジションを OFF にせずに、運転席ドアを開け、アドバンスキーを車外に持ち出したとき・ 電源ポジションを OFF にせずに、アドバンスキーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを開めたとき	

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	KEY 表示灯 (緑) <small>グレード/仕様別装備</small>	点灯するとき 電源ポジションが OFF の状態でスタートノブを押し込んだとき、正規のアドバンストキーが車内にあることを確認できると点灯し、スタートノブを ACC にまわすことができることを知らせる → 86 ページ「エンジンの始動」 点滅するとき アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていると、電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたときに、30 秒間点滅	点滅したときは、アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換する → 207 ページ「アドバンストキー」
	TCS/DSC 作動表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	点灯するとき 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 点滅するとき 走行中に TCS または DSC が作動すると点滅	次のようなときはシステムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受ける <ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき ● 走行中に点灯したとき
	DSC OFF 表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 ● DSC OFF スイッチを押して、TCS/DSC を解除すると点灯 	次のようなときはシステムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受ける <ul style="list-style-type: none"> ● 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき ● TCS/DSC を解除していないのに点灯したとき

2. 運転するときに

メーター、警告灯、表示灯の見方

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	ヘッドランプ オートレベリング 警告灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯	点灯し続けるときはマツダ販売店で点検を受ける
	低水温表示灯 (青)	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯 エンジン冷却水の温度が低いときに点灯し続ける 	十分に暖機しても点灯したままのときは、マツダ販売店で点検を受ける
	ECO 表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	<ul style="list-style-type: none"> 環境にやさしい運転をしているときに点灯 アクセルペダルを急激に踏み込むと消灯 	
HOLD	ホールドモード 表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	ホールドスイッチを押してホールドモードにすると点灯 →131 ページ「ホールドモード (4EC-AT 車)」	点滅したときは、マツダ販売店で点検を受ける
 <small>グレード/仕様別装備</small>	セレクトレバー 位置表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションが ON のとき、使用中のセレクトレバーのセット位置を示す マニュアルモード付 CVT 車は、マニュアルモード中は使用しているギヤ位置を表示 →128 ページ「マニュアルモード (CVT 車)」<small>グレード/仕様別装備</small> 	
 <small>グレード/仕様別装備</small>			
SS	SS モード表示 灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	SS モードスイッチを押して SS モードにすると点灯 →127 ページ「SS モード (Sports & Slope モード、CVT 車)」	
M	マニュアルモード 表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	SS モード中にステアリングソフトスイッチを操作してマニュアルモードにすると点灯 →128 ページ「マニュアルモード (CVT 車)」 <small>グレード/仕様別装備</small>	

警告灯 / 表示灯	名称	点灯 / 点滅条件	処置方法
	4WD 表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯 4WD スイッチを押して 4WD が作動可能な状態になると、4WD 表示灯が点灯 	
	ヘッドランプ上向き表示灯	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドランプを上向き (ハイビーム) にすると点灯 下向き (ロービーム) にすると消灯 	
	方向指示 / 非常点滅表示灯	方向指示器 / 非常点滅灯スイッチを操作すると点滅	点滅が異常に速くなったときは、マツダ販売店で点検を受ける
	セキュリティ表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	<ul style="list-style-type: none"> 電源ポジションを ON から ACC または OFF にするとシステムが作動し、セキュリティ表示灯が点滅 登録されたキー / アドバンストキーで電源ポジションを ON にするとシステムが解除され、約 3 秒間表示灯が点灯した後消灯 	登録されたキー / アドバンストキーで電源ポジションを ON にしても表示灯が点灯 / 点滅し続けるときは、マツダ販売店で点検を受ける
	車幅灯表示灯 <small>グレード/仕様別装備</small>	<ul style="list-style-type: none"> ランプスイッチが、 の位置のときに点灯 AUTO の位置のときは車幅灯、尾灯が点灯すると点灯 	
	フォグランプ表示灯	<ul style="list-style-type: none"> フォグランプを点灯させると点灯 フォグランプを消灯させると消灯 	

前週
に転
する

と運
ぎ転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ド
きラ
たプ
らル
が

車前
スベツク

さしい

2. 運転するときに

トランスミッションの使いかた

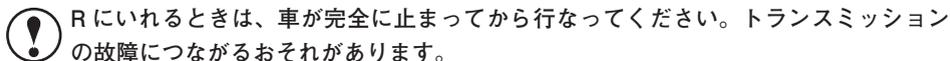
マニュアルトランスミッション

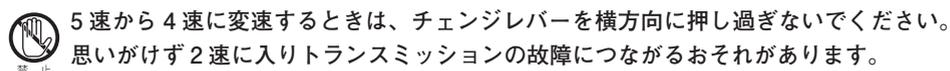


チェンジレバーを操作するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んでください。Rにいれるときは、チェンジレバーをニュートラル位置にして、操作してください。

○ニュートラル位置

⚠ 注意

 Rにいれるときは、車が完全に止まってから行なってください。トランスミッションの故障につながるおそれがあります。

 5速から4速に変速するときは、チェンジレバーを横方向に押し過ぎないでください。思いがけず2速に入りトランスミッションの故障につながるおそれがあります。

オートマチックトランスミッション

オートマチック車の特性

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り替えを自動化した車で、その分操作の負担が軽くなります。運転は楽になりますが、安易に運転することは禁物です。オートマチック車の特性を理解し、正しい操作をする習慣をつけてください。

クリーブ現象

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがP、N以外にはいと、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。この現象をクリーブ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時は、エンジンの回転数が高くなりクリーブ現象が強くなります。ブレーキペダルをしっかりと踏んでおいてください。
- 渋滞や狭い場所での移動は、クリーブ現象を利用すると、アクセルペダルを踏まずにブレーキ操作のみで速度を調節できます。

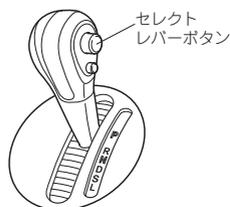
キックダウン (4EC-AT 車)

走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、キックダウンすることができます。

- 追い越しや高速道路での合流など、加速が必要なときに行ないます。
- すべりやすい路面やカーブを走行するときは、急激なアクセル操作はしないでください。

各位置の働き

4EC-AT 車



P
R
N
D
S
L

P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。

Pでのみエンジンスイッチからキーまたは補助キーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。

チャイムが鳴り、セレクトレバーがRにはいつていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。

エンジンを始動することはできますが、安全のためPの位置で行なってください。

D (ドライブ)

通常走行する位置。車速に応じて1速から4速までを自動変速します。

S (スロープ)

下り坂などエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。車速に応じて1速から3速までを自動変速します。

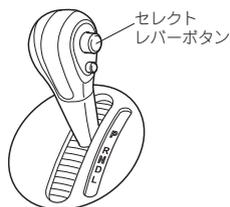
L (ロー)

急な下り坂など強力なエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。

車速に応じて1速と2速を自動変速します。

トランスミッションの使いかた

CVT 車



P
R
N
D
L

P (パーキング)

駐車およびエンジンを始動する位置。

P でのみエンジンスイッチからキーまたは補助キーを抜くことができます。

R (リバース)

車を後退させる位置。

チャイムが鳴り、セレクトレバーが R にはいつていることを運転者に知らせます。

N (ニュートラル)

動力が伝わらない位置。

エンジンを始動することはできますが、安全のため P の位置で行なってください。

D (ドライブ)

通常走行する位置。

車速とアクセルペダルの踏み加減に応じて自動変速します。また、SS モードやマニュアルモード*に切り替えることができます。

→127ページ「SSモード (Sports & Slope モード、CVT車)」

→128ページ「マニュアルモード (CVT車) グレード/仕様別装備」

* マニュアルモード装備車

L (ロー)

急な下り坂など強力なエンジンブレーキが必要なときに使用する位置。

シフトロック装置

シフトロック装置は、発進時の誤操作を防ぐためのものです。

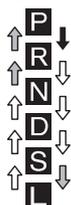


知識

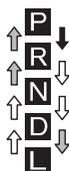
- 電源ポジションが OFF のときは、セレクトレバーを P から動かすことはできません。
- セレクトレバーが P 以外の位置ではキーを抜くことができません。

セレクトレバーの操作

4EC-AT車



CVT車



レバー操作	
	ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーボタンを押して操作します。
	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作します。
	セレクトレバーボタンを押して操作します。



警告



⇒ の操作はセレクトレバーボタンを押さずに行なう。
いつもボタンを押して操作していると、意に反した位置にいれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

セレクトレバーを P から操作するとき、セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏むと操作できないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでから操作してください。

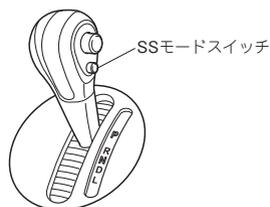
SS モード (Sports & Slope モード、CVT 車)

SS モードは、下り坂でエンジンブレーキが必要なときや、カーブの多い急な上り坂をなめらかに走行したいときに使用するモードです。

2. 運転するときに

トランスミッションの使いかた

SS モードスイッチ



セレクトレバーがDの位置のときにSSモードスイッチを押すと、SSモードになります。次の場合、SSモードは解除されます。

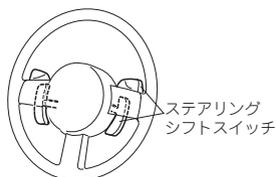
- SSモードスイッチをもう一度押したとき
- セレクトレバーをD以外の位置にしたとき
- 電源ポジションをON以外にしたとき

SS モード表示灯

SS

SSモードスイッチを押してSSモードにすると点灯します。

マニュアルモード (CVT車) グレード/仕様別装備



SSモード中にステアリングシフトスイッチを操作すると、マニュアルモードになります。

マニュアルモードでは、ギヤ比がM1からM7の7段階に設定され、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。次の場合、マニュアルモードは解除されます。

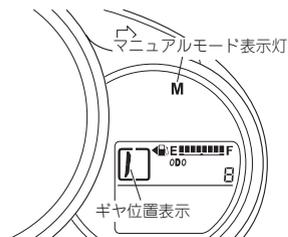
- SSモードスイッチをもう一度押したとき
- セレクトレバーをD以外の位置にしたとき
- 電源ポジションをON以外にしたとき

知識

停車時にマニュアルモードにした場合、ギヤは1速になります。また、マニュアルモードで走行して停車すると、自動的に1速になります。

停車時は、1速に固定されます。

表示灯



マニュアルモード表示

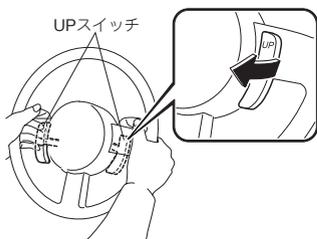
マニュアルモードにすると、メーター内にあるマニュアルモード表示灯が点灯します。

ギヤ位置表示

ギヤ位置が表示されます。

シフトチェンジ (変速) のしかた

シフトアップ (M1 → M2 → M3 → M4 → M5 → M6 → M7)



ステアリング裏側の UP スイッチを手前に引くとシフトアップします。

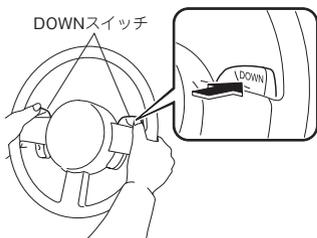


知識

低速時は速度によりシフトアップできないことがあります。

タコメーターの指針がレッドゾーンに近づくと、トランスミッション保護のため自動的にシフトアップします。

シフトダウン (M7 → M6 → M5 → M4 → M3 → M2 → M1)



ステアリング表側の DOWN スイッチを押すとシフトダウンします。

2. 運転するときに

トランスミッションの使いかた



警告



高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときは、急激なエンジンブレーキの使用（シフトダウン）は避ける。
タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

高速走行中は、速度によりシフトダウンできないことがあります。
減速中は、速度により自動的にシフトダウンします。

シフトチェンジ（変速）制限速度

マニュアルモードでは、下記の世界速度条件のときステアリングシフトスイッチを操作すると変速します。

シフトアップ		シフトダウン	
M1 → M2	15km/h 以上	M2 → M1	52km/h 以下
M2 → M3	22km/h 以上	M3 → M2	67km/h 以下
M3 → M4	29km/h 以上	M4 → M3	89km/h 以下
M4 → M5	36km/h 以上	M5 → M4	112km/h 以下
M5 → M6	45km/h 以上	M6 → M5	138km/h 以下
M6 → M7	57km/h 以上	M7 → M6	169km/h 以下

- 低速走行中にシフトアップする場合、各ギヤ位置での制限速度より低いときは変速しません。
- 高速走行中にシフトダウンする場合、各ギヤ位置での制限速度を超えているときは変速しません。
- 減速時は速度により M1 まで自動的にシフトダウンします。

ホールドモード (4EC-AT 車)

ホールドモードの使いかた

使用場面	セレクトレバー位置と操作
<ul style="list-style-type: none">● 雪道などすべりやすい路面を発進および走行するとき。● カーブの多い上り坂をなめらかに走行したいとき。● 高速道路でエンジンブレーキが必要なとき。	D のままホールドスイッチを押します。
<ul style="list-style-type: none">● 下り坂でエンジンブレーキが必要なとき。● カーブの多い急な上り坂をなめらかに走行したいとき。	S にしてホールドスイッチを押します。
急な下り坂で強いエンジンブレーキが必要なとき。	L にしてホールドスイッチを押します。

セレクトレバーの位置	ギヤの状態
D	3 速に固定されます。 低速では 2 速と 3 速を自動変速します。
S	2 速に固定されます。
L	1 速に固定されます。

ホールドモードにすると、セレクトレバーの位置にあわせて各ギヤに固定されます。



知識

エンジンを停止するとホールドモードは解除されます。

ホールドスイッチ



ホールドスイッチを押すとホールドモードになります。
もう一度押すと解除されます。

2. 運転するときに

トランスミッションの使いかた

ホールドモード表示灯

HOLD

ホールドスイッチを押してホールドモードにすると点灯します。

ホールドモード表示灯が点滅したときは、システムの異常が考えられます。マツタ販売店で点検を受けてください。

各セレクトレバー位置での限界速度

セレクトレバーの位置	速度 (km/h)
S	95
L	40

エンジンの過回転を防ぐために、ホールドモード使用時は、左記の速度をこえないように運転してください。



知識

車速が各セレクトレバー位置での限界速度より高いときは、セレクトレバーをSまたはLに動かしてもシフトダウンしないことがあります。

オートマチック車を運転するときに

発進または後退するとき



警告



アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
車が急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。

マニュアル車では発進時の速度をクラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車ではアクセル操作のみで行いますので、アクセル操作は慎重に行ってください。

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作します。
前進 (4EC-AT 車) …D、S、L
前進 (CVT 車) …D、L
後退 …R
- 2 セレクトレバーの位置を確認します。
- 3 パーキングブレーキを解除します。
- 4 ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。



注意



後退時は身体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。

必ず守る



知識

- セレクトレバーを R にいれるとチャイムが鳴り、セレクトレバーが R にはいつていることを運転者に知らせます。
- 少し後退したときなどはセレクトレバーを R に入れたことを忘れてしまうことがあります。後退したあとは、すぐにセレクトレバーを N にもどし、発進時にはセレクトレバーの位置を確認してください。

急な坂道での発進

パーキングブレーキをかけたまま、アクセルペダルをゆっくり踏み、車が動く感触を確認しながらパーキングブレーキをもどします。

走行するとき (4EC-AT 車)

通常走行

セレクトレバーを D にいれて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速 / 減速します。ギヤは 1 速から 4 速の間で、自動的に変速されます。

急加速

アクセルペダルをいっぱい踏み込みます。
キックダウンし、急加速できます。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じてセレクトレバーを S または L にいれると、エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

エンジンブレーキが必要なときは、ホールドモードにしてください。さらに強力なエンジンブレーキが必要なときは、セレクトレバーを S または L にいれてください。

→ 131 ページ「ホールドモード (4EC-AT 車)」

2. 運転するときに

トランスミッションの使いかた

走行するとき (CVT 車)

通常走行

セレクトレバーを D にいれて走行します。アクセルとブレーキの操作で加速 / 減速します。キヤは車速とアクセルペダルの踏み加減に応じて、自動的に変速されます。

マニュアルモード走行 グレード/仕様別装備

SS モード中にステアリングシフトスイッチを操作すると、マニュアルモードにセットされ、マニュアルトランスミッションのような操作ができます。

→ 128 ページ「マニュアルモード (CVT 車) グレード/仕様別装備」

急加速

アクセルペダルをいっぱい踏み込みます。

急な上り坂での走行

坂の勾配に応じて、SS モードにするかセレクトレバーを L に入れると、エンジン回転の変化が少ないなめらかな走行ができます。

下り坂での走行

エンジンブレーキが必要なときは、SS モードやマニュアルモード*にするか、セレクトレバーを L に入れてください。マニュアルモードのときは、走行速度にあわせて 1 段ずつシフトダウンし、エンジンブレーキを併用してください。

* マニュアルモード装備車

停車するとき

- 1 ブレーキペダルをしっかりと踏んでおきます。
- 2 必要に応じてパーキングブレーキをかけます。
- 3 停車時間が長くなりそうなときは、セレクトレバーを N または P にいれます。



警告



禁止

停車中、むやみにアクセルペダルを踏まない。
セレクトレバーが P、N 以外にはいっているとき、誤ってアクセルペダルを踏むと急発進するため思わぬ事故につながるおそれがあります。



必ず守る

停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。
意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意



アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にいれ、アクセルをふかしながら停車しないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

駐車するとき

- 1 車を完全に止めます。
- 2 セレクトレバーをPにいます。
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけます。
- 4 エンジンを止めます。

警告



駐車するときは、セレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかける。

パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーをPにいれただけで駐車していると、車が勝手に動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。



エンジンをかけたまま駐車しない。

万一セレクトレバーがP以外にはいていた場合、クリープ現象で車が勝手に動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意



セレクトレバーをPにいれるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーをPにいれると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

そのほかに気をつけること

警告



坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進しない。

エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

2. 運転するときに

ブレーキ

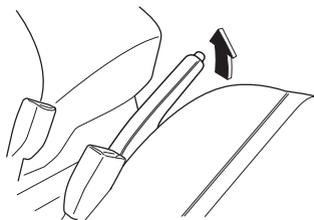
ブレーキの操作

パーキングブレーキ

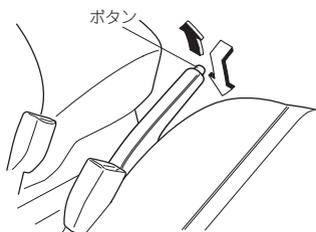
警告

 **禁止** パーキングブレーキをかけたまま走行しない。
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱するためブレーキの効が悪くなり、
思わぬ事故につながるおそれがあります。

かけるとき



解除するとき



レバーを少し引き上げ、先端のボタンを押してもどします。

e-4WD について グレード/仕様別装備

発進時や低速（約 20km/h 以下）での加速時に、路面の状況に応じて後輪をモーターで駆動させる 4WD システムです。雪道や凍結路など滑りやすい路面での発進時に威力を発揮しますが、万能ではありません。路面状況によっては走破できないおそれがあります。

走行するときは

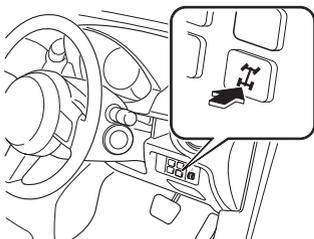
- 4WD 車であっても、アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行ない、常に安全運転を心がけてください。
- オフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり、川を渡ったりしないでください。
- 砂地やぬかるみなど、前輪が空転しやすい路面で連続走行しないでください。
- 脱輪やスタックにより車輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。
→ 225 ページ「スタックしたとき」



知識

- 次のようなときはモーター保護のために 4WD の作動を停止し、4WD 警告灯が点滅しますが、異常ではありません。
 - ・ 滑りやすい路面を長時間連続して走行したとき。
 - ・ 車輪が空転するなど、前後輪の回転差が大きい状態が続いたとき。
- 前輪がスタックした状態で後輪が摩擦力の大きい路面に乗っていた場合、4WD が作動可能な状態でも後輪が回転しない場合があります。これは摩擦抵抗が後輪の駆動力よりも大きいため車輪が動かない状態で異常ではありません。

4WD スイッチ



スイッチを押すと 4WD が作動可能な状態になります。メーター内の 4WD 表示灯が点灯します。

スイッチをもう一度押すと、4WD が作動しない状態になります。メーター内の 4WD 表示灯が消灯します。

4WD

4WD 表示灯



電源ポジションを ON にすると点灯し、エンジンをかけると消灯します。

4WD スイッチを押して 4WD が作動可能な状態になると、4WD 表示灯が点灯します。

ヘッドランプスイッチ

ヘッドランプの点灯 / 消灯

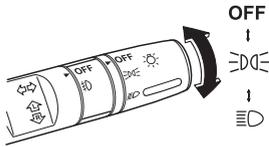
電源ポジションに関係なく使用できます。ランプスイッチをまわすと、各ランプが点灯 / 消灯します。



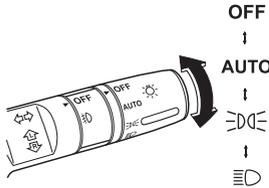
知識

エンジンを停止しているときに、ランプを点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

標準タイプ



オートライト機能付きタイプ



スイッチ位置	ランプ名称	
	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号灯
OFF	消灯	消灯
AUTO	自動で点灯 / 消灯	
☀️	消灯	点灯
☀️💡	点灯	点灯

オートライト機能 (オートライト機能付きタイプ)

電源ポジションが ON のとき使用できます。

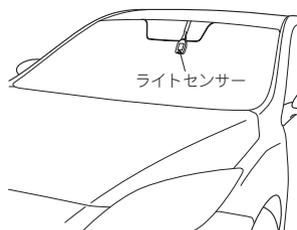
ランプスイッチを AUTO の位置にすると、周囲の明るさに応じてランプが自動で点灯 / 消灯します。

周囲の明るさ	明るい	薄暗い	暗い
ヘッドランプ	消灯	消灯	点灯
車幅灯、尾灯、番号灯	消灯	点灯	点灯

スイッチの使いかた

注意

 フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

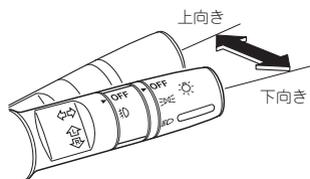


知識

長いトンネルやトンネル内での渋滞、屋内駐車場など、周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。

この場合はランプスイッチを OFF の位置にすれば消灯します。

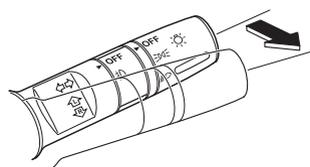
ヘッドランプの切り替え



ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前後に操作すると、ヘッドランプの向きが切り替わります。

上向き（ハイビーム）のときは、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

パッシング合図



ランプスイッチの位置に関係なく、レバーを引いている間ヘッドランプが上向き（ハイビーム）で点灯します。

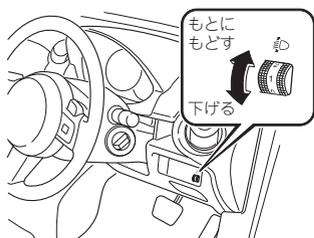
同時にメーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

ヘッドランプレベリング

オートタイプ

ヘッドランプを点灯したとき乗員や荷物の状況に応じてヘッドランプの照らす方向を上下方向へ自動で調節し、一定に保ちます。

マニュアルタイプ



ヘッドランプが点灯しているとき、ヘッドランプの照らす方向を下向きに調節することができます。乗員や荷物が多いときなど、ヘッドランプが通常よりも上向きを照らしているときは、スイッチを下方向にまわしてヘッドランプの照らす方向を下向きにしてください。スイッチの数字が大きいほど下向きになります。

スイッチ位置の目安

積載状況		スイッチ位置
乗員	荷室	
運転席のみ乗車時	非積載時	0
	満載時	2
運転席と助手席乗車時	非積載時	0
全席乗車時	非積載時	1
	満載時	1



知識

車検などで光軸調整をするときは、スイッチの位置を **0** にしてから行なってください。

スイッチの使いかた

ディスチャージヘッドランプについて グレード/仕様別装備

ディスチャージヘッドランプは、太陽光に近い白い光で広範囲を照らします。
ヘッドランプのロービームに装備されています。

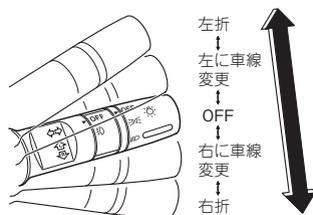
警告

 ディスチャージヘッドランプの交換・修理をするときは、必ずマツダ販売店へ相談する。

ロービームにはディスチャージヘッドランプが装備されています。ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

方向指示器

方向指示器の操作



電源ポジションが ON のとき使用できます。

車線変更する場合

レバーを車線変更の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、手を離すと消灯します。

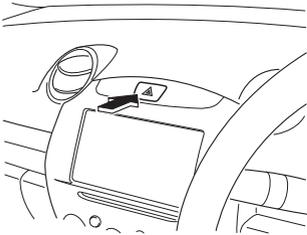
左折、または右折する場合

レバーを左折または右折の位置に操作すると、方向指示灯が点滅し、ハンドルをもどすと、自動でもとの位置にもどります。もどらないときは、手でもどしてください。

知識

点滅が異常に速くなった場合は、電球切れが考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

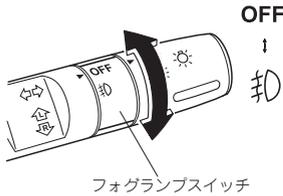
非常点滅灯スイッチ



故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。
スイッチを押すとすべての方向指示灯および、メーター内にある非常点滅表示灯も点滅します。
もう一度押すと消灯します。

フォグランプスイッチ グレード/仕様別装備

霧などで視界が悪いときに使用します。



ランプスイッチが ON または D の位置のとき使用できません。
フォグランプスイッチを D の位置にすると、フォグランプが点灯します。フォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が点灯します。
フォグランプスイッチを OFF の位置にする、またはランプスイッチを OFF の位置にすると消灯します。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

電源ポジションが ON のとき作動します。

警告



寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスをあたためてから行なう。

ウォッシャー液がガラス面で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

2. 運転するときに

スイッチの使いかた

⚠ 注意



凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いたまま作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。



ガラスがかわいているままでワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたりワイパーゴムを損傷するおそれがあります。ガラスがかわいているときは、ウォッシャー液を噴射してください。



ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ないままで、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

📖 知識

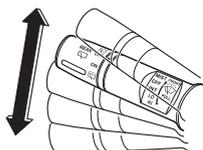
- ウォッシャー液を補給しても液が出ないときは、ノズルに異物がつまっていることがあります。針などでつまりを取ってください。
- 降雪時にワイパーを作動させていると、ガラスに雪が積もってワイパーが停止することがあります。積雪などでワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを OFF の位置にした後、積もった雪を取り除いてください。

フロントワイパー / ウォッシャー

ワイパーの操作

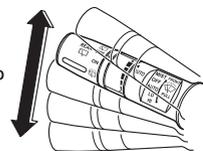
標準タイプ

MIST
↓
OFF
↓
INT
↓
LO
↓
HI



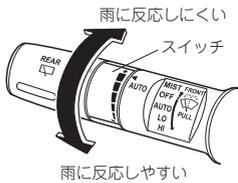
オートワイパー機能付きタイプ

MIST
↓
OFF
↓
AUTO
↓
LO
↓
HI



レバー位置	作動状態
MIST	レバーを上押ししている間作動
OFF	停止
INT	間欠作動
AUTO	オートワイパー機能
LO	低速作動
HI	高速作動

オートワイパー機能 (オートワイパー機能付きタイプ)



レバーを AUTO 位置にしているとき、レインセンサーが雨を感知すると、ワイパーが自動で作動します。スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。

雨量	作動状態
少ない	間欠作動
普通	低速作動
多い	高速作動

注意



フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが雨量を正確に感知できなくなります。



電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、つぎのような場合はワイパーが自動で作動することがあります。手や指を挟まないよう注意してください。万一手や指を挟むと、けがやワイパーの故障につながるおそれがあります。

- フロントガラスのレインセンサー上部に触れたとき。
- フロントガラスのレインセンサー上部を布などで拭いたとき。
- フロントガラスに衝撃をあたえたとき。
- レインセンサーに車内から衝撃をあたえたとき。



洗車やメンテナンスを行なうときは、ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。

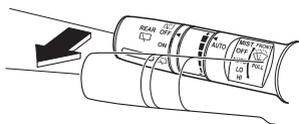
スイッチの使いかた

知識

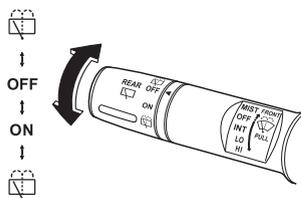
- レインセンサーの温度が -10°C 以下、または 85°C 以上のときはオートワイパーが作動しないことがあります。
- フロントガラスに純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。
- フロントガラスのレインセンサー上部に泥や異物（氷や塩水などを含むもの）が付着しているときや、フロントガラスが凍っているとき、ワイパーが自動で作動することがあります。ワイパーが数回作動してもセンサー上部の泥や異物、氷などを取り除けないときは、オートワイパーは作動を停止します。ワイパーレバーを **LO** または **HI** にしてワイパーを作動させるか、フロントガラスの泥や異物、氷などを取り除いてからオートワイパーを作動させてください。
- レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線等の影響により、ワイパーレバーが **AUTO** の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを **OFF** の位置にして走行することをおすすめします。

ウォッシャーの操作

レバーを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。



リヤワイパー / ウォッシャー



スイッチ位置	作動状態
	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動 ^{*1}
ON	数回連続作動した後、間欠作動
INT	間欠作動
OFF	停止
	リヤウォッシャーおよびリヤワイパー作動

*1 ワイパーの作動中にウォッシャー液を噴射させるときは、スイッチを ON の位置から上側にまわします。

前運
に動
する

と運
ぎ動
にする

使室
内方
装備
の

しお
が手
た入
れの

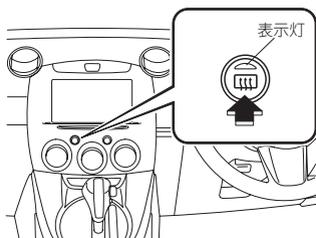
起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スペース

さいん

スイッチの使いかた

リヤウインドーデフォグガー (曇り取り) スイッチ



リヤウインドーを熱線であたため、曇りを取ります。
電源ポジションが ON のとき使用できます。
スイッチを押すと約 15 分間作動します。
作動中はスイッチ内の表示灯が点灯します。
作動を停止したいときは、もう一度スイッチを押します。

⚠ 注意

 リヤウインドーの内側には熱線が取り付けられています。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。

→ 214 ページ「ガラス、ミラーの手入れ」

📖 知識

エンジン回転中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ミラーの曇り取り グレード/仕様別装備

電源ポジションが ON のとき、リヤウインドーデフォグガースイッチを押すと、ドアミラーの曇りが取れます。

→ 148 ページ「リヤウインドーデフォグガー (曇り取り) スイッチ」

ホーン

ハンドルの  マーク周辺部を押すとホーンが鳴ります。

ABS とは

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保する装置です。



警告



ABS を過信せず安全運転に心がける。

ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることもあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャリ道、新雪道を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。



注意



前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

ABS 装備車の取り扱い

急ブレーキを踏まなくてはならないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけてください。万一の危険な状況では、次のようにしてください。

- 1 危険を感じ急制動が必要なときは、ためらわずブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。
- 2 ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。
- 3 障害物を回避するときは、ブレーキペダルを踏みながらハンドルを操作してください。



知識

- ABS は低速 (約 15km/h 以下) では作動しませんが通常のブレーキ性能は確保されています。
- エンジン始動時や発進直後にモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

2. 運転するときに

ヒルローンチアシスト (HLA) について

ヒルローンチアシスト (HLA) とは (i-stop 装備車)

ヒルローンチアシスト (HLA) とは、坂道発進を補助する機能です。坂道で停車したとき、ブレーキペダルから足を放してもブレーキ力を保持し、アクセルペダルへの踏み替えの際に車両が後退することを防ぎます。

セレクトレバーを R に入れているときは下り坂で作動し、R 以外に入れているときは上り坂で作動します。

警告



ヒルローンチアシストを過信しない。

ヒルローンチアシストはあくまでも発進するときの補助装置です。システムが作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので、システムを過信して発進すると車両が動き出して思わぬ事故につながる恐れがあるため危険です。

知識

- 低勾配の坂道ではヒルローンチアシストが作動しません。また、積載状態によって作動する勾配が若干変化します。
- パーキングブレーキを引いているときはヒルローンチアシストは作動しません。
- ヒルローンチアシスト作動中にブレーキペダルが硬くなったりペダルが振動することがありますが、異常ではありません。
- TCS/DSC 作動表示灯点灯中、ヒルローンチアシストは作動しません。
- DSC OFF スイッチを押して TCS/DSC を解除してもヒルローンチアシストは解除されません。
- i-stop 警告灯 (橙) が点滅しているときはヒルローンチアシストが作動しないことがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS) について

TCS とは グレード/仕様別装備

TCS (トラクションコントロールシステム) は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保する装置です。



警告



TCS を過信せず安全運転に心がける。

TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

- エンジン回転が高いときに TCS が作動すると、エンジン回転の変動や車体の振動を感じることがありますが、異常ではありません。
- TCS を解除するときは、DSC OFF スイッチを押して解除してください。
→ 153 ページ「DSC OFF スイッチ」

TCS/DSC 作動表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
 - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

2. 運転するときに

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について

DSC とは グレード/仕様別装備

DSC (ダイナミック・スタビリティ・コントロール) は、すべりやすい路面での走行時や、緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりをおさえるため、ABS や TCS などにより、ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して、車両の安定性を確保する装置です。

DSC は約 15km/h 以上で作動可能な状態になります。

「ABS について」、「TCS について」もあわせてお読みください。

→ 149 ページ「ABS とは」

→ 151 ページ「TCS とは グレード/仕様別装備」

警告



必ず守る

DSC を過信せず安全運転に心がける。

DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

特に DSC 作動表示灯が点滅しているときは、車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

注意



必ず守る

DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- 前後輪とも必ず指定されたサイズで、メーカー、銘柄、パターン（溝の模様）が同一のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- 指定以外のサイズや、異なる種類、摩耗差の著しいタイヤを使用しないでください。

知識

- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは、DSC が正常に作動しないことがあります。
- 電源ポジションを ON にした後、インストルメントパネルの奥からカチッと音が聞こえることがあります。これはシステムの作動をチェックしている音で、異常ではありません。

TCS/DSC 作動表示灯



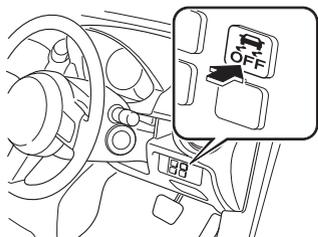
点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
 - 走行中に点灯したとき。

点滅するとき

走行中に TCS または DSC が作動すると点滅します。

DSC OFF スイッチ



スイッチを押すと TCS/DSC が解除され、メーター内の DSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度押すと TCS/DSC が作動可能な状態になり、DSC OFF 表示灯が消灯します。



知識

- ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS が作動し、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときに TCS/DSC を解除します。
- TCS/DSC を解除した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると TCS/DSC は作動可能な状態にもどります。
- TCS/DSC を解除したときは、TCS/DSC が装備されていない車と同じ走行性能になります。

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について

DSC OFF 表示灯



点灯するとき

- 電源ポジションを ON にすると点灯し、しばらくすると消灯します。
- DSC OFF スイッチを押して、TCS/DSC を解除すると点灯します。
- 次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。
 - 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
 - TCS/DSC を解除していないのに点灯したとき。

様々な状況での運転のときは

悪天候での運転

雨の日の運転

ガラスが曇るときは

湿度の高い日はガラスが曇りやすくなります。このようなとき、エアコンを使用して曇りを取ることができます。エアコンを作動させると吹き出し風が除湿されるため、効果的に曇りを取ることができます。

冠水した道路は

冠水した道路を走行しないでください。冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電気部品や電子部品のショート、水を吸い込んでのエンジン破損など、車両に悪影響をおよぼします。万一、水中に浸ってしまったときは、必ずマツタ販売店へご相談ください。

積雪、寒冷時の運転

すべりやすい路面を走行するときは

早めに冬用タイヤまたはタイヤチェーンを装着してください。

→ 219 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

- 急発進、急ハンドルや急ブレーキを避け、ひかえめな速度で運転してください。
- 日陰や橋の上、水たまりなど、凍結しやすい場所にさしかかる前では速度を落とし、注意して走行してください。

ハンドルの切れ具合に注意

走行中、フェンダーの裏側に雪が付着して氷になり、ハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき車を止めて点検し、氷塊が大きくなる前に取り除いてください。

ブレーキの効き具合を確認

ブレーキ装置に雪や氷が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

効きが悪いときは、低速で走りながらアクセルペダルを放してブレーキペダルを軽く数回踏んで、効きが回復するまでブレーキを乾かしてください。

2. 運転するときに

様々な状況での運転のときは

駐車するときは



- 寒冷時はパーキングブレーキをかけると凍結して解除できなくなるおそれがあります。
- パーキングブレーキは使わず、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれてタイヤに輪止めをしてください。
- ボンネット側を風下に向けて駐車してください。風上に向けるとエンジンが冷えすぎて始動しにくくなることがあります。
- ワイパーアームは立てて駐車してください。寒冷時はワイパーゴムがガラスに凍りつくことがあります。



注意



必ず守る

運転席 / 助手席側ワイパーアームを起こすときは、運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから降ろしてください。ワイパーアームとブレードが接触し損傷するおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおっています。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。



知識

高速走行時は、通常のワイパーブレードよりふき取りにくくなりますので、ワイパー使用時は速度を落として走行してください。

経済的な運転

地球環境にやさしい、経済的な運転を心がけてください。

以下に示す数値は、対象車種 2.0 リットル乗用車 (AT) の燃費 = 11.7km/l (10・15 モード) が計算ベースです。(社団法人日本自動車工業会調べ)

アイドリングストップ

コンビニでの買い物、人待ちや荷降ろしなど、ちょっとした駐車するときにもエンジンを止めましょう。5分間アイドリングをやめると、約 65ml の燃料を節約できます。

不要な荷物は積まない

荷物が多いほど、燃料を多く消費します。不要な荷物は降ろして走行しましょう。10kg の荷物を降ろして 50km 走ると、約 15ml の燃料を節約できます。

空ぶかしをしない

空ぶかしは環境にも車にもよくありません。
空ぶかしを 10 回やめると、約 60ml の燃料を節約できます。

エアコンの使用は控えめに

エアコンの使用を控えると、燃料の節約になります。エアコンを 5 分間停止すると、約 55ml の燃料を節約できます。

タイヤの空気圧を適正に

こまめに点検し、適正な空気圧に調整しましょう。
適正値で 50km 走ると、50kPa 減のときに比べて、約 150ml の燃料を節約できます。

ゆとりある走行を

急発進、急加速、急ブレーキは避けましょう。
急発進を 10 回やめると約 170ml、急加速を 10 回やめると約 110ml の燃料を節約できます。

経済的速度

一般道路で 40km/h、高速道路で 80km/h 程度の等速走行が経済的です。

アクセルペダルの上手な踏みかた

加速終了時 (オートマチック車)

アクセルペダルを少し大きめにもどしてみましょう。適切に無駄なく自動変速されるため、燃費がよくなります。

下り坂に入るとき、減速を始めるとき

早めにアクセルペダルをもどし、エンジンブレーキを使いましょう。アクセルペダルをもどすと燃料噴射が停止されるので、燃費がよくなります。

一定速度のとき

アクセルペダルの踏み加減を一定に保ちましょう。

アクセルペダルの踏み込み、踏みもどしは少ないほど燃料噴射が少なくなるため、燃費がよくなります。

10・15 モード燃費について

「10・15モード」とは

知識

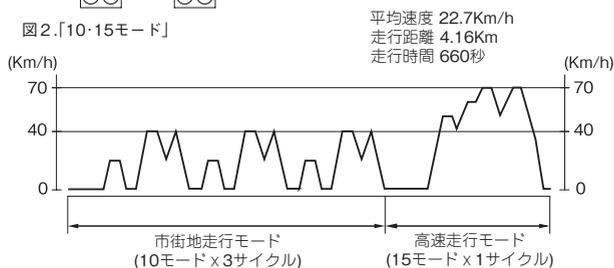
車両カタログに記載されている「10・15モード」燃費は、一定の条件に従って測定された燃費です。

このモードは都市内走行状態を再現したもので、図1のようにシャーシダイナモーター上で実際の道路上の走行状態を再現し、エンジン暖機後、図2のようなパターンを走行するものです。

図1.シャーシダイナモーター



図2.「10・15モード」



「10・15モード」は、都市内走行状態を再現したのですが、あくまでも代表的な走行パターンです。そのため、実際の走行とは異なる場合が多く、

例えば

- 走行速度の平均が「10・15モード」より低い
- 停車比率（運転中に車が止まっている割合）が高い
- 急な加速を行った

など条件の違いにより燃費が悪くなります。

参考資料

- (社) 日本自動車工業会: 「あしたへ ECO-MOTION」
- (社) 日本自動車連盟: 「ECO MANUAL 車に関する環境エコ基礎知識集」

MEMO

空調 162

エアコンの上手な使いかた.....	162
吹き出し口.....	164
エアコンの種類.....	166
マニュアルエアコン.....	166
フルオートエアコン.....	168

オーディオ 172

アンテナ.....	172
オーディオリモートコントロール スイッチの操作.....	172

室内装備 173

サンバイザー.....	173
室内照明.....	173
電源ソケット.....	174
カップホルダー.....	175
ボトルホルダー.....	176
収納.....	176

空調

エアコンの上手な使いかた

エアコンを使用する前に

外気取り入れ口について

フロントガラス前部の外気取り入れ口が、雪や落ち葉などでふさがっているときは取り除いておきましょう。外気が導入できないため、車内の換気が十分できなくなるおそれがあります。

暑くなる前のチェック

エアコンの冷媒（エアコンガス）が不足していると冷房性能が低下します。夏になる前に冷媒量の点検を受けておきましょう。

エアコンを使用するときは

使用について

エアコンはエンジンをかけた状態で使用してください。



知識

i-stop 装備車

- エアコンの操作により、アイドリングストップしないことや、アイドリングストップ中にブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動することがあります。
→ 91 ページ「i-stop について [グレード/仕様別装備](#)」
- オート作動時のアイドリングストップ中は、吹き出し風量がやや減少します。
- アイドリングストップ中は、快適な温度を保持するため、インストルメントパネル中央付近からエアコン装置（モーター等）の作動音が聞こえることがあります。

外気導入と内気循環について

外気導入は、換気したいときやガラスの曇りを取るときに使用してください。内気循環は、トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど、外気を遮断したいときに使用してください。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

エアコンを使用したあとは

長期間エアコンを使用しないときは

長期間エアコンを使用しないときにも、内部のオイル循環のため、1か月に1回程度エアコンを作動させてください。

エアフィルターについて

花粉やほこりなどの集じん機能を持ったエアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために定期的に交換してください。

詳しくはマツダ販売店にご相談ください。



知識

- エアコンの風量が著しく減少したときはエアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。
- 大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

前週
に転
する

と運
き転
にする

使
室
い
内
方
装
備
の

し
お
か
手
た
入
れ
の

起
ト
き
ラ
た
プ
ラ
ル
が

車
庫
ス
ペ
ッ
ク

さ
い
ん

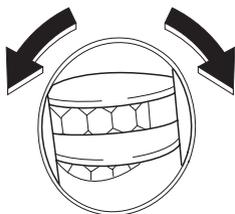
吹き出し口

吹き出し口の調節

1 吹き出し口の上部を押して開きます。



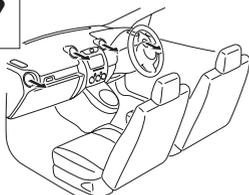
2 吹き出し口を左右にまわして吹き出し風の向きを調節します。



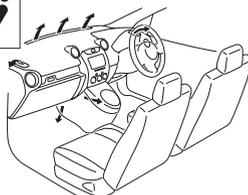
吹き出し口の選択

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

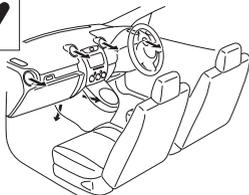
上半身に送風するとき



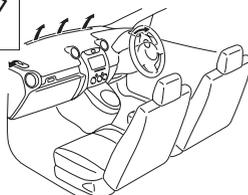
足元への送風とガラスの曇りを取る
とき



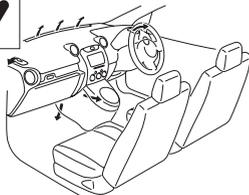
上半身、足元に送風するとき



ガラスの曇りを取る
とき



主に足元に送風するとき



前運
に転
する

と運
転
する

使
室
内
方
装
備
の

し
お
手
か
た
入
れ
の

起
ト
ラ
プ
ル
が

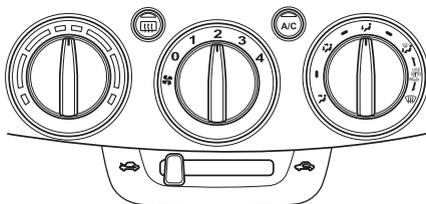
車
庫
ス
ペ
ッ
ク

さ
い
ん

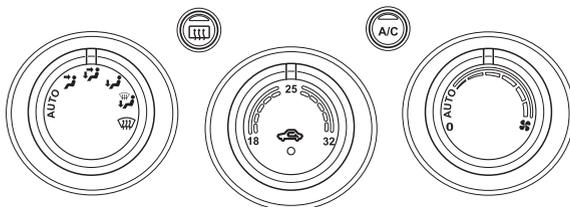
空調

エアコンの種類

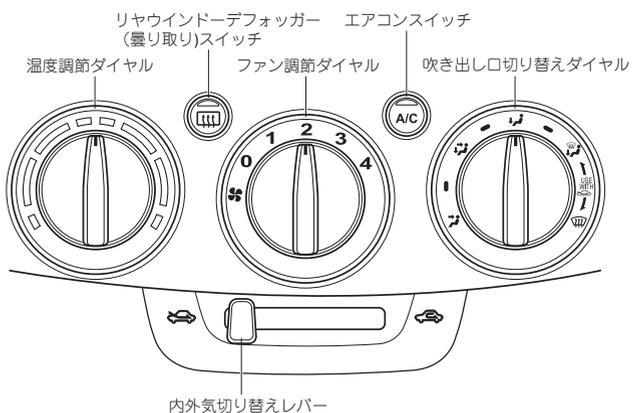
マニュアルエアコン166 ページ



フルオートエアコン168 ページ



マニュアルエアコン



各スイッチの使いかた

温度調節ダイヤル

ダイヤルをまわして吹き出し風の温度を調節します。

ファン調節ダイヤル

風量を4段階に調節できます。

吹き出し口切り替えダイヤル

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

→ 165 ページ「吹き出し口の選択」



知識

- 吹き出し口切り替えダイヤルを  の位置にし、温度調節ダイヤルを中間温度付近で使用すると暖められた風が足元から吹き出し、比較的温度の低い風が中央および左右から吹き出します。
- 各モードの中間位置 ( または ) でも固定することができます。風量を少し変えたいときに使用します。
- ダイヤルを   の位置にするときは、内外気切り替えレバーを  (外気導入) にして使用します。
-  は窓の曇りを早く取り除くため、ダイヤルを  または  の位置にしたときに、内外気切り替えレバーを  (外気導入) にして使用することを促すマークです。

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルが1～4のとき、スイッチを押すごとにエアコン(冷房・除湿機能)の作動と停止が切り替わります。

エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。



知識

外気温が0°C近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。

3. 快適装備の使いかた

空調

内外気切り替えレバー

内気循環 (外気を遮断する) と外気導入 (外気を室内に入れる) の切り替えができます。

知識

寒いときや湿度が高いときは、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環 (🚗)
トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- 外気導入 (🚗)
外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

ガラスの曇りを取るとき

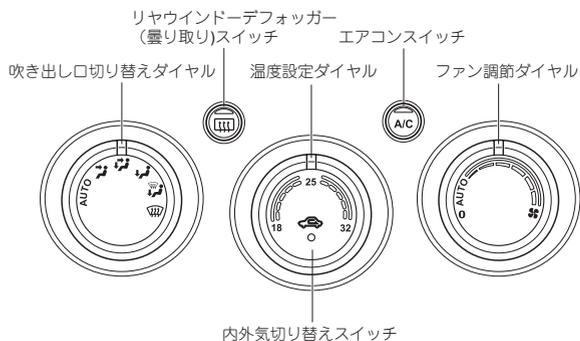
- 1 吹き出し口切り替えダイヤルを 🚗 にします。
- 2 内外気切り替えレバーを 🚗 (外気導入) にします。
風量はお好みにあわせて調節してください。

警告



ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

フルオートエアコン



各スイッチの使いかた

温度設定ダイヤル

ダイヤルをまわして設定温度を調節します。
ダイヤルの表示数字は室温設定時のめやすとなります。



知識

ダイヤルを左側いっぱいにもわすと最大冷房、右側いっぱいにもわすと最大暖房に固定されます。

ファン調節ダイヤル

AUTO 位置のとき設定温度にあわせて、吹き出し風量が自動制御されます。
AUTO 以外の位置にダイヤルをまわすと、吹き出し風量をお好みで調節できます。
右側いっぱいにもわすと、最大風量に固定されます。

吹き出し口切り替えダイヤル

AUTO 位置のとき、設定温度にあわせて吹き出し口の切り替えを自動で行ないます。
AUTO 以外の位置にダイヤルをまわすと、使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。

→ 165 ページ「吹き出し口の選択」

エアコンスイッチ

ファン調節ダイヤルが ON のとき、スイッチを押すごとにエアコン (冷房・除湿機能) の作動と停止が切り替わります。

エアコンが作動しているときは、表示灯が点灯します。



知識

外気温が 0° C 近くまで下がると、システム保護のためエアコンは作動しません。

前選
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

前前
スペース

さしい

3. 快適装備の使いかた

空調

内外気切り替えスイッチ

内気循環（外気を遮断する）と外気導入（外気を室内に入れる）の切り替えができます。スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が切り替わります。



知識

寒いときや湿度が高いときは、長時間内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環（表示灯点灯）
トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。
- 外気導入（表示灯消灯）
外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

通常の使いかた

- 1 吹き出し口切り替えダイヤルを AUTO の位置にします。
- 2 内外気切り替えスイッチを外気導入（表示灯消灯）にします。
- 3 ファン調節ダイヤルを AUTO の位置にします。
- 4 エアコンスイッチを押してエアコンを作動（表示灯点灯）させます。



知識

- 最初は温度設定ダイヤルを 25 前後にあわせて使用し、その後お好みで調節してください。
- 設定温度を極端に低く（高く）しても、希望の温度になるまでの時間はほとんど変わりません。
- エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

- 5 作動を停止したいときは、ファン調節ダイヤルを 0 の位置にします。

ガラスの曇りを取るとき

吹き出し口切り替えダイヤルを  にします。自動的に外気導入に切り替わります。また、エアコンが自動的に作動し、除湿された吹き出し風がフロントガラス、フロントドアガラスに送風されます。



警告



ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

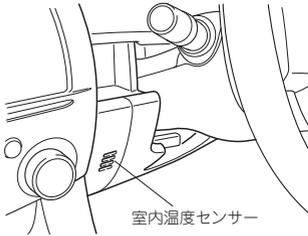
- ファン調節ダイヤルを操作して、風量を増す。
- 温度設定ダイヤルを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

日射センサーについて グレード/仕様別装備



日射センサーの上に物を置かないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

室内温度センサーについて



室内温度センサーをふさがないでください。
室内温度が正しく調節されないことがあります。

前選
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

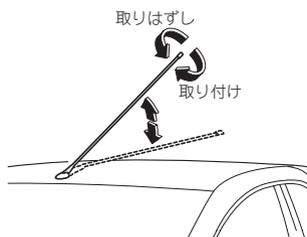
車前
スベツク

さいん

オーディオ

アンテナ

可倒・脱着式



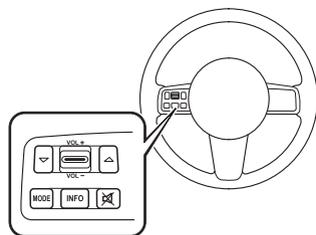
ラジオを使用するときは、アンテナを図の位置まで起こします。

取りはずすときは、左にまわします。取り付けるときは右にまわし、しっかりと締めます。

注意

-  天井の低い車庫に入れるときなど、アンテナが当たる場所では、アンテナを倒してください。起こしているとアンテナが損傷するおそれがあります。
必ず守る
-  アンテナを倒すときは、アンテナの根元を持ち、ルーフに当たらないようにしてください。ルーフが損傷するおそれがあります。
必ず守る
-  アンテナを倒したまま運転しないでください。ルーフを叩く音が発生したり、ルーフが損傷するおそれがあります。
禁止
-  自動洗車機を使用するときには、アンテナが損傷するおそれがありますので、アンテナを取りはずしてください。
必ず守る

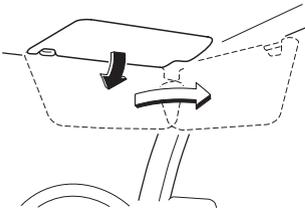
オーディオリモートコントロールスイッチの操作



ハンドルの左側にあります。

オーディオの電源が入っているときに、手でオーディオの操作をすることができます。

サンバイザー



前からの光をさえぎるときは、下げます。
横からの光をさえぎるときは、下げた後フックからはずして横にします。

バニティミラー（化粧鏡）

バニティミラーは、運転席側サンバイザーの裏側にあります。

室内照明

知識

エンジンを停止しているとき、ランプを長時間点灯させたままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

イルミネーテッドエントリーシステム

ルームランプスイッチが DOOR の位置のとき、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

- 運転席ドアを解錠すると約 30 秒間点灯します。
- ドアを開けて閉めた後、約 15 秒間点灯します。

（アドバンストキー装備車）

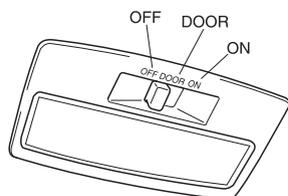
- アドバンストキーを携帯し、車外からドアを閉めた後、約 5 秒間点灯します。
- エンジンスイッチからキーを抜くと約 15 秒間点灯します。

知識

- 次のようなときルームランプはすぐに消灯します。
 - ・ 電源ポジションを ON にしたとき。
 - ・ すべてのドアを施錠したとき。
- ルームランプスイッチが DOOR の位置で、約 30 分間ドアが確実に閉まっていない状態が続くと、自動的にルームランプが消灯して、バッテリーあがりを防止します。

室内装備

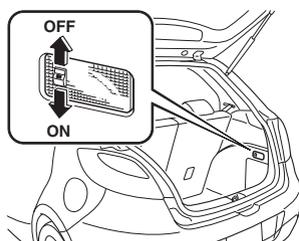
ルームランプ



電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ルームランプ
DOOR	<ul style="list-style-type: none"> ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。 イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯 / 消灯します。
OFF	常時消灯
ON	常時点灯

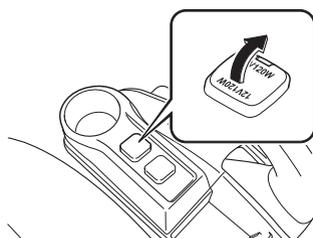
ラゲッジルームランプ



電源ポジションに関係なく使用できます。

スイッチ位置	ラゲッジルームランプ
ON	リヤゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
OFF	常時消灯

電源ソケット



電源ポジションが ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。

最大消費電力 120W (DC12V-10A) 以下の電気製品を使用してください。

フタを開けて使用します。

注意



プラグを接続した状態でソケットの上やコンソールのフタの上に物を乗せたり、大きな力を加えたりしないでください。



使用しないときは、必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかると、故障につながるおそれがあります。



電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと、異常に発熱することがあり、ヒューズが切れるおそれがあります。



消費電力が 120W (DC12V—10A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。



電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。



電源ソケットに接続される製品によっては、警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器を外し、問題が改善されるか確認してください。改善された場合、機器をソケットから外したあと、電源ポジションを OFF にしてください。問題が継続する場合、マツダ販売店にご相談ください。



知識

- エンジンが停止しているときやアイドリング状態で長時間使用すると、バッテリーがあがる場合があります。
- シガーライターを差し込まないでください。

カップホルダー

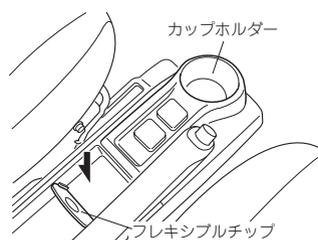
注意



走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

3. 快適装備の使いかた

室内装備

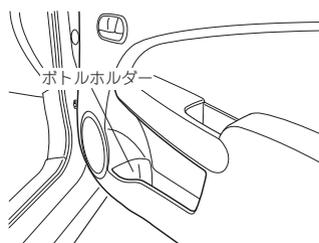


カップなどを置くことができます。
また、フレキシブルチップを使用することでセンターコンソールトレイにカップなどを置くことができます。

ボトルホルダー

! 注意

 ふたのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。



ペットボトルなどを置くことができます。

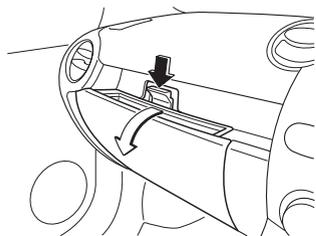
収納

! 注意

 走行中は、グローブボックスなどのフタを必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物でけがをするおそれがあります。

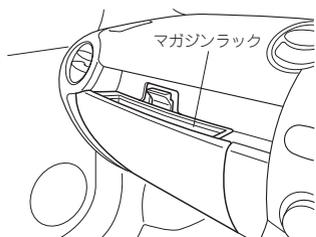
 炎天下に駐車するときは、収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため、ライターが爆発したり、プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが変形・ひび割れを起こすことがあります。

マガジンラック付グローブボックス



開くときは、ノブを下側へ押しします。
閉めるときは、カチッと音がするまでフタを確実に押さえます。

マガジンラック



グローブボックスを開けることなく、開口部から雑誌、本を入れることができます。



注意



雑誌、本以外の重い物を入れないでください。また、荷物を吊り下げないでください。
マガジンラック付グローブボックスが損傷するおそれがあります。

センターコンソールトレイ

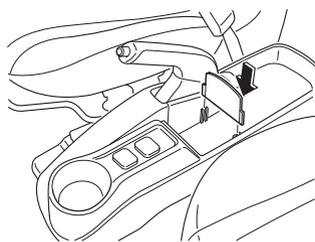


注意



走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると、やけどをするおそれがあります。

室内装備



フレキシブルチップを使用することで、カップや小物を置くことができます。

フレキシブルチップを使用しないときは、センターコンソールトレイを広く使うことができ、バックなどを置くことができます。

リヤコートフック グレード/仕様別装備

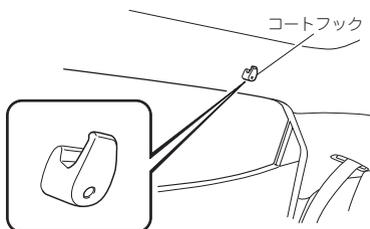
警告



禁止

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。

服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。



車と上手につきあうために 180

必ずまもる..... 180

点検、整備 181

点検整備について..... 181

定期点検..... 182

日常点検の前に..... 183

日常点検..... 185

e-4WD の整備..... 192

その他の手入れ..... 192

ヒューズ切れ、電球切れのとき 193

ヒューズの受け持つ装置..... 193

ランプ類、電気装置が
作動しないとき..... 197**電池交換** 207

電池を交換するときは..... 207

車の手入れ 212

外装の手入れ..... 212

内装の手入れ..... 216

季節の準備 218

冬にそなえて..... 218

夏にそなえて..... 221

環境保護のために 222

廃棄物を処理するときは..... 222

車と上手につきあうために

必ずまもる

違法改造はしない

車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自分でエンジン調整や配線などをしないでください。故障や、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、国土交通省に届け出た部品以外を装着すると違法改造になることがあります。部品の装着をするときは、マツダ販売店にご相談ください。

ナンバープレートは正しい位置に取り付ける

ナンバープレートを取りはずしたり、位置を変えないでください。ナンバープレートは正しい位置に確実に取り付けることが義務付けられています。

タイヤ、ホイール、ホイールナットを交換するときはマツダ販売店に相談する

ホイール、ホイールナットは純正品以外を装着しないでください。純正品以外のものを装着すると車の性能が十分に発揮できないばかりでなく、走行中にナットがゆるみホイールがはずれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、駆動系部品に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。

部品の取り付け、交換はマツダ販売店に相談する

電話、無線、オーディオなど電気部品や電子部品を取り付けるときは、電子機器類に悪影響があるのでおそれがありますので、マツダ販売店にご相談ください。

また、不適当な部品を取り付けたり、取り付け方法を誤ると、ブレーキ、エアバッグの誤作動、エンジン不調、車両火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

アクセサリーを取り付けない

窓ガラスやその周辺にアクセサリーを取り付けると、運転のさまたげになったり、吸盤がレンズの働きをして、火災が起こるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的な点検整備を実施してください。

点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。

いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

使用済バッテリーやタイヤ、エンジンオイルなどの廃液を処分するときは、マツダ販売店にご相談ください。

警告



点検は平らな場所で、車に輪止めをしてから行なう。
車が不意に動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。



エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。
手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

注意



エンジンルーム内を点検するときは、エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。



エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。
置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

無料点検について

新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000km)、6 か月 (または走行距離 5,000km) は無料で点検が受けられます。

定期点検

1年点検、2年点検はマツダ販売店で受けてください。



知識

- 点検結果について

点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「定期点検整備記録簿および定期点検整備の記録」に記入してください。

- シビアコンディションについて

一般的な使用よりも厳しい使われ方をした車はシビアコンディションとして早めに点検整備をする必要があります。

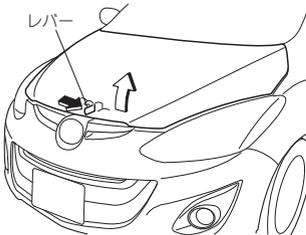
詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

日常点検の前に

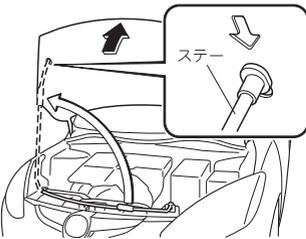
ボンネットの開けかた



- 1 運転席右下にあるボンネットオープナーを引くと、ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを押ししたままボンネットを持ち上げます。



- 3 パッド部を持ってステーを起こし、矢印で示すボンネットのステー穴に差し込んで固定します。

前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
が手
入れた
の

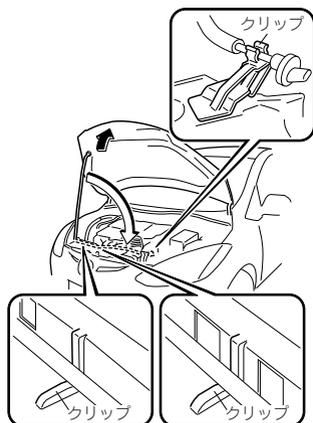
起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スペース

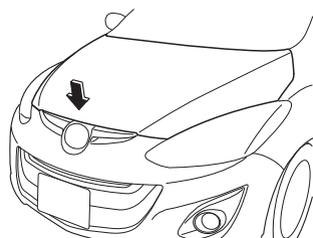
さい

点検、整備

ボンネットの閉めかた

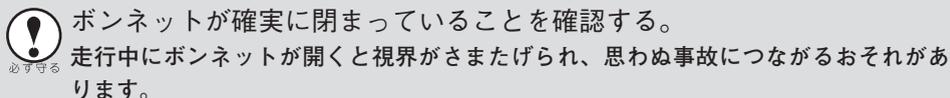


- 1 エンジンルームに工具などが残されていないことを確認します。
- 2 ボンネットを手でささえてステーをはずし、パッド部を持って、クリップに固定します。

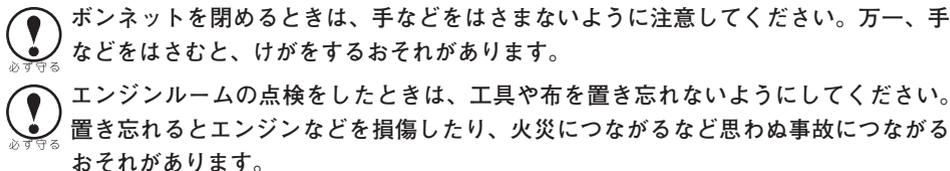


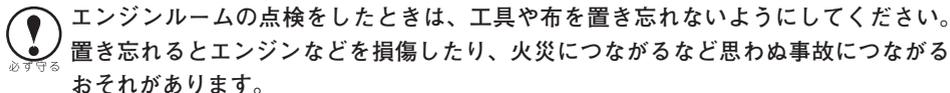
- 3 ボンネットをゆっくりおろし、手を離します。ボンネットの先端の中央部をガチッと音がするまで押しつけ、確実に閉めます。

警告

 ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

 ボンネットを閉めるときは、手などはさまないように注意してください。万一、手などをさむと、けがをするおそれがあります。

 エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

日常点検

お客様のお車の使用状況に応じて、お客様自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。

日常点検はお客様自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

「日常点検整備のしかた」については別冊のメンテナンスノートに記載しています。



知識

点検結果について

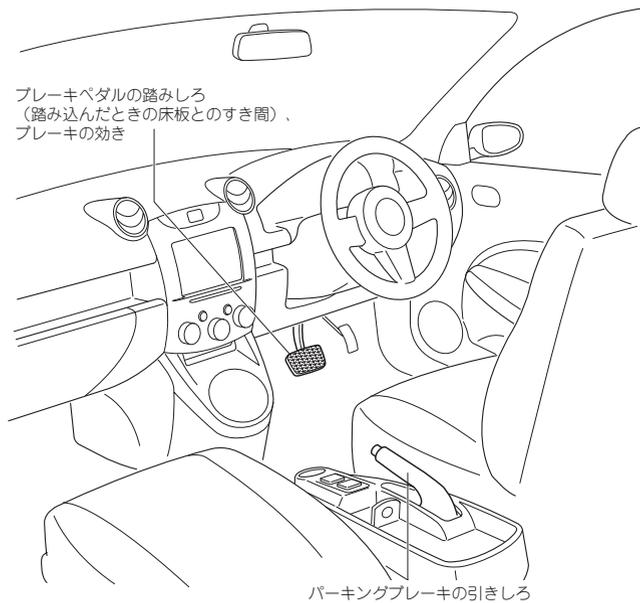
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

点検項目と点検箇所

運行において異常が見られた箇所

前回の運転中に異常を認めた箇所について運転に支障がないかを点検します。点検要領については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

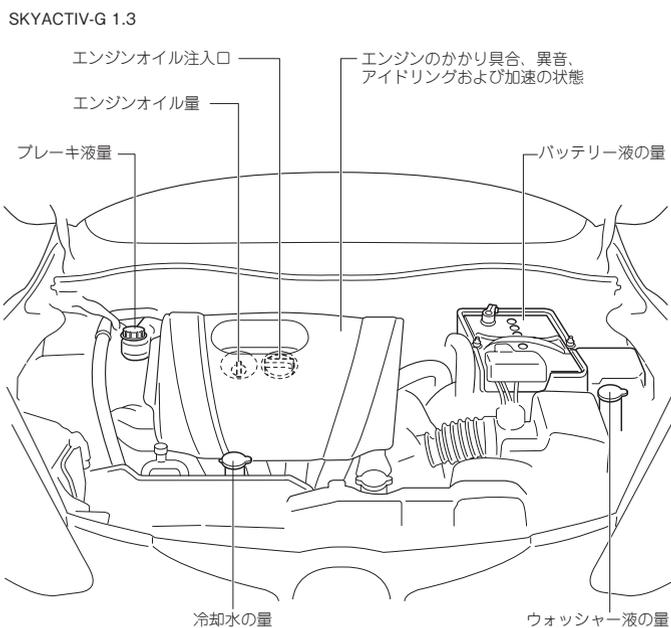
運転席にすわって



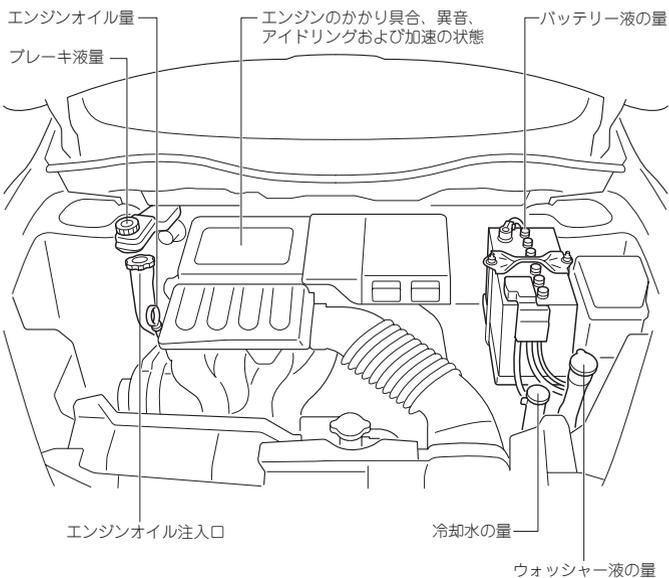
4. お手入れのしかた

点検、整備

エンジンルームをのぞいて



MZR 1.3、MZR 1.5



注意



必ず守る

エンジンルームの点検をしたときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。
置き忘れるとエンジンなどを損傷したり、火災につながるなど思わぬ事故につながる
おそれがあります。

前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
手入
れた
の

起ト
きラ
たプ
ラ
ル
が

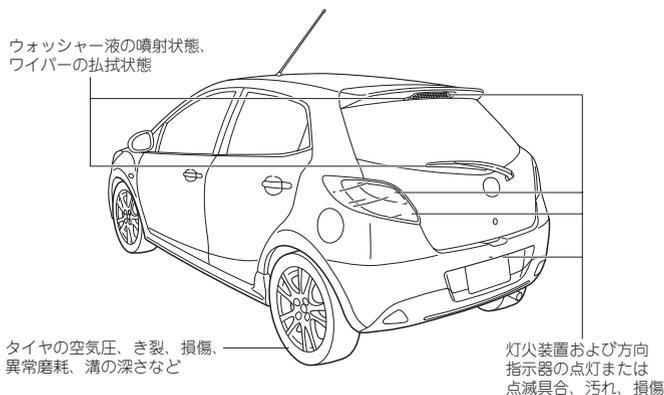
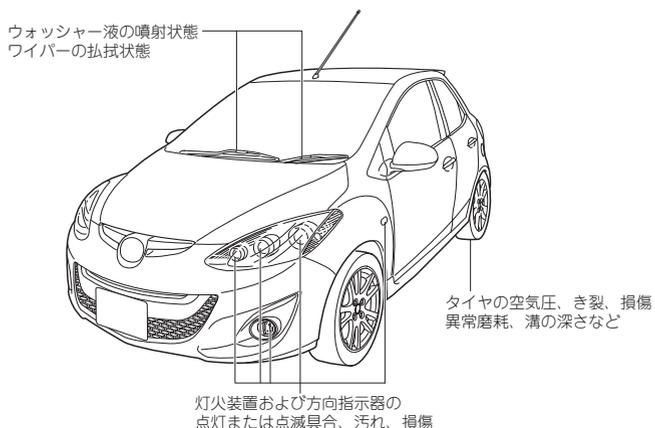
車前
スペース

さしい

4. お手入れのしかた

点検、整備

全体を見まわして



タイヤの点検

タイヤの点検は法律で義務付けられています。

点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。



知識

タイヤの劣化について

タイヤはゴム製品のため、長期間使用すると徐々に劣化していきます。安全な走行状態を確保するために、使用開始後5～7年を目安にマツダ販売店で点検を受けてください。

空気圧の点検

タイヤ間で空気圧の差が著しくならないように規定値に調節してください。

警告



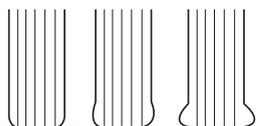
タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。

タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗したりします。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト（破裂）するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



タイヤバルブキャップは純正品を使用する。

タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。



過多

適正

不足

き裂、損傷の点検

警告



異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になるおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

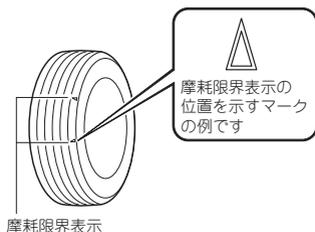
- 走行中にハンドルがとられる
- 異常な振動を感じる
- バンクやバースト（破裂）する
- 車の性能（燃費・走行安定性・制動距離など）が十分に発揮できない
- 部品に悪影響をあたえる

4. お手入れのしかた

点検、整備

溝の深さ、異常摩耗の点検

摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。



警告



禁止

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示（ウェアインジケーター）が現れているタイヤを使用しない。

そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト（破裂）するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。

知識

摩耗限界表示について

摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm だけ浅くなっています。

バッテリーの点検

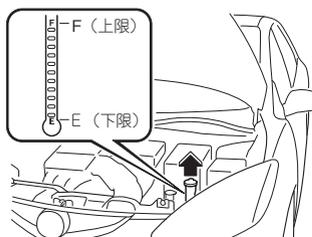
バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

→ 241 ページ「バッテリーあがりについて」

- 点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
- 交換するときは、車両スペックを参照してください。

→ 271 ページ「バッテリー」

ウォッシャー液の補充



補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。



注意



必ず守る

エンジンがかかっているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかる、出火するおそれがあります。



知識

ウォッシャータンクについて

ウォッシャータンクは、フロントワイパー用とリヤワイパー用で兼用しています。

点検、整備

e-4WD の整備

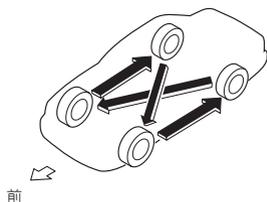
車検時の取り扱い

車検で車両を陸運支局などの検査ラインに通すときは、制動力検査を正しく行なうため、4WD スイッチを押して 4WD 表示灯を消灯させ、前輪駆動に固定してください。

その他の手入れ

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション)

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。



警告



タイヤを交換するときは指定されたタイヤを装着する。
指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



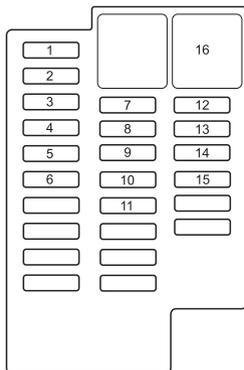
知識

- タイヤの位置交換を行うまえにタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→ 188 ページ「タイヤの点検」
- お客様のお車にはスペアタイヤが標準で搭載されていないため、搭載されているジャッキではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

ヒューズの受け持つ装置

室内ヒューズボックス



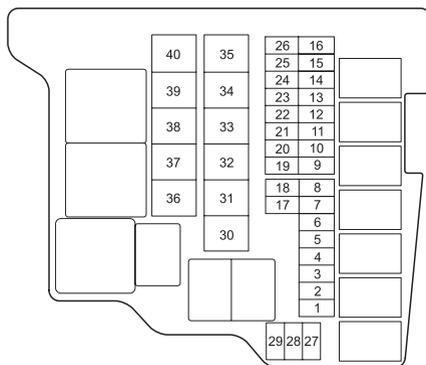
位置	表示	容量	保護装置
1	TCM	15A	トランスアクスルコントロールシステム グレード/仕様別装備
2	ILLUMI	7.5A	イルミネーション
3	CIGAR	15A	電源ソケット
4	MIRROR	7.5A	電動ミラー
5	M.DEF	7.5A	ミラーデフォグガー (曇り取り) グレード/仕様別装備
6	S.WARM	—	—
7	A/C	7.5A	空調
8	F.WIP	20A	フロントワイパー、ウォッシャー
9	R.WIP	10A	リヤワイパー
10	STARTER	7.5A	エンジンコントロールシステム グレード/仕様別装備

4. お手入れのしかた

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
11	METER 2	7.5A	メーター <small>グレード/仕様別装備</small>
12	ENG	10A	エンジンコントロールシステム
13	METER	10A	メーター
14	SAS	10A	エアバッグシステム
15	AUDIO 3	7.5A	オーディオ <small>グレード/仕様別装備</small>
16	P/W	30A	パワーウィンドー

エンジンルーム内ヒューズボックス



位置	表示	容量	保護装置
1	FUEL HEAT	—	—
2	FUEL PUMP	15A	フューエルポンプ
3	F.FOG	15A	フォグランプ <small>グレード/仕様別装備</small>
4	P/W	20A	パワーウィンドー

位置	表示	容量	保護装置
5	HORN	10A	ホーン <small>グレード/仕様別装備</small>
6	EGI	10A	エンジンコントロールシステム
7	DSC-P	—	—
8	DSC-V	—	—
9	MAG	7.5A	空調
10	TAIL	15A	尾灯、番号灯、車幅灯
11	STOP	10A	制動灯
12	SWS	—	—
13	R.DEF	20A	リヤウインドーデフォグガー（曇り取り）
14	HAZARD	10A	非常点滅灯、方向指示灯
15	D/L	20A	パワードアロック
16	EOP	10A	エンジンコントロールシステム <small>グレード/仕様別装備</small>
17	ENG BAR	15A	エンジンコントロールシステム
18	ENG INJ	15A	エンジンコントロールシステム
19	ENG INJ2	15A	エンジンコントロールシステム <small>グレード/仕様別装備</small>
20	H/L HI RH	10A	ヘッドランプ右（ハイビーム）
21	H/L HI LH	10A	ヘッドランプ左（ハイビーム）
22	DCDC3	25A	各種電源 <small>グレード/仕様別装備</small>
23	H/L LO RH	15A	ヘッドランプ右（ロービーム）
24	H/L LO LH	15A	ヘッドランプ左（ロービーム）
25	AUDIO2	15A	オーディオ <small>グレード/仕様別装備</small>

4. お手入れのしかた

ヒューズ切れ、電球切れのとき

位置	表示	容量	保護装置
26	DSC-V2	20A	ABS、DSC システム <small>グレード/仕様別装備</small>
27	HORN2	15A	ホーン <small>グレード/仕様別装備</small>
28	METER	10A	メーター <small>グレード/仕様別装備</small>
29	ROOM	15A	ルームランプ
30	GLOW	—	—
31	EVVT	20A	エンジンコントロールシステム <small>グレード/仕様別装備</small>
32	IG KEY 1	40A	各種電源
33	FAN 3	—	—
34	FAN 2	30A	クーリングファン <small>グレード/仕様別装備</small>
35	FAN 1	20A	クーリングファン <small>グレード/仕様別装備</small>
36	INJ	30A	エンジンコントロールシステム <small>グレード/仕様別装備</small>
37	IG KEY 2	30A	各種電源
38	4WD	30A	4WD コントロールシステム <small>グレード/仕様別装備</small>
39	ABS DSC-P2	40A	ABS、DSC システム
40	BLOWER	30A	空調

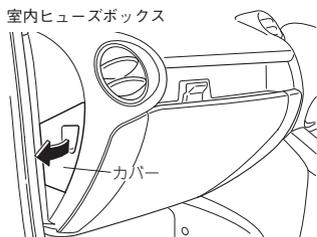
ランプ類、電気装置が作動しないとき

ランプ類が点灯しないときや電気装置が作動しないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。

まずヒューズを点検し、必要に応じて交換してください。

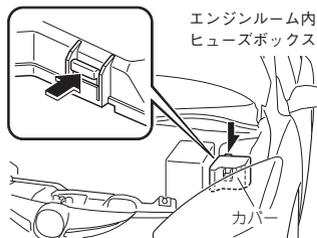
ヒューズの交換

室内ヒューズボックス



- 1 電源ポジションを OFF にします。
- 2 ヒューズボックスのカバーを開きます。ヒューズボックスは助手席グローブボックスの左横と、エンジンルーム内にあります。

エンジンルーム内
ヒューズボックス

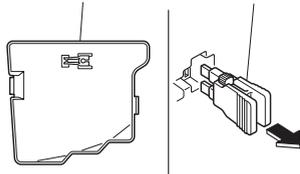


知識

- 各ヒューズはグレードや仕様により無い場合があります。
- ヒューズボックスのカバー裏側に各ヒューズの規定容量が表示されています。

エンジンルーム内
ヒューズボックスカバー

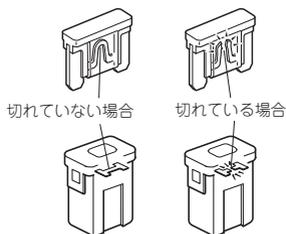
ヒューズ
はずし具



- 3 ヒューズの位置を確認し、故障の状況から、点検すべきヒューズを確認してください。
→ 193 ページ「ヒューズの受け持つ装置」
- 4 ヒューズを抜き取ります。

4. お手入れのしかた

ヒューズ切れ、電球切れのとき



5] ヒューズを点検し、切れている場合は、規定容量のヒューズと交換します。

6] ヒューズボックスのカバーを元の通り取り付けます。



警告



禁止

規定容量を超えるヒューズを使用したり、ヒューズの代わりに針金や銀紙などを使用しない。

配線などが過熱し、焼損して火災になるおそれがあります。



知識

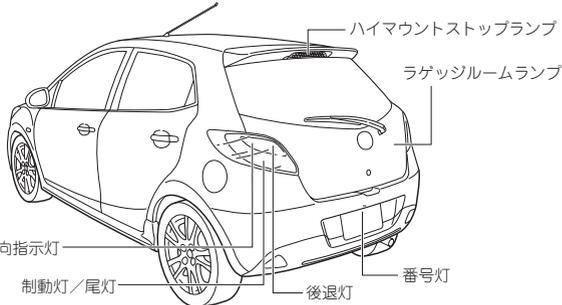
ヒューズを交換してもすぐ切れる場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

電球 (バルブ) の交換

ハロゲンヘッドランプ装備車



ディスチャージヘッドランプ装備車



☆印はグレードや仕様変更などにより装備の有無が異なります。

⚠ 注意



必ず守る

電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。



必ず守る

番号灯、ルームランプ、ラゲッジルームランプのレンズを取りはずすときは、マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてご使用ください。マイナスドライバーが直接レンズに当たると、傷がつくおそれがあります。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

知識

● ハロゲン球の取り扱いについて

ハロゲン球を素手で触れてはいけませんが、万一、誤ってハロゲン球に触れてしまったときは、水で薄めた中性洗剤（約 5%）をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ってください。

● 交換する電球について

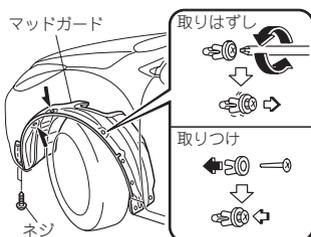
必ず同じ W 数の電球を使用してください。

● ランプの曇りについて

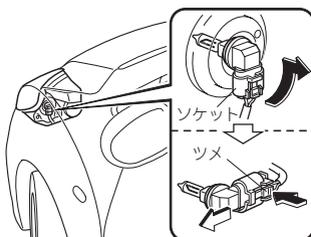
ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水 droplet がついているときやランプ内に水がたまっているときは、マツダ販売店にご相談ください。

ヘッドランプ（ディスチャージヘッドランプ装備車）

上向き（ハイビーム）



- 1 交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきります。
- 2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。



- 3 ソケットをまわして取りはずし、電球を取りはずします。
- 4 電球を取り換えます。
- 5 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

下向き (ロービーム)

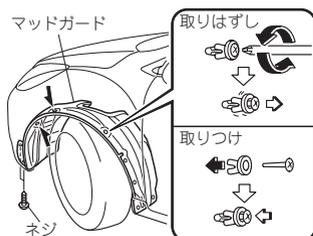
警告



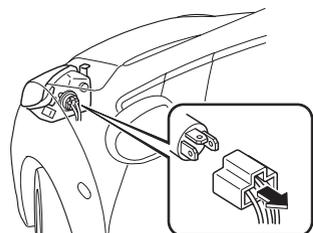
ディスチャージヘッドランプの交換・修理をするときは、必ずマツダ販売店へ相談する。

ロービームにはディスチャージヘッドランプが装備されています。ディスチャージヘッドランプは高電圧を使用しているため、取り扱いを誤ると感電するおそれがあります。

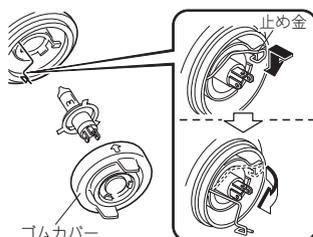
ヘッドランプ (ハロゲンヘッドランプ装備車)



- 1 交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにくりまします。
- 2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。



- 3 電球の後側にあるコネクターを取りはずします。



- 4 ゴムカバーをはずします。
- 5 止め金をはずし、電球を抜き取ります。
- 6 電球を取り換えます。
- 7 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

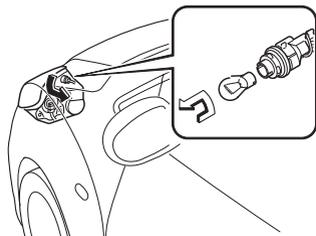
知識

ゴムカバーを取り付けるときは、印が上になるように取り付けてください。

4. お手入れのしかた

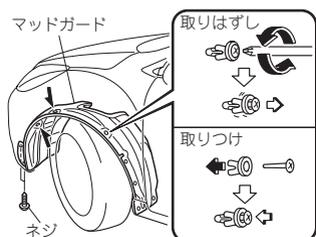
ヒューズ切れ、電球切れのとき

前面方向指示灯

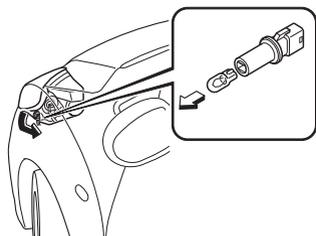


- 1 ボンネットを開けます。
- 2 ソケットをまわして取りはずし、電球を取りはずします。
- 3 電球を取り換えます。
- 4 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

車幅灯

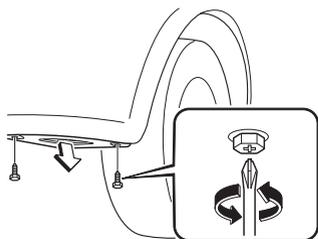


- 1 交換する側と反対の方向にハンドルをいっぱいにきります。
- 2 ファスナー、ネジをはずし、マッドガードをめくります。

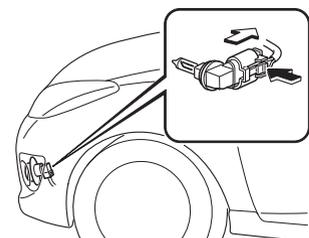


- 3 ソケットをまわして取りはずし、電球を取りはずします。
- 4 電球を取り換えます。
- 5 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

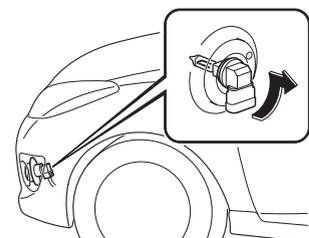
フォグランプ グレード/仕様別装備



1 ネジをはずし、マッドガードをめくります。



2 ツメを押し、コネクターを取りはずします。



3 ソケットを反時計回りにまわして取りはずします。

4 電球を取り換えます。

5 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
が手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スペース

さしい

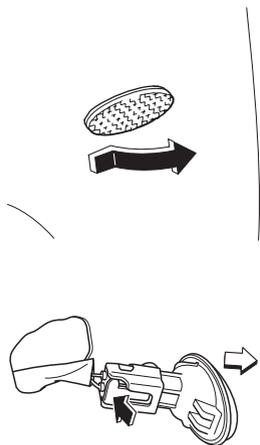
ヒューズ切れ、電球切れのとき

側面方向指示灯

LED タイプ グレード/仕様別装備

ドアミラー横にある側面方向指示灯 / 非常点滅灯は LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

バルブタイプ



- 1 ユニットの車両の前後いずれかの方向へスライドさせ、スライドさせた方向と反対側を手前に引き、取りはずします。
- 2 ツメを押し、コネクタをはずします。
- 3 新しいユニットに取り換え、はずした手順と逆の手順で取り付けます。



知識

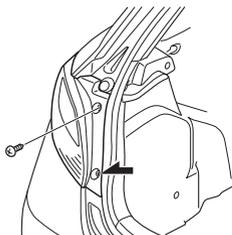
側面方向指示灯は電球（バルブ）の交換はできません。ランプユニット本体の交換となりますので、側面方向指示灯を交換するときはマツダ販売店へご相談ください。

制動灯 / 尾灯、後面方向指示灯、後退灯

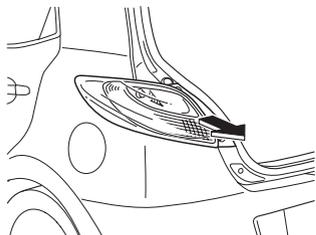
LED タイプ

制動灯 / 尾灯は LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

- 1 ネジをはずします。



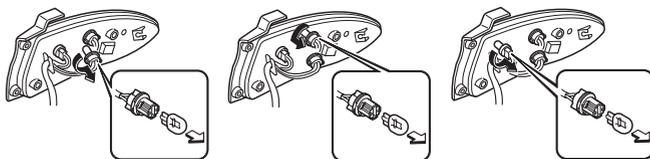
- 2 ユニートを車両後方に引き、取りはずします。



制動灯/尾灯 (バルブタイプ)

後面方向指示灯

後退灯



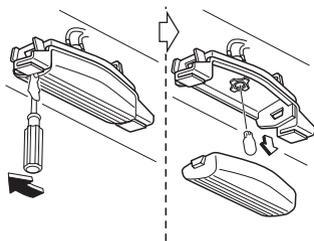
- 3 ソケットをまわして取りはずします。
4 ソケットから電球を取りはずします。
5 電球を取り換えます。
6 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

ヒューズ切れ、電球切れのとき

ハイマウントストップランプ

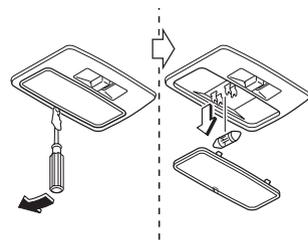
LED タイプの電球のため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

番号灯



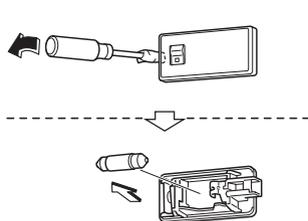
- 1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
- 2 電球を取りはずします。
- 3 電球を取り換えます。
- 4 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

ルームランプ



- 1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
- 2 電球を取りはずします。
- 3 電球を取り換えます。
- 4 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

ラゲッジルームランプ



- 1 マイナスドライバーなどの先端に布を巻き、レンズを取りはずします。
- 2 電球を取りはずします。
- 3 電球を取り換えます。
- 4 はずした手順と逆の手順で取り付けます。

電池を交換するときは

! 注意



電池の + 側と - 側は必ず正しく取り付けてください。液漏れなどにつながるおそれがあります。



電池を交換するときは内部回路や電極に触れたり、電極を曲げたりしないように注意してください。また内部にゴミなどを付着させないでください。故障につながるおそれがあります。



電池を交換してもキー / アドバンスキーが作動しないときは、マツダ販売店にご相談ください。

アドバンスキー

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

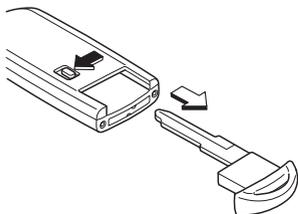
- エンジンをきったときにメーター内のKEY表示灯(緑)が点滅する
- アドバンスキーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

電池交換のとき、アドバンスキーが破損するおそれがあるため、マツダ販売店での交換をおすすめします。お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

電池の規格：リチウム電池 CR2025

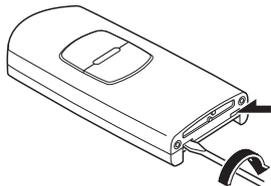
A タイプ

- 1 補助キーを引き出します。

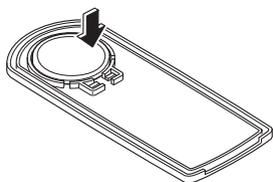


電池交換

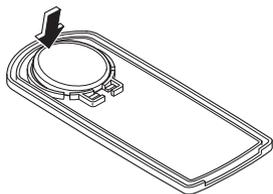
- ② マイナスドライバーなどを使ってカバーを開きます。



- ③ 電池の端を押して、電池を取り出します。



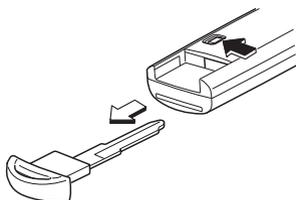
- ④ 新しい電池の + 側を下にして、電池を差し込み取り付けます。



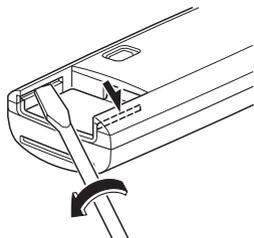
- ⑤ カバーを閉めます。
⑥ 補助キーを差し込みます。

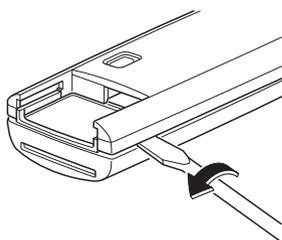
B タイプ

- ① 補助キーを引き出します。

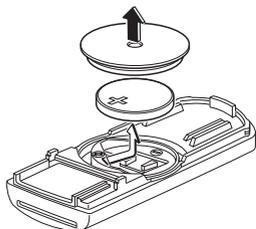


- ② マイナスドライバーなどを使ってカバーを少し開けます。

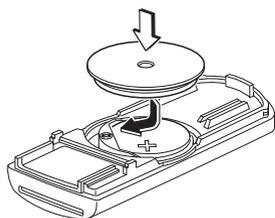




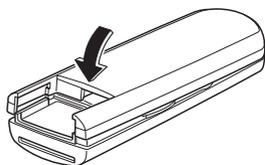
- 3 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取り外します。



- 4 キャップを外して、電池を取り出します。



- 5 新しい電池を、+ 側を上にして差し込み、キャップをかぶせます。



- 6 カバーを取り付けます。
7 補助キーを差し込みます。

前週
に転
する

と運
ぎ転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
が手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

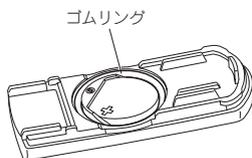
前周
スペース

さいん

電池交換

注意

-  ゴムリングを傷つけないようにしてください。
禁止
-  ゴムリングが外れた場合は、新しい電池を入れる前にゴムリングを取り付けてください。
必ず守る



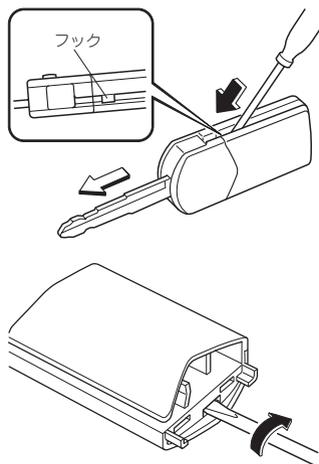
リトラクタブルタイプキー

次のようなときは電池残量が少なくなっていることが考えられます。

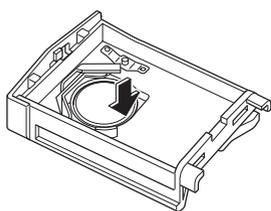
- リモートコントローラーの作動表示灯が点灯しない
- どのスイッチを押しても作動しない
- 作動範囲が狭く不安定になる

お客様自身で電池の交換をする場合は、次の手順で交換してください。

電池の規格：リチウム電池 CR1620



- 1 キーを取り出します。
→ 15 ページ「リトラクタブルタイプキー」
- 2 マイナスドライバーなどを使ってフックを押し、キー部分とリモートコントローラー部分を取りはずします。
- 3 マイナスドライバーなどを慎重にを使って、ゆっくりとまわしながらカバーを開きます。

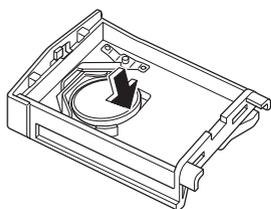


- 4 電池の端を押して、電池を取り出します。

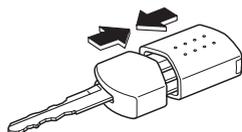


知識

指で押して取り出しにくい場合は、ドライバーなどで押すと取り出しやすくなります。



- 5 新しい電池の + 側を下にして、電池を差し込み取り付けます。
- 6 カバーを閉めます。



- 7 リモートコントローラーとキーの向きを合わせ、外れないようにカチッと音がするまで押し込みます。

車の手入れ

外装の手入れ

車を美しく保つためには日ごろの手入れが大切です。

- 保管、駐車は風通しのよい屋根のある場所をおすすめします。
- 走行後は、車体についたほこりをやわらかい布か毛ばたきで払い落としましょう。
- とび石などによる塗装の傷は腐食の原因となります。見つけたら早めに補修してください。
- 洗車やワックスがけ、装備品の手入れは定期的に行ないましょう。
- ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は塗装を損傷するので付着させないでください。万一付着した場合はただちにふき取るか、洗車してください。
- ヘッドランプ、制動灯などのプラスチックを使用しているランプ類は、コンパウンド（みがき粉）入りのワックスを使用しないでください。
- 次のようなときは、早めに洗車などの手入れを行なってください。
そのまま放置しておく、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。
 - 海岸地帯を走行したとき。
 - 凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
 - ばい煙や粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき。
 - 鳥のふん、虫の死がい、樹液、果実などが付いたとき。
 - コールタール、塗料、砂じん、コンクリートの粉などが付いたとき。
 - 泥、ほこりが著しく付いたとき。
 - 雨の中を走行したときや、雨にぬれたとき。

洗車するとき

水洗いするとき

- ① 車の足まわりに付いている泥を洗い落とします。
- ② 車体上部から水をかけながら、やわらかいスポンジやセーム皮などで洗います。汚れがひどいときは洗車用洗剤を使用し、水で十分洗い流してください。
- ③ はん点が残らないように水をふき取ってください。

注意



オートワイパー装備車は、ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。電源ポジションが ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、ワイパーが自動で作動することがあります。



運転席 / 助手席側ワイパーアームを起こすときは、運転席側のワイパーアームから起こしてください。また、降ろすときは助手席側のワイパーアームから降ろしてください。ワイパーアームとブレードが接触し損傷するおそれがあります。



エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。



洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。

自動洗車機を使用するとき

- ドアミラーを格納してください。
- アンテナを取りはずしてください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
- スポイラー装備車は、洗車機によってはスポイラーがひっかかり洗車できない場合や損傷するおそれがあります。

高圧洗車機を使用するとき

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入るおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗淨しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

ワックスをかけるときは

- ワックスがけは月に一回程度、または水のはじきが悪くなったときに洗車してから行なってください。
- 直射日光を避け、ボディーが冷えているとき (体温以下が目安) に行なってください。



知識

ワックスの使用について

- コンパウンド (みがき粉) 入りのワックスを使用すると、塗装の光沢が失われることがあります。
- ワックス容器に記載してある使用説明をよく読んでから使用してください。

車の手入れ

ガラス、ミラーの手入れ

ガラスやミラーについての油膜を取るときは純正ガラスクリーナーを使用してください。
ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。



注意



熱線を損傷するおそれがあるため、熱線にそってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

フロントガラスの油膜をとるときは

雨の夜は、フロントガラスに油膜があると、対向車のライトなどが乱反射して、見えにくくなることがあります。

ガラスクリーナーを使ってフロントガラスの表面をきれいにしてください。

撥水加工ガラス / ミラー

運転席 / 助手席窓ガラス、ドアミラー

撥水加工が施されているため、運転席 / 助手席窓ガラス、ドアミラーについての水滴が小さな水玉状になります。

また、撥水加工により、泥、油膜などが付きにくく、霜、雪なども落としやすくなります。

手入れについて

水滴をはじく持続期間には限りがあります。長持ちさせるために次の点を守ってください。

- ガラスやミラーが汚れているときは、早めにやわらかい湿った布などで清掃してください。
- 運転席 / 助手席窓ガラスの汚れがひどいときは、汚れを取り除いてから、ガラスの開閉を行なってください。
- ガラスやミラーを清掃するときは、コンパウンド（みがき粉）のはいったガラスクリーナーやワックスは使用しないでください。また、ガラスクリーナーを使用しても曇る場合は、湿った布などでふき取ってください。
- 自動洗車機（コイン洗車機）を使用するときは、ガラスやミラー表面の泥などの汚れを落としてから洗車してください。
- ワックス洗車を使用したときは、ガラスやミラー表面についたワックスにより、水滴がはじきにくくなる場合があります。このようなときは、ワックスをふき取ってください。

アルミホイールの手入れ グレード/仕様別装備

アルミホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く水洗いしてください。

汚れのひどいときは中性洗剤をしみこませたやわらかい布などでふき取ってください。

注意



中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。
変色・シミの原因となります。

知識

アルミホイールを洗うときは

- アルミホイールは傷がつきやすいので、砂入り石けんや硬いブラシは使用しないでください。
- 自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつくことがあります。

外装樹脂部品の手入れ

- バンパーなど樹脂部品の塗装面にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると変色、シミ、塗膜はがれなどの原因となります。すみやかに軟らかい布でふき取ってください。
- コンパウンド（みがき粉）入りのワックスを使用すると、塗膜を損傷するおそれがありますので使用しないでください。
- 電動またはエア工具を使用してコンパウンド（みがき粉）がけやワックスがけを行なうと摩擦熱が発生して、樹脂部品の変形や塗膜の損傷などの原因になることがありますので使用しないでください。
- プラスチックレンズを使用しているランプ類は、ガソリン、灯油、高濃度アルコール類、塗料、シンナー、強酸性洗剤、強アルカリ性洗剤などの化学液により表面が変色したりダメージを受けて、機能を著しく損なうおそれがあります。お手入れの際には使用しないでください。万一付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

車の手入れ

内装の手入れ

警告



室内に水をかけない。

オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

知識

- シンナー、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や、アルコール、塩素系漂白剤などでふかないでください。変色、シミの原因になります。
- 硬いブラシや布で強くこすると、傷がつくことがあります。

シートベルトの手入れ

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなる場合があります。早めに手入れを行なってください。

- ① 水で薄めた中性洗剤（約5%）をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
- ② きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
- ③ 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認してください。

警告



シートベルトにほつれ、すりきずなどの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。

そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。

有機溶剤を使用したり、染色、漂白するとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

布張り部分の手入れ

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

- ① 水で薄めた中性洗剤（約5%）をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取ります。
- ② きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。

革張り部分の手入れ グレード/仕様別装備

汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じることがあります。早めに手入れを行なってください。

- ① 掃除機などでホコリや砂を取り除きます。
- ② 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤（約5%）をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取ります。
- ③ きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取ります。
- ④ 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させます。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させてください。

樹脂部品の手入れ

樹脂部品に油脂類が付着すると、変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。早めにやわらかい布などでふき取ってください。



注意



つや出し剤を使用しないでください。

含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗膜はがれの原因になります。

季節の準備

冬にそなえて

エンジンオイルの準備

外気温に応じたエンジンオイルに交換してください。

→ 264 ページ「エンジンオイル」

バッテリー液の点検

気温が下がるとバッテリー性能が低下するためエンジン始動が困難になる場合があります。

バッテリー液の量、比重を点検し、必要に応じて液の補充をしてください。

点検、補充の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冷却水の濃度の調節

冷却水には、凍結を防止するために不凍液が入っています。

冬場になっても凍結しないよう冷却水の濃度を調節してください。

不凍液の割合	使用温度範囲 (外気温)
30%	- 16° C 以上
50%	- 37° C 以上

純正ロングライフクーラント (ゴールドen) [FL22] を使用する場合

純正ロングライフクーラント (ゴールドen) [FL22] は濃度調整済みの冷却水です。

薄めずそのままご使用ください。

冷却水量の点検や補充については別冊のメンテナンスノートに記載しています。

冷却水を交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液の濃度の調節

ウォッシャー液が凍結するのを防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考にして、外気温に応じた濃度に調節してください。

→ 191 ページ「ウォッシャー液の補充」

寒冷地用ワイパーブレードについて

降雪期にフロントガラスに雪が付着するのを防ぐために、寒冷地用ワイパーブレードをお使いください。

寒冷地用ワイパーブレードは通常のワイパーブレードの金属部分をゴムでおおっております。必要に応じてマツダ販売店で求めください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備



警告



タイヤを交換するときは前後輪とも必ず指定された同一サイズ、同一種類のものを使用する。

指定された組み合わせ以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

16 インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、ボディーなどに干渉し傷を付けることがあるため装着できません。タイヤチェーンを使用するときは 14 インチまたは 15 インチタイヤに前後輪とも交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤチェーンはタイヤサイズに合った純正品を準備し、使用する前に一度装着してみても手順を理解しておきましょう。

→ 219 ページ「タイヤチェーンの取り付け」

タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンは 4WD 車も前輪に取り付けます。

タイヤチェーンはタイヤサイズにあった純正品を使用してください。タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって正しく取り付けてください。

タイヤチェーンの取り付けは、交通のさまたげにならず、安全に作業ができる平らな場所で行なってください。

路上で行なう場合は、非常点滅灯、停止表示板（停止表示灯）を使用してください。

季節の準備

注意

-  応急用スペアタイヤにタイヤチェーンは装着できません。前輪がパンクしたときは応急用スペアタイヤを後輪に、はずした後輪を前輪に取り付け、前輪にタイヤチェーンを装着してください。
-  純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。
-  積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。また、4WD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。
-  タイヤチェーンを装着したときは、30km/h 以下で走行してください。30km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

知識

タイヤチェーンについて

- お客様のお車にタイヤチェーンは標準で搭載されていません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。
- ホイールキャップ装着車は、キャップをはずしてからタイヤチェーンを取り付けてください。ホイールキャップに傷がつくおそれがあります。
- 16 インチタイヤ装着車にタイヤチェーンを使用すると、ボディーなどに干渉し傷を付けることがあるため装着できません。タイヤチェーンを使用するときは、14 インチまたは15 インチタイヤに前後輪とも交換して、純正のタイヤチェーンを使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
- アルミホイール装着車にタイヤチェーンを取り付けると、ホイールに傷がつくおそれがあります。

夏にそなえて

オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足していないかこまめに点検してください。
点検要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エアコンのチェック

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前にマツダ販売店で点検を受けておきましょう。

炎天下に駐車したあとは

炎天下に駐車したあとは室内の温度が大変高くなります。このようなときは、窓ガラスを開けて、室内の熱気を逃がしてからエアコンを作動させてください。

前進
に転
する

と運
転
に
す
る

使
室
内
方
装
備
の

し
お
手
た
入
れ
の

起
ト
ギ
ラ
た
ブ
ル
が

車
用
ス
ペ
ック

さ
い
ん

環境保護のために

廃棄物を処理するときは

廃棄物については、法律上適切な処理が求められています。

- タイヤを燃やすと有毒なガスが発生するので、自己処理はしないでください。使用済みタイヤは新品タイヤを購入した販売店に処分を依頼してください。
- バッテリーは鉛や硫酸が使われています。使用済みバッテリーは新品バッテリーを購入した販売店に処分を依頼してください。
- エンジンオイルやクーラントが地下や川などに流れ出すと、環境を悪化させます。交換済みのエンジンオイルは新品エンジンオイルを購入した販売店に処分を依頼してください。また、クーラントを交換する場合はマツダ販売店にご相談ください。
- エアコンにはオゾン層を破壊しない代替フロンガス HFC134a (R134a) を使用しています。それでも代替フロンガスには地球を温暖化するはたらきがあります。ガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店が専門の修理業者に依頼してください。

5 トラブルが起きたら

故障したとき 224

- 路上で動けなくなったとき..... 224
- スタックしたとき..... 225
- 踏切内で動けなくなったとき..... 226

緊急用具の取り扱い 227

- 発炎筒..... 227
- 工具、ジャッキの格納場所..... 228
- ジャッキの取り扱い..... 229

パンクしたとき 233

- タイヤパンク応急修理キット..... 233

バッテリーがあがったとき 241

- バッテリーあがりについて..... 241

オーバーヒートしたとき 244

- オーバーヒートについて..... 244

アドバンストキーが作動しないとき 246

- アドバンストキー一時停止機能..... 246

けん引について 247

- けん引してもらうとき..... 247
- 故障車をけん引するとき..... 249

万一事故が起きたとき 250

警報チャイム 251

- チャイムがなったときは..... 251

警告灯 254

- 警告灯が点灯、点滅したときは..... 254

リヤゲート 262

- リヤゲートが開けられなくなったとき..... 262

故障したとき

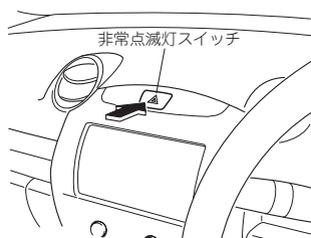
路上で動けなくなったとき

一般の道路で動けなくなったときに付近に人がいる場合は救援を求めてください。
チェンジレバー/セレクトレバーをNにいれ、安全な場所まで押し出します。

警告

 万一、事故や故障などで車から燃料がもれている場合は、すぐにエンジンを止める。
爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

1 車を路肩に止め、非常点滅灯を点滅させます。



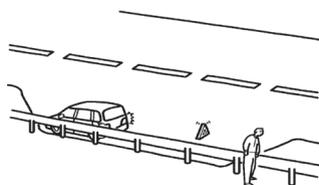
2 必要に応じて停止表示板（停止表示灯）、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせます。

→ 227 ページ「発炎筒」

- 高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板（停止表示灯）を置くことが法律で義務づけられています。
- 停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。

3 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難してください。

4 安全を確認した後、救援を求めます。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店へ連絡してください。



知識

停止表示板（停止表示灯）について

停止表示板（停止表示灯）はお客様のお車に標準で搭載されておりません。万一に備えてあらかじめ用意しておいてください。マツダ販売店でお求めいただけます。

スタックしたとき

ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んで動けなくなることをスタックといいます。

- 周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをDまたはRにいて、アクセルペダルを軽く踏みます。チェンジレバー/セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがパースト（破裂）したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。
- アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

前進
に転
する

と運
転に
する

使
室
い
内
方
装
備
の

し
お
か
手
た
入
れ
の

起
ト
ラ
ン
ス
ミ
ッ
シ
ョ
ン
が

車
両
ス
タ
ッ
ク

さ
い
い
ん

5. トラブルが起きたら 故障したとき

踏切内で動けなくなったとき

脱輪などで動けなくなったとき



- 1 踏切の非常ボタンを押します。緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→ 227 ページ「発炎筒」
- 2 付近の人に救援を求めます。

エンストで動けなくなったとき

- 1 エンジンをかけ直します。
- 2 エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押します。
緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図します。
→ 227 ページ「発炎筒」
- 3 付近の人に救援を求めます。
チェンジレバー / セレクトレバーを N にいれ、安全な場所まで押し出します。

知識

緊急避難について

スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

発炎筒

警告



油、ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。
火災につながるおそれがあります。



使用するときは筒先を顔や身体に向けたり近づけない。
やけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

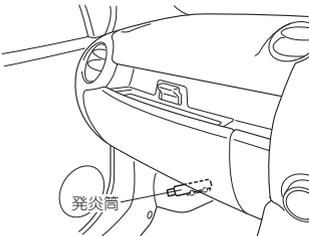


お子さまにはさわらせない。
誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。



トンネル内では発炎筒を使用しない。
トンネル内で発炎筒を使用すると、煙で視界が悪くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

発炎筒について



事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

- 使用方法
- 使用上の注意事項
- 発炎時間
- 有効期限

5. トラブルが起きたら

緊急用具の取り扱い

工具、ジャッキの格納場所

警告



必ず守る

車に搭載されているジャッキを使用する。

車に搭載されているジャッキはお客様のお車専用のものです。

車に搭載されている以外のジャッキを使用すると、車体が損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意



禁止

ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーンの取り付け、取りはずし以外に使用しないでください。

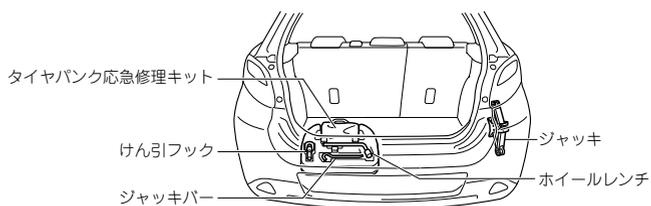


必ず守る

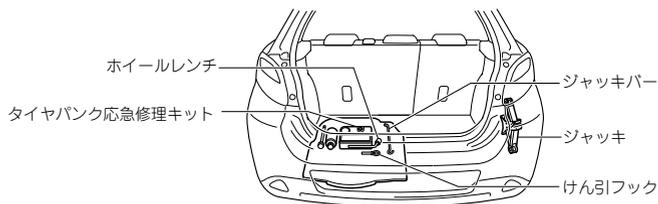
工具、ジャッキを使用したあとは走行中に動かないよう、所定の位置にしっかりと固定してください。

工具、ジャッキは図の位置に格納されています。

(2WD 車)



(4WD 車)



ジャッキの取り扱い

ジャッキアップする前に

- 1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。
- 2 マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいます。
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりとかけ、エンジンを止めます。
- 4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
→ 224 ページ「路上で動けなくなったとき」
- 5 人や荷物を降ろし、工具、ジャッキを取り出します。
→ 228 ページ「工具、ジャッキの格納場所」
- 6 輪止めを用意します。

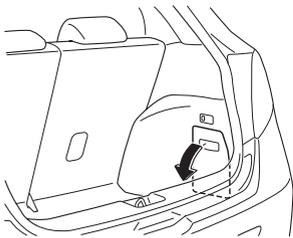


知識

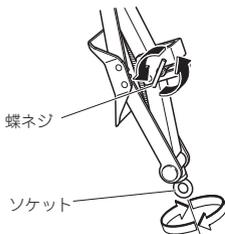
輪止めについて

輪止めはお客様のお車に標準で搭載されておりません。必要に応じてマツダ販売店でお求めください。なお、輪止めには、タイヤを固定できる大きさの石や木材が代用できます。

ジャッキを取り出すとき



- 1 カバーを取りはずします。



- 2 蝶ネジを左にまわしてはずし、ソケットをゆるめてジャッキを取り出します。

緊急用具の取り扱い

ジャッキアップするとき

警告

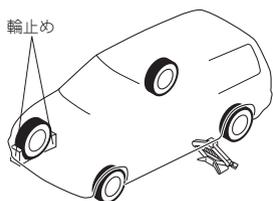


必ず守る

ジャッキアップするときはマニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいれ、パーキングブレーキをかけ、ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。

チェンジレバーが1またはR、セレクトレバーがPにはいっていても、車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

輪止め

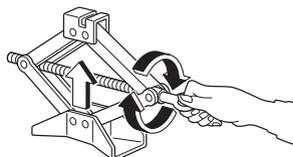


1 ジャッキをかける位置と対角の位置にあるタイヤに輪止めをします。

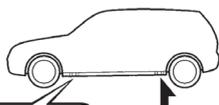
- 前輪をジャッキアップするときは、後輪の前後
- 後輪をジャッキアップするときは、前輪の前後

2 ジャッキを地面に置きます。

3 ジャッキの図の部分を手でまわしてジャッキをジャッキアップ指定位置の近くにくるよう調節します。



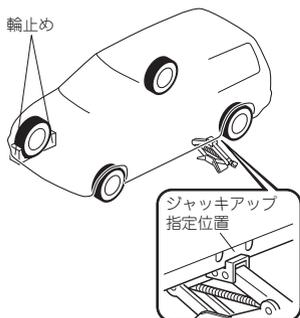
4 ジャッキをジャッキアップ指定位置 (目印となるふくらの間) の中央に直角にセットします。



ジャッキアップ
指定位置



- 5 ジャッキを徐々に上げて、ジャッキアップ指定位置（目印となるふくらみの間）の中央にジャッキがはまっていることを確認します。



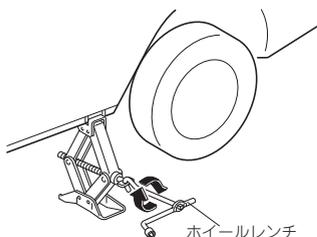
警告



禁止

ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり、ジャッキの上下に台やブロックなどを入れない。

車体の変形したり、ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。



ホイールレンチ

- 6 ジャッキにジャッキバーをかけ、ジャッキバーにホイールレンチを組み付けます。

- 7 タイヤが地面から少し離れるまで車をジャッキアップします。



警告



禁止

必要以上にジャッキアップしない。

車体が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



禁止

ジャッキアップした状態で車のエンジンをかけない。

ジャッキがはずれた場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。



禁止

ジャッキアップした車の下には絶対にはいらない。

万一ジャッキがはずれた場合、重大な傷害につながるおそれがあります。

緊急用具の取り扱い

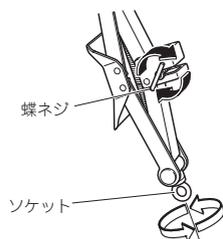
⚠ 注意



禁止

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

ジャッキを格納するとき



- 1 ソケットが下側になるような方向で蝶ネジをジャッキに差し込み、右にまわしていったん固定します。
- 2 ソケットを図の方向にまわします。
- 3 蝶ネジをしっかりまわしてジャッキを固定します。

📖 知識

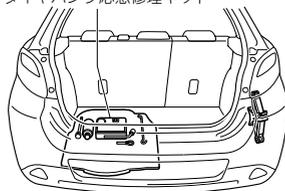
ジャッキが完全に固定されていないときは、走行中に音がある場合があります。再度ソケットをまわしてジャッキを固定してください。

タイヤパンク応急修理キット

(2WD車)
タイヤパンク応急修理キット



(4WD車)
タイヤパンク応急修理キット



本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。

タイヤパンク応急修理キットは図の位置に格納されています。

タイヤパンク応急修理キットについて

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。
詳細な内容物については修理キット内の取扱説明書をご覧ください。



修理剤



注入ホース



エアコンプレッサー

または



予備バルブコア



コア回し



速度制限シール



取扱説明書



警告



必ず守る

万一飲用したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。

修理剤を飲用すると健康に害があります。



必ず守る

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄する。

それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。



禁止

お子さまには修理剤をさわらせない。

誤って使用すると、やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

5. トラブルが起きたら パンクしたとき



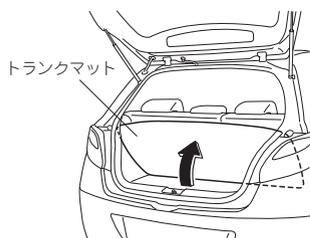
知識

修理剤の使用について

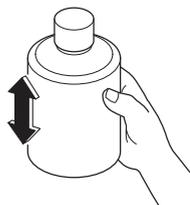
- 一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。
- 次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
 - ・ 修理剤の有効期限がきれているとき（有効期限はボトルのラベルに記載されています）
 - ・ 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
 - ・ 接地部以外が損傷を受けたとき
 - ・ ほとんど空気の抜けた状態で走行したとき
 - ・ タイヤがホイールからはずれているとき
 - ・ ホイールが破損しているとき
 - ・ タイヤが 2 本以上パンクしているとき

タイヤパンク応急修理キットの使いかた

- 1 交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面の平らで固い場所に車を移動します。
- 2 マニュアル車はチェンジレバーを1またはRに、オートマチック車はセレクトレバーをPにいます。
- 3 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めます。
- 4 必要に応じて、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板(停止表示灯)を使用します。
- 5 人や荷物を降ろします。



- 6 トランクマットをめくり、タイヤパンク応急修理キットを取り出します。



- 7 修理剤のボトルをよく振ります。



警告



必ず守る

注入ホースをねじ込む前にボトルを振る。

注入ホースをねじ込んだ後にボトルを振ると、修理剤が注入ホースから飛び散り、修理剤が衣服などに付着すると取れないおそれがあります。



知識

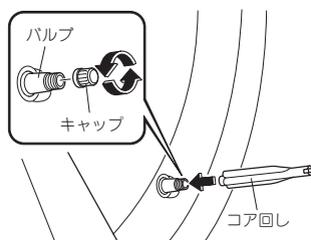
修理剤の性質について

0° C以下の寒冷時では修理剤が固まりやすくなり、注入作業がしにくくなります。車内などで暖めると注入作業がしやすくなります。

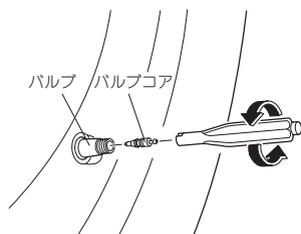
5. トラブルが起きたら パンクしたとき



- 8] ボトルのキャップをはずします。内ぶたをつけたままの状態
で注入ホースをボトルにねじ込むと、ボトルの内ぶ
たが破れます。



- 9] パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずし、
コアまわしの後ろでバルブ内のバルブコアを押し
てタイヤの空気を完全に抜きます。



- 10] コアまわしでバルブコアを左にまわし、バルブコアを取
りはずします。

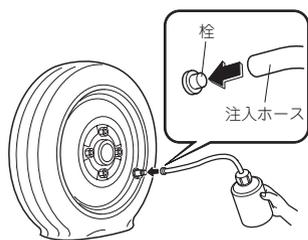
⚠ 注意



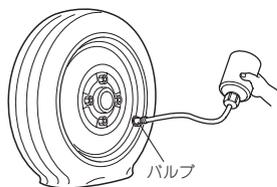
バルブコアをはずすとき、タイヤに空気が残っているとバルブコアが飛び出すおそれ
があります。バルブコアは慎重に取りはずしてください。

📖 知識

バルブコアは汚れないように保管してください。



- 11 注入ホースの栓をはずし、注入ホースをバルブに差し込みます。



- 12 ボトルを逆さまにして持ち、手でボトルを圧迫し、修理剤を全てタイヤの中に注入します。
- 13 注入ホースをバルブから引き抜き、コアまわしでバルブコアを右にまわし、バルブにバルブコアを取り付けます。

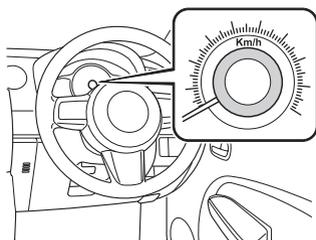


知識

修理剤の回収について

注入が完了した空ボトルは、タイヤ交換または恒久修理の際に修理剤の回収に使用しますので、ボトルは捨てずにマツダ販売店までお持ちください。

5. トラブルが起きたら パンクしたとき

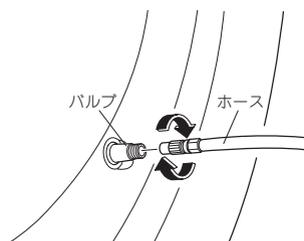


- 14 運転者のよく見えるところに速度制限シールを貼ります。

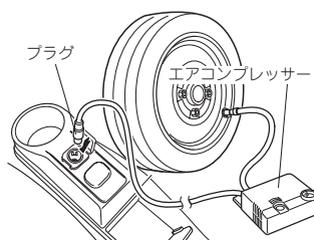
警告

 ハンドルのパッド部に制限速度シールを貼らない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

- 15 エアコンプレッサーのホースをバルブに取り付けます。



- 16 エアコンプレッサーのプラグを車内の電源ソケットに差し込み、電源ポジションを ACC にします。
→ 174 ページ「電源ソケット」



注意

 電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。

- 17 エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧します。



知識

空気圧の調整について

- タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。
- エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10分以上連続して作動させないでください。
- タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10分以内に適正空気圧にならない場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店または JAF などに連絡してください。
- 空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーのホースの口金を緩めて空気を抜いてください。

- 18 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしエアコンプレッサーのホースをバルブから抜きます。

- 19 バルブキャップを取り付けます。

- 20 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、直ちに走行を始めます。



注意



必ず守る

80km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80km/h 以上の速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

- 21 10分間もしくは5km程度走行後に手順15の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧をチェックします。適正空気圧より低下していたら、手順16の作業から再度行ないます。



警告



禁止

空気圧が 130kPa (1.3kgf/cm²) 以下に低下していたら、運転を中止してマツダ販売店または JAF などに連絡する。

本修理キットによる応急修理はできません。



禁止

手順 15 ~ 21 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止する。

マツダ販売店または JAF などに連絡してください。

5. トラブルが起きたら パンクしたとき

注意



タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

- 22 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。すみやかにマツダ販売店まで慎重に運転し、タイヤの交換を行なってください。

知識

応急修理をしたタイヤとホイールは

- タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早くマツダ販売店で修理、交換を行なってください。
- ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

タイヤパンク応急修理キットの点検

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

- 修理剤の有効期限の確認
- コンプレッサーの作動の確認

知識

修理剤の有効期限について

修理剤には有効期限があります。有効期限がきたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限がきる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

バッテリーあがりについて

次のような状態はバッテリーあがりです。

- スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンがかからない。
- ホーンの音が小さい、または鳴らない。
- ランプ類がいつもより極端に暗い。



警告

正しく安全にバッテリーを取り扱うために、バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。



必ず保護メガネを着用する。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。



バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、バッテリー液をこぼさない。

バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。



絶対に火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディに触れないように十分注意してください。



換気の悪い場所では、バッテリーの充電を行なわない。また、充電中はバッテリーに近づかない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。



ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ずバッテリー液の量を点検する。

バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。バッテリー液が不足しているときは、エンジン始動前に必ず補充液または蒸留水を補充してください。

5. トラブルが起きたら

バッテリーがあがったとき

処置方法

押しがけによる始動はできません。

別売のブースターケーブルを使用して、救援車（他の車）のバッテリーと自車のバッテリーを接続してエンジンをかけます。

自車と同じ12Vバッテリーを搭載した救援車を依頼してください。

⚠ 注意

 ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

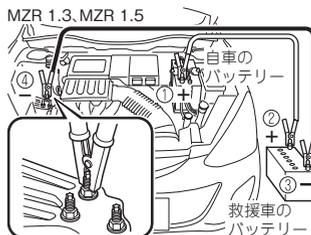
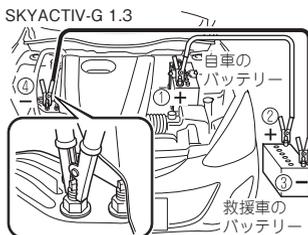
- 1 自車のバッテリーと救援車のバッテリーが一番近い位置になるように、車を移動させます。
- 2 ヘッドランプやエアコンなどの電源が切っていることを確認します。
- 3 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続します。
ブースターケーブルを接続する前に各バッテリーの端子（+、-）の位置を確認してください。

● 1 本目

- ① 自車のバッテリーの + 端子
- ② 救援車のバッテリーの + 端子

● 2 本目

- ③ 救援車のバッテリーの - 端子
- ④ 図で表示の箇所（アースを取る）



警告



禁止

バッテリーを取り扱うときは、絶対に火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、火花の発生を防ぐため次の点を必ず守ってください。

- ④の接続は自転車バッテリーの－端子につながないでください。
- ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子がボディーや－端子に触れないように十分注意してください。

- 4 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにします。
- 5 自転車のエンジンをかけます。約3分間エンジンを回転させて、応急的に自転車のバッテリーを充電します。

警告



禁止

充電中はバッテリーに近づかない。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

- 6 ブースターケーブルを接続したときと逆の順で取りはずします。
- 7 早めにマツダ販売店で点検を受けてください。



知識

バッテリーがあがりやすいときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

5. トラブルが起きたら

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートについて

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯（赤）が点灯し、エンジンの出力が急に低下したとき。
- エンジンルームから蒸気が出ているとき。

警告

 エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。
エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出ていない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。

  エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。
エンジンが熱いときにキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

  エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。
特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが止まってもファンが回転することがあるため、手や指などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

処置方法

- 1 安全な場所に車を止めます。
- 2 エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認します。

エンジンルームから蒸気が出ているときは

エンジンを止めてください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。

エンジンルームから蒸気が出ていないときは

エンジンをかけたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。

電動ファンが作動していることを確認し、高水温警告灯（赤）が消灯したらエンジンを止めます。

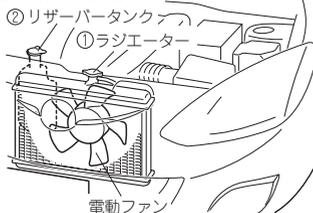


注意

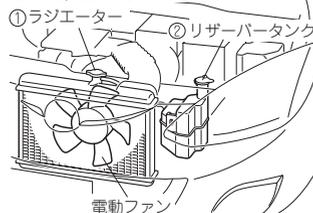


電動ファンが作動していないときは、エンジン温度がさらに上昇します。ただちにエンジンを止め、マツダ販売店にご連絡ください。

SKYACTIV-G 1.3



MZR 1.3, MZR 1.5



- 3 エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検します。量が不足しているときは ① ラジエーター ② リザーバタンクの順に冷却水を補充してください。
補充後はキャップを確実に取り付けてください。
- 4 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受けてください。



知識

冷却水がない場合は

一時的に水を補充してください。

水を補充したあとは、冷却水の濃度をもとにもどしてください。

アドバンストキーが作動しないとき

アドバンストキー一時停止機能

アドバンストキーが車内にあるとき、車内に置いてあるアドバンストキーの機能（スタートノブでのエンジン始動、リクエストスイッチの操作）が盗難防止のため、一時停止する場合があります。

次のいずれかの操作で復帰させてください。

- 一時停止したアドバンストキーのいずれかのスイッチを押す
- 別のアドバンストキーを携帯し、KEY 表示灯（緑）が点灯するまでスタートノブを押し込む
- 補助キーを差し込み、エンジンスイッチを ON の位置までまわす

けん引してもらおうとき

けん引はできるだけマツダ販売店または JAF などに依頼してください。特に、エンジンがかかっているのに車が動かないときや異常な音がするときには駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店または JAF などに連絡してください。

警告



長い下り坂を降りるときは、レッカー車でけん引する。

ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

注意



オートマチック車をロープでけん引してもらおうときは、速度 30km/h 以下、走行距離は 30km 以内にしてください。

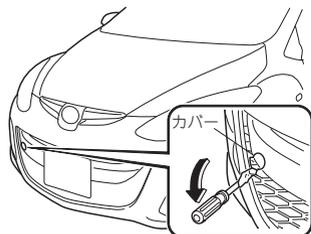


4WD 車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地状態で搬送してください。駆動装置の故障時は、トレーラーなどに搭載して搬送してください。前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。



金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

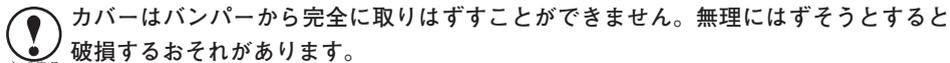
やむをえずロープでけん引してもらおうときは、車両の前側にあるけん引フックを使用し、次の手順で行なってください。



- 1 けん引フック、ホイールレンチをラゲッジルームから取り出します。
→ 228 ページ「工具、ジャッキの格納場所」
- 2 マイナスドライバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずします。

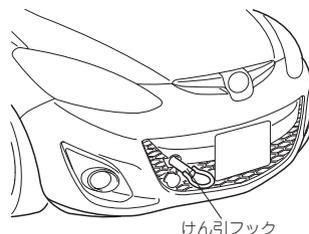
5. トラブルが起きたら けん引について

⚠ 注意

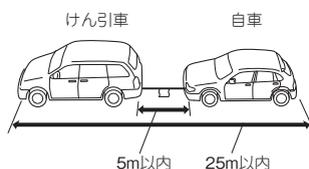
 カバーはバンパーから完全に取りはずすことができません。無理にはずそうとすると破損するおそれがあります。



③ ホイールレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。



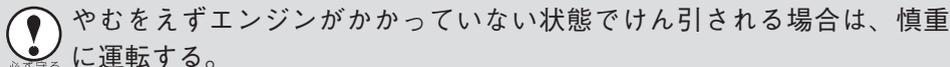
④ けん引ロープをフックにかけます。



⑤ ロープは5m以内にして、中央に0.3m平方(0.3m × 0.3m)以上の白い布を必ずつけてください。

⑥ けん引してもらう車はエンジンをかけ、チェンジレバー/セレクトレバーをNにいます。エンジンがかからないときは、電源ポジションをACCにします。

⚠ 警告

 やむをえずエンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。



エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなるなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

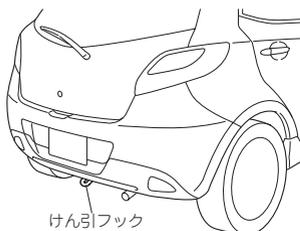
⚠ 注意



けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF (LOCK) にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 7 パーキングブレーキを解除します。
- 8 けん引する車の制動灯に注意し、ロープをたるませないように走行してください。

故障車をけん引するとき



一般路上でやむをえず故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

⚠ 注意



けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

- 自車の重量より重い車はけん引しないでください。
- 急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。
- けん引フック以外にロープをかけないでください。



金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端についているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

5. トラブルが起きたら

万一事故が起きたとき

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。

1. 事故の続発防止

他の交通のさまたげにならない安全な場所(路肩、空き地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。

2. 負傷者の救護

負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。

3. 警察への連絡

事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。

4. 相手の氏名、住所などの確認

5. マツダ販売店、保険会社への連絡



知識

事故がおきたら

軽いけがでも、必ず警察に届けましょう。また、外傷がなくても頭部などに強い衝撃を受けたときは、医師の診断を受けましょう。後遺症がでることがあります。

チャイムがなったときは

システムの故障や、使用上の注意が必要な場合に警報チャイムでお知らせします。

チャイム	現象	確認してください
キー抜き忘れ防止チャイム	電源ポジションを OFF または ACC にして運転席ドアを開けたときにチャイムが鳴りつづけるとき	キーまたは補助キーが差し込んだままになっていないか
ランプ消し忘れ防止チャイム	キーまたは補助キーを抜いて (アドバンストキーレス機能使用時は、電源ポジションを OFF にして)、運転席ドアを開けると、チャイムが鳴りつづけるとき	ランプを点灯させたままになっていないか
エアバッグ警告チャイム / プリテンショナー警告チャイム	約 35 分のあいだに、毎分 5 秒間チャイムが鳴りつづけるとき	 警告  禁止 エアバッグ警告チャイム / プリテンショナー警告チャイムが鳴っているまま走行しない。 衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。
シートベルト着用忘れチャイム	車速が約 20km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴るとき	運転席シートベルトの着用を確認する。着用すると鳴り止む。

5. トラブルが起きたら

警報チャイム

チャイム	現象	確認してください
スタートノブもどし忘れ警報	運転席ドアを開けたときに、チャイムが「ピーピー、ピーピー、…」と連続で鳴りつづけるとき	電源ポジションを OFF にしているか
アドバンストキー車外持ち出し警報	ドアを開けているときに、チャイムが3回鳴り、メーター内のKEY警告灯(赤)が点滅しているとき	アドバンストキーを車外に持ち出していないか
	ドアを施錠しようとしたときに、チャイムが「ピピッ、ピピッ、ピピッ」と6回鳴るとき	電源ポジションを OFF にしているか いずれかのドア、リヤゲートが開いていないか
アドバンストキー車内閉じ込み警報	ドアを施錠しようとしたとき、またはリヤゲートを閉めたときに、チャイムが「ピピッ、ピピッ、…」と約10秒間鳴るとき	アドバンストキーを車内に置いていないか
リクエストスイッチ不作動警報	アドバンストキーを携帯してドアのリクエストスイッチを押すと、チャイムが6回鳴るとき	いずれかのドア、リヤゲートが開いていないか
		電源ポジションを OFF にしているか
		キーまたは補助キーが差し込んだままになっていないか
	ドアを閉めたときに、チャイムが6回鳴り、メーター内のKEY警告灯(赤)が点滅しているとき	アドバンストキーを車外に持ち出していないか

チャイム	現象	確認してください
i-stop 警告チャイム	アイドリングストップ中にチャイムがなり、i-stop 警告灯（橙）と他の警告灯も点灯したとき	運転席ドアが開いていないか
		ボンネットが開いていないか
		シートベルトを着用しているか

確認してもチャイムが鳴り止まないときは、マツダ販売店に連絡してください。

前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
か手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
らル
が

車前
スペース

さいん

警告灯

警告灯が点灯、点滅したときは

ブレーキ警告灯が点灯した



次のようなときは点灯し続けます。

ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

- ブレーキ液が不足しているとき。
- ブレーキ装置（電子制御制動力配分システム）に異常があるとき。

警告



ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。

ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。



ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

故障警告表示灯が点灯した



次のようなときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- ブレーキスイッチに異常があるとき
- 充電装置に異常があるとき グレード/仕様別装備

警告



故障警告表示灯が点灯したまま走行しない。

ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

充電警告灯が点灯した



エンジン回転中、充電装置に異常があると点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。



充電警告灯が点灯したまま走行しない。

エンジンが不意に停止して思わぬ事故につながるおそれがあります。

油圧警告灯が点灯した



エンジン回転中、エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。

ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止め、エンジンオイルの量を点検してください。

エンジンオイルの量が不足しているときは補充してください。

エンジンオイルの量が不足していないのに点灯するときや、補充しても点灯し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。

エンジン警告灯が点灯または点滅した



エンジン制御システムに異常があると点灯 / 点滅し続けます。

高速走行をせず、マツダ販売店で点検を受けてください。
点検を受けるときは、エンジン警告灯が点灯 / 点滅したときの走行状態をマツダ販売店にご連絡ください。

警告灯

高水温警告灯 (赤) が点灯または点滅した



エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅し、さらに高くなると点灯します。

点灯したときは

オーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。

→ 244 ページ「オーバーヒートについて」

点滅したときは

エンジン冷却水の温度が異常に高くなったときに点滅します。

エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。

i-stop 警告灯が橙色で点滅した



システムに異常があるときは点滅し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

ABS 警告灯が点灯した



システムに異常があるときは点灯し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

警告



必ず守る

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。

急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



知識

ABS 警告灯が点灯しているときは、ABS は作動しませんが、通常のブレーキ性能は確保されています。

エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯が点灯または点滅した



次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき。
- 点灯 / 点滅し続けるとき。



警告



禁止

エアバッグ警告灯 / プリテンショナー警告灯が点灯または点滅したまま走行しない。

衝突したときにエアバッグまたはプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

4WD 警告灯が点灯した グレード / 仕様別装備



知識

セレクトレバーに手をのせて運転すると

4WD 警告灯が点滅、点灯する場合がありますが異常ではありません。4WD 警告灯が点滅、点灯したときは安全な場所に停車し、セレクトレバーを正しい位置に入れて、エンジンを止めてください。しばらくしてエンジンをかけると、4WD 警告灯は消灯します。警告灯が消灯しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

4WD

4WD システムに異常があるとき点灯します。4WD は作動しませんが、前輪駆動での走行は可能です。高速走行を避け、マツダ販売店で点検を受けてください。

4WD システムの故障状態によってはエンジン回転や車両速度が制限される場合があります。

警告灯

4WD 警告灯が点滅した グレード/仕様別装備

4WD

- 4WD 作動中、次のようなとき点滅します。
4WD 警告灯が点滅したときは、4WD の作動を停止します。
- モーターの温度が上昇したとき。
 - セレクトレバーが正しい位置にないとき。
 - 4 輪に同一サイズのタイヤが装着されていないとき。

処置方法

- 1 セレクトレバーを正しい位置に入れてください。
- 2 4 輪とも同一サイズのタイヤが確認してください。
サイズが異なる場合は、4 輪とも同一サイズのタイヤを装着してください。
- 3 セレクトレバーを P の位置にして、アイドルリング状態でしばらく停車してください。
上記の処置をしても点滅するときは、マツダ販売店に連絡してください。

オートマチックトランスミッション警告灯が点灯した グレード/仕様別装備

AT

- システムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

電動パワーステアリング警告灯が点灯または点滅した



- エンジン回転中、電動パワーステアリングに異常があると点灯 / 点滅します。
警告灯が点灯 / 点滅したときは安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
エンジンを再始動した後でも警告灯が消灯しない場合は、マツダ販売店に連絡してください。

知識

警告灯が点灯または点滅したときは

- 電動パワーステアリングは正常に作動しません。この場合、ステアリング操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。
- 停車中または低速走行時にステアリング操作を繰り返すと、システム保護のためステアリング操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ステアリング操作を行わないでください。しばらくするとともにもどります。

KEY 警告灯が赤色で点灯または点滅した グレード/仕様別装備



点灯するとき

システムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

注意



KEY 警告灯が赤色で点灯し続けるときは、アドバンストキーレス機能（アドバンストキーレスエントリー & スタートシステム）による運転を続けしないでください。安全な場所に停車し、補助キーによる運転に切り替え、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

点滅するとき

- 次のようなとき、警告灯が点滅し、電源ポジションを OFF 以外にできないことをお知らせします。
 - ・ アドバンストキーの電池が切れたとき
→ 207 ページ「アドバンストキー」
 - ・ アドバンストキーが作動範囲内でないとき
 - ・ アドバンストキーを車内でも感知しにくい場所に置いているとき
→ 20 ページ「アドバンストキーレスの機能を使っての操作」
 - ・ アドバンストキーに類似した他社のキーが作動範囲内にあるとき
- 次のようなときは警告灯が点滅し続け、電源ポジションを OFF にせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したことを知らせます。
アドバンストキーを車内にもどすと消灯します。
 - ・ 電源ポジションを OFF にせずに、運転席ドアを開け、アドバンストキーを車外に持ち出したとき
 - ・ 電源ポジションを OFF にせずに、アドバンストキーを車外に持ち出したあと、すべてのドアを閉めたとき



知識

警告灯の点滅と同時にチャイムでもお知らせします。
→ 251 ページ「チャイムがなったときは」

警告灯

KEY 表示灯が緑色で点滅した グレード/仕様別装備



アドバンストキーの電池容量が残り少なくなっていることが考えられます。

このとき、電源ポジションを ON から ACC または OFF にしたときに、30 秒間点滅します。

アドバンストキーが使用できなくなる前に新しい電池と交換してください。

→ 207 ページ「アドバンストキー」

TCS/DSC 作動表示灯が点灯した グレード/仕様別装備



次のようなときはシステムの異常が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

- 電源ポジションを ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき。
- 走行中に点灯したとき。

ヘッドランプオートレベリング警告灯が点灯した グレード/仕様別装備



システムの異常が考えられます。

マツダ販売店で点検を受けてください。

方向指示 / 非常点滅表示灯の点滅が異常に速くなった



電球切れが考えられます。

マツダ販売店で点検を受けてください。

低水温表示灯 (青) が暖気後も点灯し続ける



十分に暖機しても点灯したままのときは、温度センサーなどの故障が考えられます。マツダ販売店で点検を受けてください。

ホールドモード表示灯が点滅した グレード/仕様別装備

HOLD

システムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

セキュリティ表示灯が点灯または点滅するとき グレード/仕様別装備



登録されたキーで電源ポジションを ON にしても表示灯が点灯 / 点滅し続けるときはシステムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

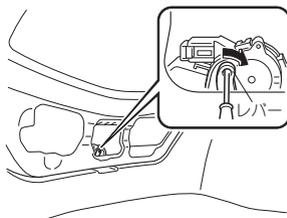
セキュリティ表示灯が点灯 / 点滅したままの状態ではエンジンを停止すると、再度エンジンを始動することができない可能性があります。エンジンを停止せずマツダ販売店で点検を受けてください。

リヤゲート

リヤゲートが開けられなくなったとき

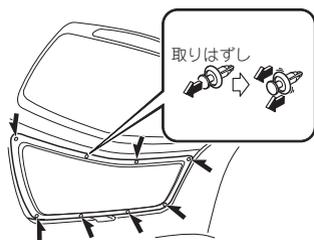
バッテリーあがりや電気系統の故障などで、リヤゲートの解錠ができず開けられなくなったときは応急処置として以下の方法で開けることができます。

注意

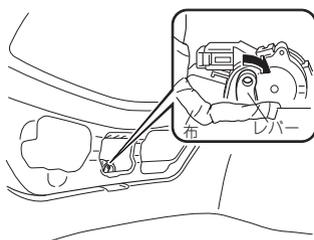


 作業を行なうときは、エッジに布等をあてがってから行なってください。エッジで手を傷つけたり思わぬ事故につながるおそれがあります。

 ドライバーを使用する場合は慎重におこなってください。周辺を傷つけたり、部品を損傷するおそれがあります。



- 1 リヤシートを倒します。
→ 32 ページ「荷室を作るとき」
- 2 クリップを取りはずしてリヤゲート車内側にあるカバーをはずします。



- 3 レバーを右側に動かして解錠します。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

MEMO

6. 車両スペック

燃料、オイル、液類

燃料

使用燃料については、57 ページの「給油するとき」もあわせてお読みください。

項目		サービスデータ
使用燃料		無鉛レギュラーガソリン
タンク容量 (参考値)	SKYACTIV-G 1.3	35L
	MZR 1.3、MZR 1.5	41L

フューエルフィルター (MZR 1.3、MZR 1.5)

項目	サービスデータ
交換時期	160,000km 走行ごと

エンジンオイル

オイル量の確認は、必ずレベルゲージで行なってください。

交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。

寒冷地では、エンジンオイルが劣化しやすいので、早めにオイルを交換してください。

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	15,000km または 1 年ごと
	シビアコンディション ^{*1}	7,500km または 6 か月ごと

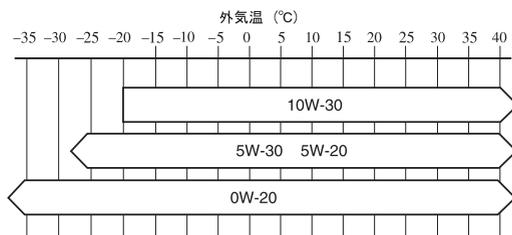
項目		サービスデータ	
オイル グレード	純正モーターオイルゴールデン ECO SM/SN ²	API SN/ILSAC GF-5、SAE 0W-20	
		API SM/ILSAC GF-4、SAE 0W-20	
	純正モーターオイルゴールデン SM	API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-20	
		API SM/ILSAC GF-4、SAE 5W-30	
		API SM/ILSAC GF-4、SAE 10W-30	
純正モーターオイルゴールデン SL	API SL/ILSAC GF-3、SAE 5W-30		
交換量 (参考値)	SKYACTIV-G 1.3	オイルのみ	3.5L
		オイルとオイル フィルター	3.8L
	MZR 1.3、 MZR 1.5	オイルのみ	3.7L
		オイルとオイル フィルター	3.9L

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

*2 純正モーターオイルゴールデン ECO (SN もしくは SM) は省燃費性に優れたエンジンオイルです。SKYACTIV-G 1.3 には、SN の使用を推奨します。

使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表にもとづき使用してください。



燃料、オイル、液類

エンジンオイルフィルター

交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。

項目	サービスデータ	
交換時期	標準	15,000km または 1 年ごと
	シビアコンディション ^{*1}	7,500km または 6 か月ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

マニュアルトランスミッションオイル

項目	サービスデータ
推奨オイル	純正ロングライフ SAE 75W-80 (GL-4)
容量 (参考値)	2.91L

オートマチックトランスミッションフルード

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
推奨フルード	純正 ATF M-V
容量 (参考値)	7.0L

CVT フルード

項目	サービスデータ
推奨フルード	Mobil CVTF 3320
容量 (参考値)	6.70L

ディファレンシャルオイル (4WD 車)

項目	サービスデータ
推奨オイル	純正ロングライフギヤオイル e-4
容量 (参考値)	1.0L

ブレーキ液

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目	サービスデータ
交換時期	2年ごと (初回は3年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)

冷却水

液量の確認は、リザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
交換時期	純正ロングライフクーラント	2年ごと (初回は3年)
	純正ロングライフクーラント (ゴールデン) ¹⁾	100,000km 走行または4年ごと (初回は180,000km 走行または9年)
推奨液		純正ロングライフクーラント、 純正ロングライフクーラント (ゴールデン) ¹⁾

6. 車両スペック

燃料、オイル、液類

項目			サービスデータ	
容量 (参考値)	SKYACTIV-G 1.3	オートマチックトランスミッション (CVT 車)	6.1L	
	MZR 1.3	マニュアルトランスミッション		5.3L
		オートマチックトランスミッション (4EC-AT 車)	2WD 車	4.8L
			4WD 車	5.0L
		オートマチックトランスミッション (CVT 車)		5.5L
	MZR 1.5	マニュアルトランスミッション		5.1L
		オートマチックトランスミッション (CVT 車)		5.4L

冷却水を補充するときは、ラジエーターとリザーバータンクへ補充してください。また、冷却水を交換するときはエンジン側での作業も必要です。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

*1 ラジエーターキャップまたはその付近に **[FL22]** のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールド) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージやリザーバータンク表面のゲージで行なってください。

項目		サービスデータ
タンク容量 (参考値)	SKYACTIV-G 1.3	2.0L
	MZR 1.3, MZR 1.5	2.5L

ブレーキペダル

項目	サービスデータ
遊び	2.6 ~ 4.7mm
床板とのすき間 (踏力 147N {15kgf})	108mm 以上
フロアマットとのすき間 (踏力 147N {15kgf})	70.8mm 以上

パーキングブレーキ

項目	サービスデータ
引きしろ (操作力 98N {10kgf})	2 ~ 5 ノッチ

クラッチペダル

項目	サービスデータ
遊び	11mm 以下
床板とのすき間 (クラッチが切れたとき)	21mm 以上
フロアマットとのすき間 (クラッチが切れたとき)	14mm 以上

オルタネーターベルト

項目	サービスデータ
たわみ量	自動調整式 (使用限度をこえているものは交換)

各部の点検値、交換時期

エアクリナーエレメント

項目		サービスデータ
交換時期	標準	50,000km 走行ごと
	シビアコンディション ^{*1}	25,000km 走行ごと

*1 シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

スパークプラグ

項目			サービスデータ
型式	SKYACTIV-G 1.3	NGK	DILKAR7F8 ^{*1}
		DENSO	FC20HPR8 ^{*1}
	MZR 1.3、MZR 1.5	DENSO	FK16PR11

*1 SKYACTIV-G の最適な性能を発揮するためのスパークプラグです。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。



注意

イリジウムプラグを使用しておりますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

バッテリー

項目			サービスデータ
型式、容量	SKYACTIV-G 1.3		Q-85 ^{*1} 、62Ah (20 時間率)
	MZR 1.3、MZR 1.5	2WD 車	46B24L、45Ah (20 時間率)
		4WD 車	55D23L、55Ah (20 時間率)

*1 Q-85 はアイドリングストップ車用です。アイドリングストップシステムを正しく作動させるために、Q-85 を使用してください。

マツダ純正バッテリーの使用を推奨します。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

電気部品 / 電球 (バルブ)

電球 (バルブ) の容量

電球 (バルブ)		W 数 (12V 用)	規格 (ECE R (SAE))	
ヘッドランプ	ディスチャージヘッドランプ非装備車	60/55W	H4 (—)	
	ディスチャージヘッドランプ 装備車	Hi	60W	HB3 (HB3)
		Lo	35W	D2S (D2S)
フォグランプ (ハロゲン) <small>グレード/仕様別装備</small>		55W	H11 (H11)	
車幅灯		5W	W5W (—)	
前面方向指示灯 / 非常点滅灯		21W	PY21W (—)	
側面方向指示灯 / 非常点滅灯	バルブタイプ	5W ¹	WY5W (—)	
	ミラー内蔵タイプ <small>グレード/仕様別装備</small>	LED ²	— (—)	
後面方向指示灯 / 非常点滅灯		21W	WY21W (—)	
制動灯 / 尾灯	バルブタイプ	21/5W	W21/5W (7443)	
	LED タイプ	LED ²	— (—)	
後退灯		16W	W16W (#921)	
番号灯		5W	W5W (—)	
ハイマウントストップランプ		LED ²	— (—)	
ルームランプ		10W	— (—)	
ラゲッジルームランプ		5W	— (—)	

*1 電球 (バルブ) の交換はできません。ランプユニット本体の交換となります。

*2 LED は Light Emitting Diode の略で、発光するダイオードです。

ヒューズ

→ 193 ページ「ヒューズの受け持つ装置」

タイヤ / ホイールサイズ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディ側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイール		
	サイズ	インセット (オフセット)	ピッチサークル 直径
175/65R14 82S	14 × 5-1/2J (アルミホイール)	40mm	100mm
	14 × 6J (スチールホイール)	45mm	
185/55R15 82V	15 × 6J	45mm	
195/45R16 80W	16 × 6-1/2J	50mm	

前運
に転
する

と運
き転
にする

使室
い内
方装
備の

しお
が手
た入
れの

起ト
きラ
たプ
ラが

車両
スペック

さいは

6. 車両スペック

タイヤ / ホイール

タイヤ空気圧

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

→ 188 ページ「タイヤの点検」

タイヤサイズ		タイヤ空気圧		
		前輪	後輪	
175/65R14 82S	SKYACTIV-G 1.3		250 kPa (2.5 kgf/cm ²)	220 kPa (2.2 kgf/cm ²)
	MZR 1.3	マニュアルトランスミッション	230 kPa (2.3 kgf/cm ²)	210 kPa (2.1 kgf/cm ²)
		オートマチックトランス ミッション (4EC-AT 車)		
		オートマチックトランス ミッション (CVT 車)	250 kPa (2.5 kgf/cm ²)	220 kPa (2.2 kgf/cm ²)
MZR 1.5		230 kPa (2.3 kgf/cm ²)	210 kPa (2.1 kgf/cm ²)	
185/55R15 82V		220 kPa (2.2 kgf/cm ²)	200 kPa (2.0 kgf/cm ²)	
195/45R16 80W		220 kPa (2.2 kgf/cm ²)	200 kPa (2.0 kgf/cm ²)	

ブレーキディスク、ブレーキドラムの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値、ブレーキドラムの摩耗限度値、およびそれぞれの測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

設定変更 (カスタマイズ機能)

以下の機能の設定をマツダ販売店で変更することができます。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

機能	内容	初期設定	変更内容
オートライト機能	ヘッドランプが点灯するタイミングを変更できます。	標準 (通常の暗さ で点灯)	早く / 少し早く / 少し遅く / 遅く
クイックリフレッシュ機能	クイックリフレッシュ機能を作動しないようにできます。	ON	OFF
	クイックリフレッシュ機能作動時、窓枠からの開口幅を変更することができます。	30 mm	20 ~ 100 mm
アドバンストキーレスエントリー & スタートシステム	施錠 / 解錠時のチャイムの音量を変更できます。	音量小	OFF、音量 小～音量大
	警報音の音量を変更できます。	音量大	音量小
	アドバンストキー閉じ込み防止機能の作動条件を変更できます。 ^{*1}	常時作動	車内のみ アドバンス トキーがあ る場合に作 動
	アドバンストキーレス機能が作動しないようにできます。 ^{*1}	ON	OFF
インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージ	インテリジェント・ドライブ・マスター・ゲージの表示 / 非表示を選択できます。	表示	非表示

*1 MZR 1.3、MZR 1.5 のみ

A

ABS (アンチロックブレーキシステム).....	149
ABS 警告灯が点灯した	256

C

CVT フルード	
推奨フルード、容量	266

D

DSC (ダイナミックスタビリティコントロール).....	152
DSC OFF スイッチ	153
DSC OFF 表示灯	154
TCS/DSC 作動表示灯.....	153
作動表示灯が点灯した.....	260

E

EDR (イベントデータレコーダー)	73
--------------------------	----

I

i-stop (アイストップ).....	91
i-stop OFF スイッチ	96
i-stop 警告チャイム	96
i-stop 警告灯 (橙)/	
i-stop 表示灯 (緑).....	95
i-stop 警告灯 (橙) が点滅した	256
ディスプレイ表示	96
発進補助装置	98

S

SRS エアバッグシステム	63
EDR.....	73
エアバッグの種類	63
エアバッグの注意点	64
警告灯が点灯 / 点滅した.....	257

T

TCS (トラクションコントロールシステム).....	151
TCS/DSC 作動表示灯.....	151
作動表示灯が点灯した.....	260

ア

アドバンストキー.....	16
アドバンストキー車外持ち出し	
警報.....	251
アドバンストキー車内閉じ込み	
警報.....	251
エンジンをかけるとき.....	87
作動しないとき	246
作動範囲.....	20
電池交換.....	207
ドアの施錠 / 解錠	22
リクエストスイッチ不作動警報	251
アルミホイール	
手入れ.....	215
アンチロックブレーキシステム (ABS).....	149
警告灯が点灯した	256
アンテナ	172

イ

イグニッション (エンジン)	
キー.....	15
スイッチ.....	86
イベントデータレコーダー (EDR).....	73
イモビライザーシステム	60
セキュリティ表示灯が	
点灯 / 点滅した	261
イルミネーテッドエントリーシステム.....	173
インテリアライト (室内照明).....	173

イ

インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM).....	101
インナーミラー (ルームミラー).....	39

ウ

ウインカー (方向指示器)	
電球 (バルブ) 交換	199
レバー.....	142
W (ワット) 数	272
ウインドー	
クイックリフレッシュ機能.....	55
曇ったとき (フルオートエアコン).....	170
曇ったとき (マニュアルエアコン).....	168
手入れ.....	214
はさみ込み防止機構	55
パワーウインドー	54
リヤウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ.....	148
ウォッシャー	
ウォッシャー液の補充.....	191
ウォッシャースイッチ.....	143
タンク容量.....	268
冬にそなえて (濃度の調節).....	218

エ

エアクリナーエレメント	
交換時期.....	270
エアコン (空調)	
上手な使いかた	162
吹き出し口 (空調).....	164
フルオートエアコン	168
マニュアルエアコン	166
エアバッグシステム.....	63
EDR.....	73
エアバッグの種類	63
エアバッグの注意点	64
警告灯が点灯 / 点滅した.....	257
エンジン	
かけかた.....	86
キー.....	15
きるとき	90
スイッチ.....	85
エンジンオイル	
交換時期、推奨オイル、交換量	264
フィルター	266
冬にそなえて	218
油圧警告灯が点灯した.....	255
エンジン回転計 (タコメーター).....	105
エンジンフード (ボンネット)	
開けかた.....	183
閉めかた.....	184
エンスト (故障したとき).....	226

オ

オーディオリモートコントロール	
スイッチ	172
オートマチックトランスミッション	124
SS モード	
(Sports & Slope モード)	127
運転するときに	132
キックダウン	124
クリーブ現象	124
警告灯が点灯した	258
シフトロック装置	126
セレクトレバー	127
駐車するとき	132
ホールドモード	131
マニュアルモード	128
オートマチックトランスミッションフルード	
推奨フルード、容量	266
オーバーヒートしたとき	244
お子さまの安全	
お子さま専用シート選択の目安	49
お子さま専用シートについて	47
お子さま専用シートの種類	48
固定ロアアンカー	52
チャイルドシートを固定するとき	52
チャイルドブルーフ	26
オドメーター	106
オルタネーターベルト	
点検基準値	269

カ

外気温表示	109, 112
ガソリン (燃料)	
使用燃料、容量	264
燃料補給口	57
カップホルダー	175
ガラス	
曇ったとき	
(フルオートエアコン)	170
曇ったとき	
(マニュアルエアコン)	168
手入れ	214
リヤウインドーデフォッガー	
(曇り取り) スイッチ	148

キ

キー	15
KEY 警告灯 (赤) が	
点灯/点滅した	259
KEY 表示灯 (緑) が点滅した	260
アドバンストキー	16
アドバンストキーの電池交換	207
キーナンバープレート	15
作動範囲	20
リトラクタブルタイプキー	15
リトラクタブルタイプキーの	
電池交換	210
キックダウン	124
緊急用具	227

ク

空気圧 (タイヤ)	274
空調 (エアコン)	162
吹き出し口 (空調)	164
フルオートエアコン	168
マニュアルエアコン	166
曇り取り (デフォッガー) スイッチ	148

ク

クラクション (ホーン)	148
クラッチペダル	
点検基準値	269
クリーブ現象	124

ケ

警告灯	113
警告灯が点灯、点滅した	254
ABS 警告灯が点灯した	256
i-stop 警告灯 (橙) が点滅した	256
エアバッグ警告灯が	
点灯 / 点滅した	257
エンジン警告灯が	
点灯 / 点滅した	255
オートマチックトランスミッション	
警告灯が点灯した	258
KEY 警告灯 (赤) が	
点灯 / 点滅した	259
高水温警告灯 (赤) が	
点灯 / 点滅した	256
故障警告表示灯が点灯した	254
シートベルト警告灯が	
点灯 / 点滅した	113
充電警告灯が点灯した	255
電動パワーステアリング警告灯が	
点灯 / 点滅した	258
半ドア警告灯が点灯した	113
プリテンショナー警告灯が	
点灯 / 点滅した	257
ブレーキ警告灯が点灯した	254
ヘッドランプオートレベリング	
警告灯が点灯した	260
油圧警告灯が点灯した	255
4WD 警告灯が点灯した	257
4WD 警告灯が点滅した	258

ケ

警報音	251
i-stop 警告チャイム	96, 251
アドバンストキー車外持ち出し	
警報	251
アドバンストキー車内閉じ込み	
警報	251
エアバッグ / プリテンショナー	
警告チャイム	251
キー抜き忘れ防止チャイム	251
シートベルト着用忘れチャイム	251
スタートノブもどし忘れ警報	251
ランプ消し忘れ防止チャイム	251
リクエストスイッチ不作動警報	251
化粧鏡 (バニティミラー)	173
けん引	247

コ

交換	
タイヤの位置交換	
(タイヤローテーション)	192
電球 (バルブ) 交換	199
電池交換 (アドバンストキー)	207
電池交換	
(リトラクタプルタイプキー)	210
ヒューズの交換	197
工具	228
後退灯 (バックランプ)	
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
故障警告表示灯	
点灯した	254

サ

サービステータ	
設定変更 (カスタマイズ機能)	275
サイドブレーキ	
(パーキングブレーキ)	136
サイドミラー (ドアミラー)	37
サンバイザー	173

シ

シート	
正しい運転姿勢	30
フロントシート	31
ヘッドレスト	34
リヤシート	32
シートベルト	
ELR (緊急時固定) 機構	40
3点式シートベルト	45
シートベルト警告灯	113
種類	40
高さ調整	46
正しい着用のしかた	41
着用忘れチャイム	45
手入れ	216
プリテンショナー機構	41
ロードリミッター機構	41
室内照明	173
イルミネーテッドエントリー	
システム	173
ラゲッジルームランプ	174
ルームランプ	174
室内灯 (ルームランプ)	
スイッチ	174
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
ジャッキ	229

シ

車幅灯 (スモールランプ)	
スイッチ	139
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
収納	176
センターコンソールトレイ	177
マガジンラック付グローブ	
ボックス	177
リヤコートフック	178

ス

スイッチ	
DSC OFF スイッチ	153
i-stop OFF スイッチ	96
SS モードスイッチ	127
ウォッシャースイッチ	143
オーディオリモートコントロール	
スイッチ	172
ステアリングシフトスイッチ	128
非常点滅灯スイッチ	143
フォグランプスイッチ	143
ヘッドランプスイッチ	139
ホールドスイッチ	131
4WD スイッチ	137
ルームランプスイッチ	174
ワイパースイッチ	143
スタックしたとき	225
ステアリング (ハンドル)	36
ロックされたとき	85
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
スノータイヤ	219
スパークプラグ	271
スピードメーター	105

ス

スモールランプ (車幅灯)	
スイッチ	139
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272

セ

制動灯 (ストップランプ)	
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
セレクトレバー	127
洗車	212
前照灯 (ヘッドランプ)	
スイッチ	139
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
センターコンソールトレイ	177

ソ

速度計 (スピードメーター)	105
----------------------	-----

タ

ターンシグナル (方向指示器)	
電球 (バルブ) 交換	199
レバー	142
W (ワット) 数	272
ダイナミックスタビリティコントロール (DSC)	152
DSC OFF スイッチ	153
DSC OFF 表示灯	154
TCS/DSC 作動表示灯	153
作動表示灯が点灯した	260

タ

タイヤ	
空気圧	274
サイズ	273
チェーン	219
点検	188
パンク応急修理キット	233
パンクしたとき	233
冬にそなえて	219
ローテーション (位置交換)	192
タコメーター	105
脱輪などで動けなくなったとき	226

チ

チェーン (タイヤチェーン)	219
チェンジレバー	124
チャイルドシート	
お子さま専用シート選択の目安	49
お子さま専用シートの種類	48
固定ロアアンカー	52
チャイルドシートを固定するとき	52
チャイルドプルーフ	26
駐車するとき	
オートマチック車	132
駐車ブレーキ (パーキングブレーキ)	
警告灯	254
操作方法	136
点検基準値	269
チルトステアリング	36

テ

定期点検	182
ディスチャージヘッドランプ	142
ディファレンシャルオイル 推奨オイル、容量	267
手入れ	
アルミホイール	215
外装	212
外装樹脂部品	215
ガラス	214
革張り部分	217
シートベルト	216
樹脂部品	217
洗車	212
内装	216
布張り部分	217
撥水加工ガラス/ミラー	214
フロントガラスの油膜を とるとき	214
ミラー	214
ワックスがけ	213
テールランプ (尾灯)	
スイッチ	139
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
電球	
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
点検整備について	181
電源ソケット	174
電源ポジション	85
電動格納ミラー (ドアミラー)	37
電動ミラー (ドアミラー)	37

ト

ドア	21
チャイルドプルーフ	26
ドアミラー	37
パワードアロック	25
半ドア警告灯	113
リヤゲート	27
ドアミラー	37
角度調節	37
格納	37
曇り取り	148
盗難防止システム	60
トラクションコントロールシステム (TCS)	151
TCS/DSC 作動表示灯	151
作動表示灯が点灯した	260
トリップコンピューター	109
トリップメーター	106

ナ

夏にそなえて	221
ナンバープレートランプ (番号灯)	
スイッチ	139
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272

ニ

荷室を作るとき	32
日常点検	183, 185

ネ

燃料	
給油するとき	57
使用燃料、容量	264
燃料計	107

ハ

パーキングブレーキ	
操作方法	136
点検基準値	269
ハイビーム (ヘッドランプ上向き)	
切り替え	140
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
ハイマウントストップランプ	
W (ワット) 数	272
ハザードランプ (非常点滅灯)	
スイッチ	143
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
はさみ込み防止機構	55
発炎筒	227
バックミラー (ルームミラー)	39
パッシング合図	140
撥水加工ガラス / ミラー	214
バッテリー	
あがったとき	241
型式、容量	271
点検	191
冬にそなえて	218
パニティミラー (化粧鏡)	173
パネルライトコントロールスイッチ	111
バルブ (電球)	
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
パワーウインドー	54
パワーステアリング	
警告灯が点灯 / 点滅した	258
パワードアロック	25
番号灯 (ナンバープレートランプ)	
スイッチ	139
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272

ハ

ハンドル	36
------	----

ヒ

非常点滅灯	
スイッチ	143
電球 (バルブ) 交換	199
点滅が速くなった	260
W (ワット) 数	272
尾灯 (テールランプ)	
スイッチ	139
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
ヒューズ	193, 197
エンジンルーム内ヒューズ	
ボックス	194
室内ヒューズボックス	193
表示灯	113
DSC OFF 表示灯	154
SS モード表示灯	127
TCS/DSC 作動表示灯	151, 153
ホールドモード表示灯	131
マニュアルモード表示灯	128
4WD 表示灯	138
ヒルローンチアシスト	150

フ

ブースターケーブルのつなぎ方	242
フォグランプ	
スイッチ	143
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
吹き出し口 (空調)	164
フック (けん引)	247
踏切内で動けなくなったとき	226
フューエルキャップ	59
フューエルリッド (燃料補給口)	59

フ

冬にそなえて	218
冬用タイヤ (スノータイヤ)	219
ブレーキ	136
警告灯が点灯した	254
ブレーキ液 (フルード)	
交換時期、推奨液	267
ブレーキペダル	
点検基準値	269
ブレーキランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) 交換	199
W (ワット) 数	272
フロントシート	31

へ

ヘッドランプ (前照灯)	
切り替え	140
スイッチ	139
ディスチャージヘッドランプ	142
電球 (バルブ) 交換	199
パッシング合図	140
レベリング	141
W (ワット) 数	272
ヘッドレスト	34

ホ

ホイール	
サイズ	273
手入れ	215
方向指示器	
電球 (バルブ) 交換	199
方向指示灯の点滅が速くなった	260
レバー	142
W (ワット) 数	272

ホ

ホールドモード	
スイッチ	131
表示灯	131
表示灯が点滅した	261
ホーン	148
ボトルホルダー	176
ボンネット	183

マ

マガジンラック付グローブボックス	177
マニュアルトランスミッション	124
マニュアルトランスミッション	
オイル	266

ミ

ミラー	
手入れ	214
ドアミラー	37
バニティミラー	173
ルームミラー	39

メ

メーター	100
インテリジェント・ドライブ・	
マスター (i-DM)	101
オドメーター	106
外気温表示	112
スピードメーター	105
タコメーター	105
トリップコンピューター	109
トリップメーター	106
燃料計	107
パネルライトコントロール	
スイッチ	111

ヤ

ヨ

4WD.....	137
警告灯が点灯した.....	257
警告灯が点滅した.....	258
スイッチ.....	137
表示灯.....	138

ラ

ライセンスプレートランプ (番号灯)	
電球 (バルブ) 交換.....	199
W (ワット) 数.....	272
ラゲッジルームランプ.....	174
ランプ	
消し忘れ防止チャイム.....	251
スイッチ.....	139
電球 (バルブ) 交換.....	199
点灯しないとき.....	197
レベリング.....	141
W (ワット) 数.....	272

リ

リトラクタブルタイプキー.....	15
電池交換.....	210
ドアの施錠 / 解錠.....	24
リヤウインドーデフォグガー	
(曇り取り) スイッチ.....	148
リヤゲート.....	27
開けかた.....	28
開けられなくなったとき.....	262
閉めかた.....	28
リヤコートフック.....	178
リヤシート.....	32
リヤワイパー.....	147

ル

ルームミラー.....	39
ルームランプ.....	174
スイッチ.....	174
電球 (バルブ) 交換.....	199
W (ワット) 数.....	272

レ

冷却水	
交換時期、推奨液、容量.....	267
低水温表示灯 (青) が	
点灯し続ける.....	261
冬にそなえて (濃度の調節).....	218

ロ

路上で動けなくなったとき.....	224
-------------------	-----

ワ

ワイパー	
寒冷地用ワイパーブレード.....	219
スイッチ.....	143
フロント.....	144
リヤ.....	147
ワックスがけ.....	213

お問い合わせ、ご相談はお近くのマツダ販売店または、
下記へお願いいたします。

マツダ(株)コールセンター
全国共通フリーダイヤル

 0120-386-919

受付時間

平日 9:00~17:00

土・日・祝日 9:00~12:00 13:00~17:00

携帯電話からご利用になれます。

弊社における個人情報の取扱いは、
弊社ウェブサイトに掲載しています。
(<http://www.mazda.co.jp>)

発行元 **マツダ株式会社**

〒730-8670 広島県安芸郡府中町新地 3-1

発行 2012年5月

印刷 2012年5月

285頁 初版